大正十一年一月廿七日印刷納本大正七年十一月二十五日第三種郵便物認可
大正十一年二月一日發行(毎月一回一日發行)

處女の友

5巻2号

第五巻　二月　第二號

處女會中央部發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

足許の一致

いろいろの足の恰好は福助白朱子足袋に依つて美しく優しく品よく淑やかに一定されます。御婦人にとつては唯一のお足許の寶!

名實共に日本一

福助朱子足袋

主婦

は讀むべし

臺所に無くてならぬ品

お使ひ遊したら……キット

■大變お美味しかつた…

■非常に便利である！

■全く他の調味料よりも德である、と

思召すに違ひありません

原料は小麥の蛋白質

味の素

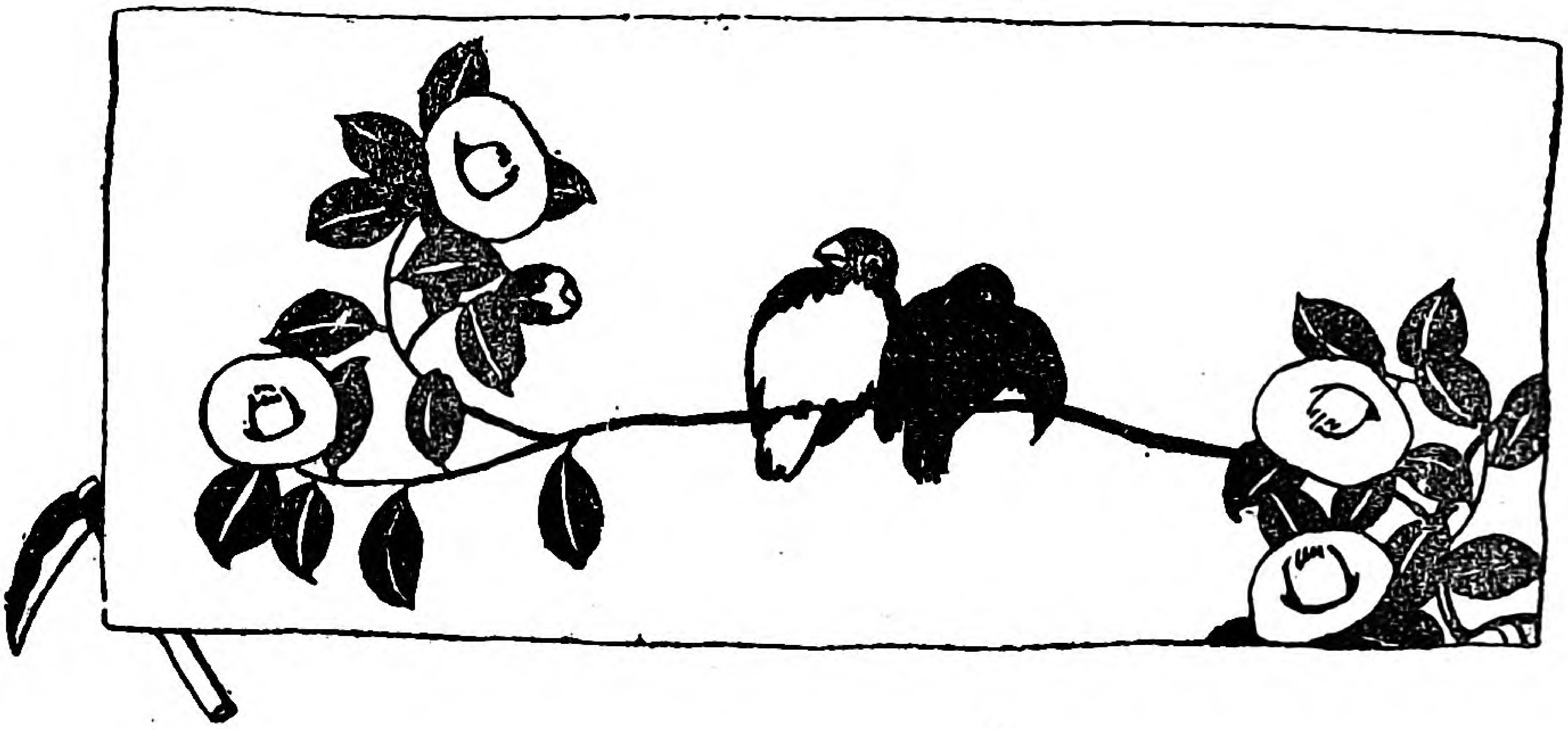
處女の友 大正十一年二月號 目次

○口繪
藤男君の郷里及其附近の地圖
藤男君の生ひ立ち
自宅の庭園に於ける藤男君と父君
天野藤男氏

◉記　事◉

▽巻頭（追悼號發刊の辭）……一
▽天野藤男君の死を前にして……二
▽天野藤男君を憶ふ……一二
○藤男君のふるさと……一二
○學校時代の藤男君……一七
○活動時代の藤男君……二二
○多情多恨の藤男君……二七
○趣味の人藤男君……三五
○使命を自覺した藤男君……四一
▽先輩知友の見たる藤男君……四四
○日本の青年と處女　山本瀧之助
○同じ下宿で　佐藤博園
○天野藤男君を憶ふ　影山勝
○私の追想する天野君　三輪田元道

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN



▽清子夫人の見たる藤男君……六三
○熱情の人　福島四郎
○思ひ出　吉川民子
○花さくをも待たで　跡見李子
○優しひ中に意志の強い方　山脇房子
○處女會と生死を共にして　吉岡彌生
○尚生きて何ものかを語らる　嘉悦孝子
▽年譜……六六
▽葬儀の日に(弔辭)……處女會中央部　國府種徳　田子一民　六七
▽私の見たる天野藤男氏……七一
○御病床に見舞つて　永田稠
○講習中にも心を痛めて　和田鑑千代
○玲瓏玉の如き御人格　吉原はつ子
○天野先生に追從の記　島田敬三
○打ちとけての物語り　竹腰よさ枝
○會の記錄は談の種　千年村處女會
○天國をつくらんために　橫山きつ子
○社會奉仕の戰士　齋藤熊雄
▽熱誠に動かされて……松崎ひろの……七六
▽短文題(天野先生の思ひ出)……七九
▽和　歌(天野氏をしのびて)……八〇
▽俳　句(天野氏をしのびて)……八〇
▽新體詩(天野氏をしのびて)……八一
▽誌友より……八二
▽編輯を終へて……堀尾金八郎……八六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

文學博士　芳賀矢一校閲

前內務省囑託
前處女會中央部理事　天野藤男著

（忽四版）

大正處女新讀本

内容見本進呈

和綴菊版　全二冊（上卷）（下卷）　各冊定價金六拾五錢　各書留送料金拾壹錢

歐洲大戰後國內萬般改造改良或は覺醒に伴ひ處女會婦女會の發達普及實に驚くべく到る處此種用書の發行を熱望して止まず處女會中央部理事として專ら教化指導の任に當れる著者は處女教養の理想に適合すべき良教科書のなきを遺憾となし自ら實地教養上に得たる經驗に基き數年間親しく處女の心理趣味を研究透察し材を內外各方面に採り苦心洗練の結果漸く本書の刊行を見るに至れり、加之斯界の權威芳賀博士の懇篤なる校閲を經たるものなれば小學校女子補習教育並に一般處女教養上將に理想的の良教科書たるは言を俟たず本書出でて初めて現下處女教養上の渴望を滿たすと共に國家公民の品性向上に多大の稗益あるべきを信ず。

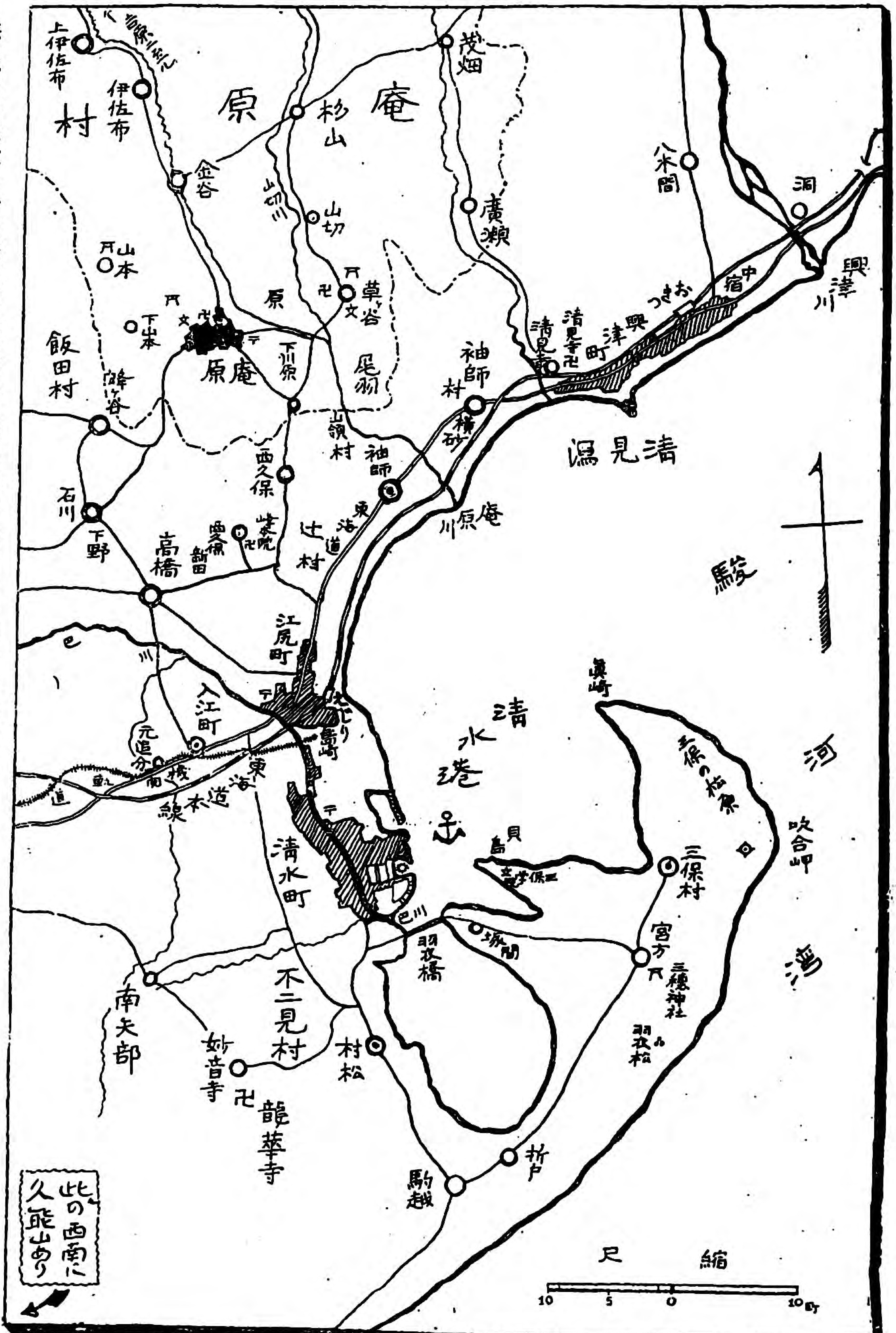
本書は處女教養の絕好指針にして小學校女子補習科の模範的唯一の良教科書なり

東京日本橋通壹丁目角　振替口座東京二三八番　電話本局二四〇四・四一四・一五〇二番

大倉書店發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

故天野藤男氏生家附近の圖



庵原村の内字草ヶ谷は天野氏の郷里、其の側の卍印は遺骨を埋葬せる大乘寺、开印は幼時より親しみ深き氏神社、文印は幼時通學せし小學校其の他附近の山切川より興津、清見寺、江尻、三保ノ松原、龍華寺、久能山等

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

天野藤男氏の生ひ立ち

中學二年の藤男氏（十六歳）

上京一年後の藤男氏（廿六歳）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

○御註文の節は處女の友の廣告に據る旨御書添へを乞ふ○

大正處女新讀本上卷目次

一 御聖德
二 日章旗
三 社會の組織
四 眞のお母さん
五 風流の心
六 神社とお祭りに就いて
七 田植する女學校
八 處女と貯金
九 田舍の十二ヶ月
一〇 義理と禮儀
一一 流行について
一二 打ち解けよ
一三 手向草
一四 感心なおときの話（其ノ一）
一五 感心なおときの話（其ノ二）
一六 春雨
一七 燈臺守
一八 私の村の處女會
一九 野の幸
二〇 加賀の千代女
二一 親ごゝろ（上）
二二 親ごゝろ（下）
二三 電氣世界（其ノ一）
二四 電氣世界（其ノ二）
二五 姑の機嫌を直した話
二六 田園生活
　一 月夜の花嫁
　二 雛祭
　三 炬燵
　四 愛馬「黑毛」
二七 道歌
二八 詞遣ひ
二九 嫁入前の娘へ

大正處女新讀本下卷目次

一 御聖德
二 女子と同情
三 家族
四 强く優しくまじめに働け
五 夕べのいのり
六 留守の妻より戰地の夫へ
七 地方風俗の改良
八 花とり／＼
九 この姉この弟
一〇 俳句の感興
一一 加納子爵と田植娘
一二 きがらくな節
一三 婦人會員の東京見學
一四 工場にゐる婦人へ
一五 脛一本の獻上
一六 明治神宮
一七 故郷
一八 衆議院議員の選擧
一九 禁酒のすゝめ
二〇 農人形
二一 田園生活
　一 大根ひき
　二 籾すり
　三 稻刈
二二 二宮尊德の妻（其ノ一）
二三 二宮尊德の妻（其ノ二）
二四 海女の作業を見る記
二五 大正新三猿
二六 俳句
二七 蒔かぬ種子は生えぬ
二八 馬鈴薯
二九 笑つて暮らせ

東京日本橋通壹丁目角
振替口座東京二三八番
電話本局二四〇四・四一四・一五〇二番

大倉書店發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

絞り染は

貴女の家庭を經濟にし、
貴女の家庭を平和にし、
貴女の氣品を高むる
家庭必須の技藝であります

主なる營業品目

豆奴印 家庭染料各種
同 特許絞り器具一切
同 和洋洗濯器具、石鹼、糊劑
同 特許金銀砂子箔各種
同 其他女子工藝材料

美しき弊社の營業品目錄御申越し次第進呈致します

家庭絞り染は實益、趣味、簡易、經濟的技藝として至る處に歡迎されて居ります、殊に各地の婦人會其他

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

色々の婦人團體では會の事業として奬勵し且つ會員の藝術的感念を高むる一法として望外の賞賛を受けて居ります。

◆右の技藝講習御希望の御方には規則書申越次第進呈致します。尚、學校、婦人會、處女會其他婦人團體等の講習申込には講師出張親しく教授の法もあります

絞り染の元祖

株式會社　桐山商店

大阪店、大阪市南區鹽町通堺筋東入
電話船場二五六〇 三五二八番
振替大阪第二六五二番

東京店、東京市麹町區富士見町二ノ三二
電話九段一九九四番
振替東京第三四六一三番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

家庭……のために！

色白くなる

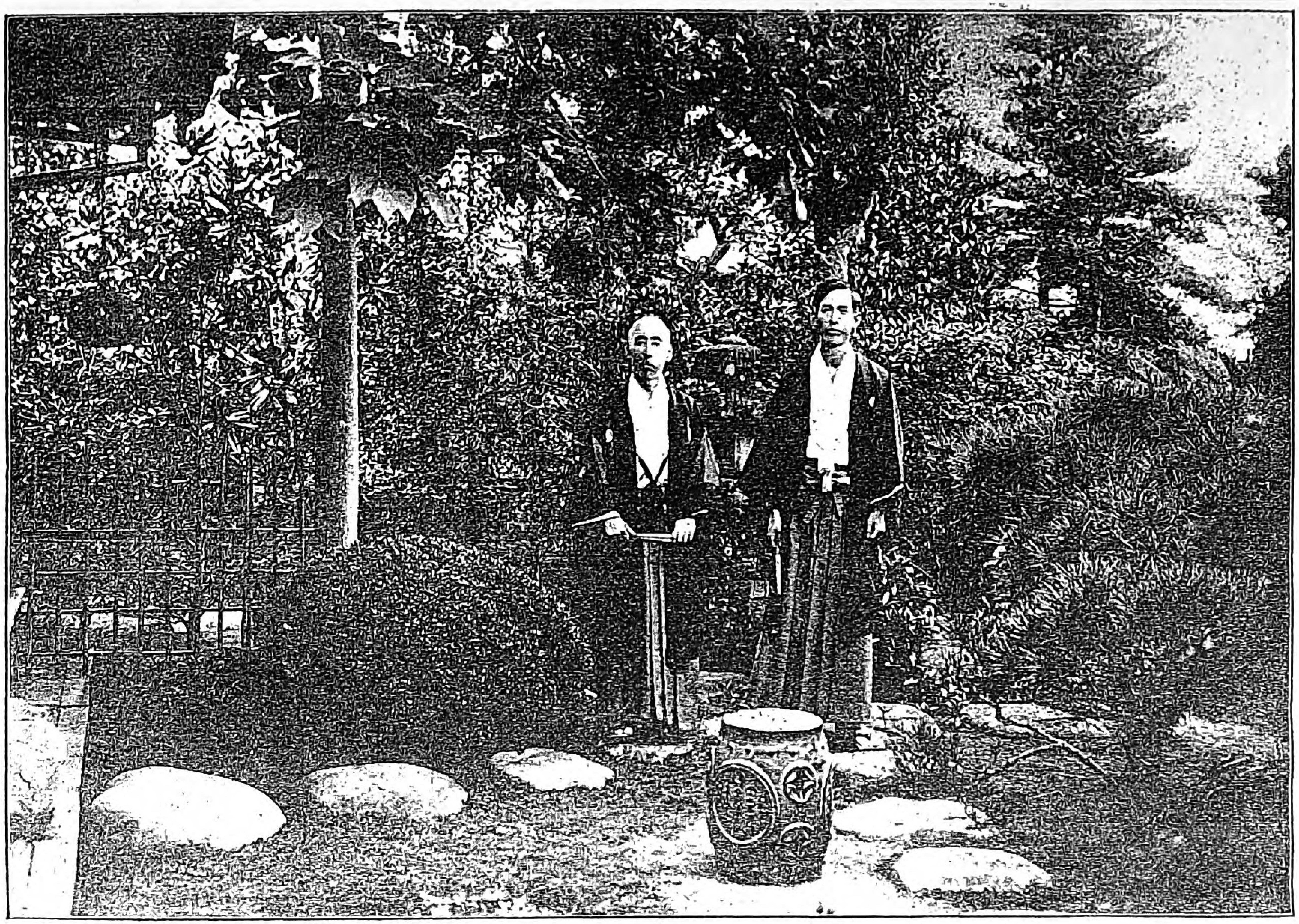
ハータ過酸化(カサンカ)石鹸

過酸化水素應用の化粧石鹸です

（全國化粧品店及藥店ニアリ）

發賣元 東京室町 泰昌製藥株式會社

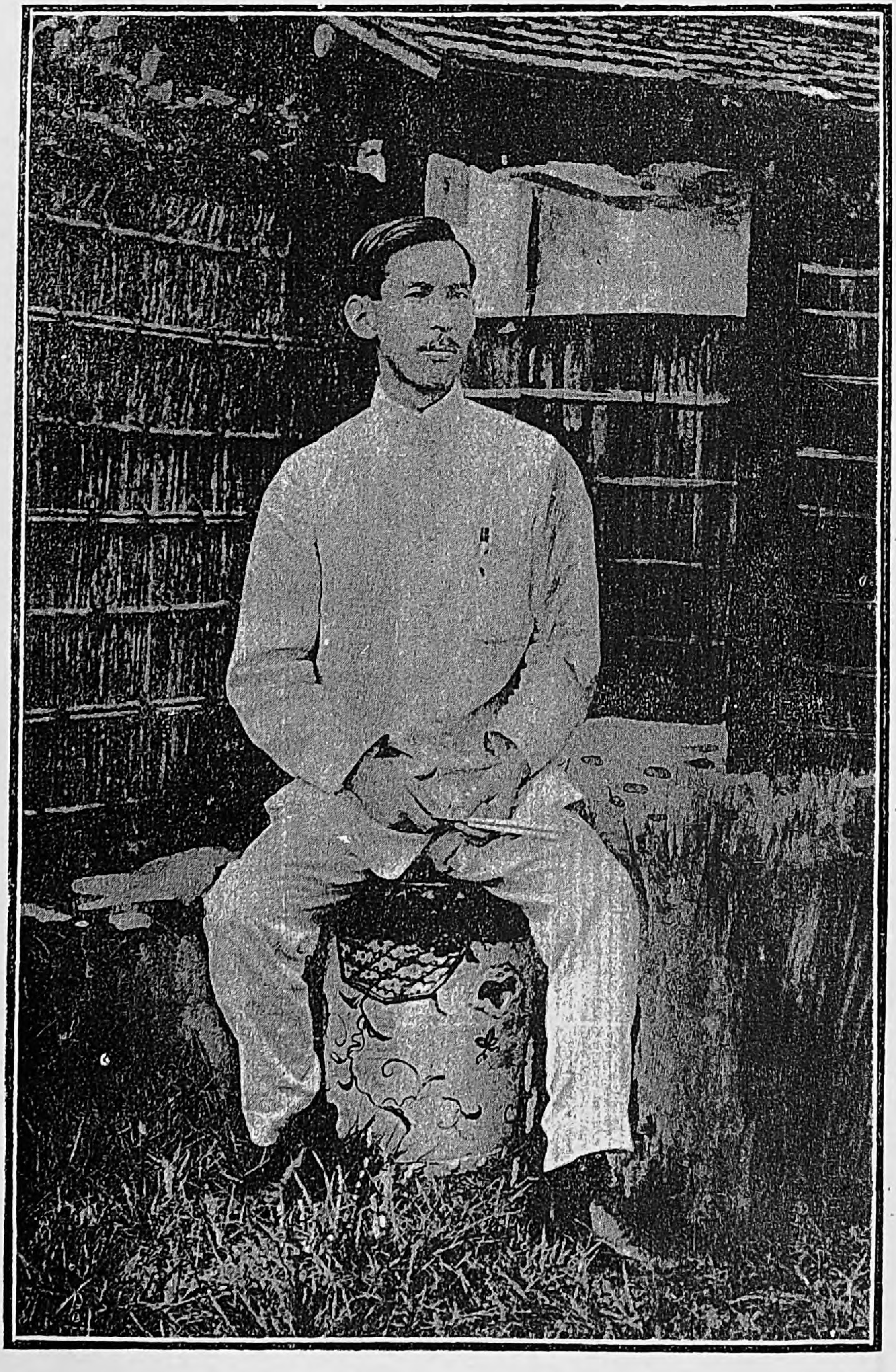
關西代理店 大阪道修町 武田長兵衛商店



故郷の邸園に於ける天野氏と父君(大正六年)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

三重縣講演先にて（大正八年）



天野藤男氏（三十三歳）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

簞笥、長持
御婚禮用具
調製

東京市内製造業者直營

中央簞笥工販賣所

電話浅草三〇三四番

弊所は淺草駒形町停留所前にて電車（乘り降り）も御便利に御座候觀音へ御參詣之節は御買上の有無に拘はらず是非〳〵當陳列所へ御立寄被下製造品各種御高覽の上にて他店製品と比較御高評を願上候

但御注文品市内無料配達いたします

地方へ御送品類は入念荷作りいたします

荷造及送賃は實費申受けます

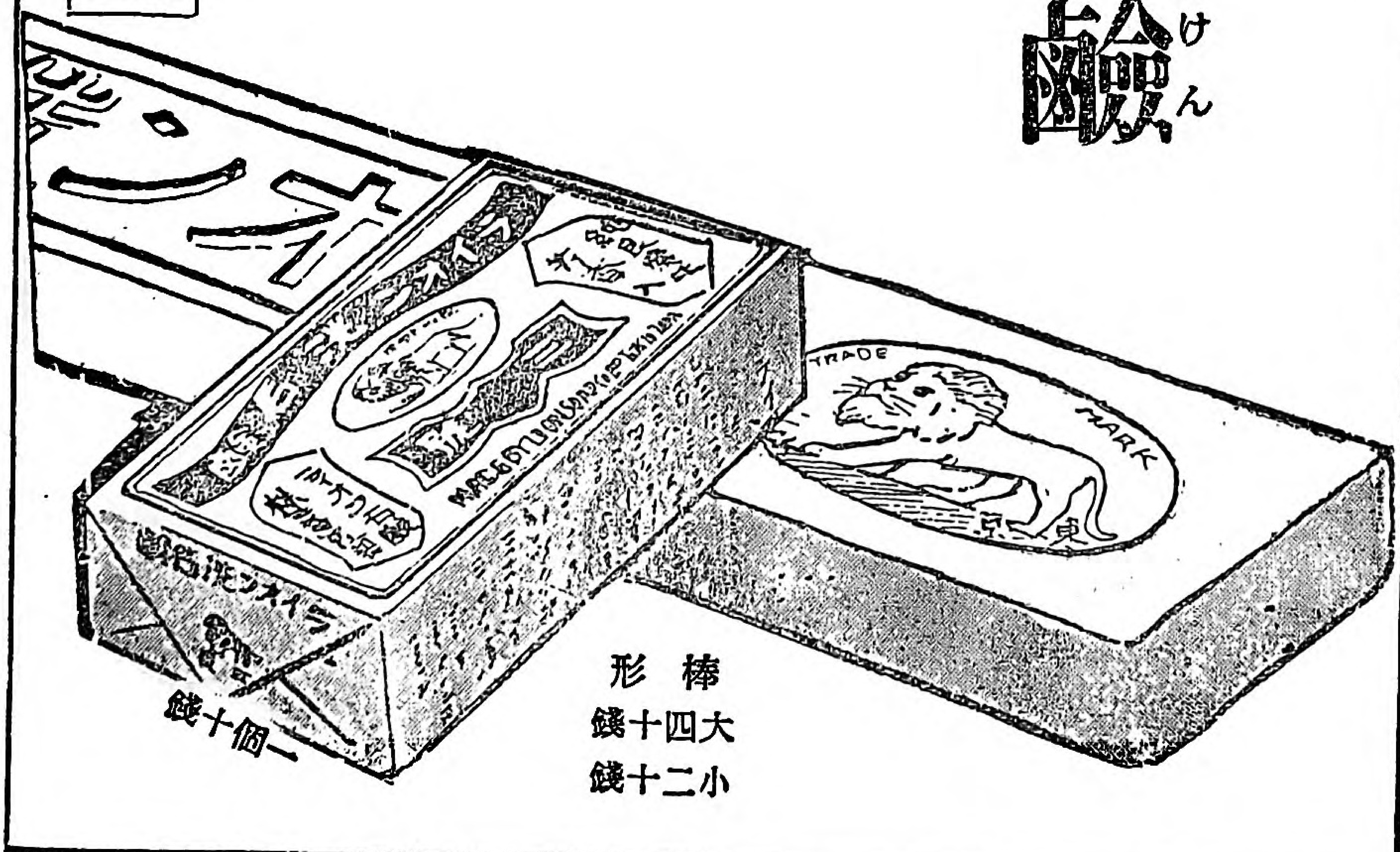
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ライオン洗石鹸

泡立よく

垢落が早うございますから、お洗濯を捗らせること驚くばかりです。且つ布地も傷めず、手も荒らさず、減りも遲うございますから、是程使ひよい、お徳用な石鹸はございません。

ライオン石鹸株式會社
東京市本所區向島須崎町
日本橋區馬喰町一ノ廾
小賣部



一個十錢

棒形
大四十錢
小二十錢

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

習字初學ちかみち

第二回新學期

總裁　小野鵞堂　顧問　大家數名　會長　神郡晩秋

かな專習講義錄

附錄　漢字くづし方　楷書手ほどき　【見本申込次第進呈】

六ケ月卒業

東京四谷左門町十　大日本かな專習會

內務省囑託　天野藤男著

親愛なる農村青年へ

定價八十錢　送料六錢

好評嘖々既に十二版を重ぬ地方青年にとりては唯一の指針盤たり敢て之を奬む

東京市本郷元町　丙辰出版社

振替東京三三三〇〇番

賜　天覽　台覽

天野藤男著　內務文部兩大臣其他序

定價二圓五十錢　送料十二錢

指導經營研究實績

青年團處女會

◉好評六版◉

一著者が多年の苦心になれる著述にして青年會處女會の好參考書一

東京本郷元町二丁目　振替東京三三三〇〇番

丙辰出版社

故天野藤男君記念事業基金募集

故天野藤男君は夙に青年團の爲め殊に處女會の爲に貢獻せられ其の事蹟に　皇后陛下の令聞に達した位であります。然るに不幸同君は未だ處女會が健全なる發達を遂ぐるまでに至らぬ中に此の世を去られたのは洵に遺憾とする所であります。玆に吾等同志相謀り左記の方法に依りて故人の肖像畫を作り一を郷里の小學校に寄贈し一を處女會中央部に贈り永く同君の記念と致たいのであります。幸に御贊成の諸君は御申込を下されますやう願上ます。

發起人

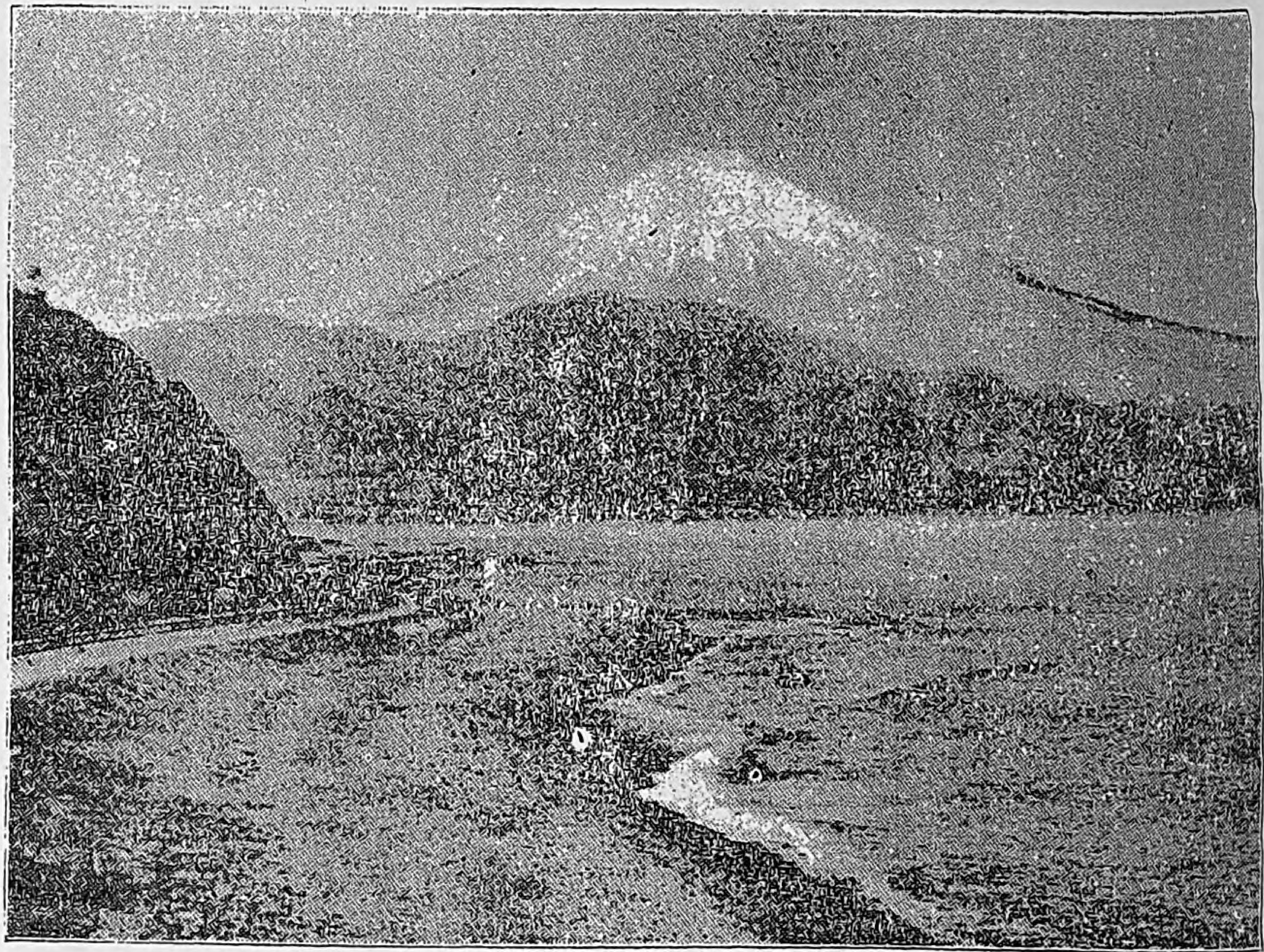
國府種德　青木庄藏　山脇房子　乘杉嘉壽　吉岡彌生　相田良雄
嘉悦孝子　福島四郎　田所楠猪　基督教青年會同盟本部　山田兼吉

贊成員（イロハ順）

今井兼寛　五十嵐鐵三郎　石原雅二郎　井上一　井上貫三　伊藤隆祐
伊藤良藏　池田清　留岡幸助　大森鐘一　小田直藏　岡村準一
近江匡男　田子一民　田中廣太郎　玉井廣平　田鎖一　生江孝之
長尾半平　中村英雄　村田宇一郎　上野他七郎　山本瀧之助　矢田增次郎
牧野虎次　福原誠三郎　二荒芳德　麻生正藏　齋藤樹　佐藤久助
座間止水　南弘　下村壽一　近藤行太郎　大越小次郎

一、豫算は約千圓とし其の收支は發起人に御一任せられたき事
一、記念品の作製等は發起人に御一任せられたき事
一、御出金額は一人金壹圓以上とし故天野藤男君記念事業基金募集發起人（東京市神田區美土代町三ノ十四山田兼吉）（振替東京四二四一四番）宛至急御送金を願たき事
一、結了の上は斯民、帝國青年、處女之友、親友等にて報告可致事

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



（薩陀峠及富士山の眺望）

追悼號發刊の辭

天野君逝て玆に五閲月、君が處女會中央部の爲に盡した事は至大であり、地方青年處女の爲に盡した事は尠くない、樗牛逝いて樗牛會が起り、啄木死して啄木會が出來たやうに、白雲去て白雲會が起るや否は別として、故人の功績を思ふの情轉た切なるものあり、依つて君の靈を慰めんとするの微衷を誌上に發表した、爾來僅に二閲月、其の間或はまのあたり君に接し、或は君の文章を讀んで動かされた人々に其の感想を問ひ、或は君の先輩故舊に訊し、又君の遺稿を探り、本稿を纏むる事とした。

如何にせん時日の不足せるが爲め充分の材料を得ざる爲め遺憾の點不尠、猶又材料の取捨撰擇等に付き而も寄稿者及び讀者に背くことの多からんことは偏に寛恕せられん事を請ふて止まない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

天野藤男君の死を前にして

人の心

何が不思議だと言つても人間の心ほど不思議のものはない、同し心でも色々と考へが變り、同しものでも考へ方に依つては善くもなり惡くもなる、眉毛などに一本か二本の特別に長いのがあると長壽の相だといつて珍重するが、これは長い毛と長生きと音が似通つて居るからです、昔或る所に一人の有福な老人がありました、其の人の咽に二三本長い毛が生へて居たので、長壽の相だと得意がつて居ました、所がどうした間違ひか床屋が夫れを剃り落したから大變、老人はひどく塞ぎ込んで了ひました、頓智のある男が夫れを聞いて老人を見舞ひ、『お目出度いお祝ひを申上げます』と言ひますと、老人はむつとして『戯言いつちやあいけない、目出度い處か實に塞ぎ切つて居るのだ』と答へました、男は『何故です』と眞顏になつて『こんなお目出度い事はありやしません、長い毛を剃る、長生きをする貴老の長生はこれで保證されました、今迄は長い毛（長生き）丈でするのか仕ないのか判らなかつたが愈々これで長生きするといふ事が保證されたので、こんなお目出度いことはありません』と申しますと老人は俄に愁眉を開き破顏一笑大に悦に入つたさうです、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

これは誠に面白い話で人は幾つになつても生命を惜むといふことが起つて來ます、處が動物學者の研究に依つて

御弊を擔く

緣起をいふといふ事を示して居ます、人が甚く緣起をいつて死を嫌ふ所からシといふ音を忌み之を避ける樣にして居ます『生者必滅、會者定離』とは佛敎の說く處で、生ある者は必ず死すことは何人も承知して居る所ですが、どうも人は生に執着しすぎる、執着とは文字の通り執着く意で、平たく申せば嚙り付て放さない此の生命が惜いと思ふ氣分、生に執着する處から色々の迷ひが起るから、佛敎の敎義は此から出發します、もつと深い奧義はありますがまあざつと申せばこんなわけであります、

凡そ生きとし生けるもの誰かは生を惜まざるといつた樣な譯で、生を天地の間に禀けて居るものは何んな小いものでも生き存へやうとする、併し此の生命には限りがある、卽ち生きて居るものは必ず死ぬに極まつて居る、夫れが生者必滅で生に執着して居てはならぬ

不死の生物がある

といふことが判つて來た、夫れはアミーバの樣な下等の動物に就ての事で、アミーバは一つの身體が二つに割れ、四つになり八つに分れて何時まで經つても果しがない、斯うなるとどれが親だか子だか一向判らなくなる、こんな場合には生者必滅は眞理でなくなりますが、お釋迦樣はまだ顯微鏡の發明のない時代にお生れになつたのだから、アミーバの事は御承知がなかつたのでせう、然るに私共が夫れを受け賣りして、生者必滅は永久の眞理だなどと申すのは、甚だ不都合の樣ですが、私共の日常生活はそんな事を一々斷つては居りません、夫れでも大した不都合は起りませぬ、

私共は夏は暑いもの冬は寒いものと、言はぬ先きからちやんと極めて居るが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

夏は寒いもの

冬は暑いものと極め込んで居る人も、南半球には澤山ありませう、さうかと思ふと布哇あたりの様に四季の變化といふ事を知らない人は、何だか譯の分らぬことを言ひ爭つて居るものだと思ふのでせう、

話が大分横道に外れたが元へ戻つて、私共の肉眼で見へる様な生物、といつては少く過ぎますがまあ大體に於て生あるものは必ず死ありといつて差支へはありません、特に人間の様な高等の動物になつては此の法則を裏切ることはない、だから人は早晩死ぬものとして覺悟しなければならぬ、所がどうも死にたくない夫れが人間の情で、出來るなら死を免れたいといふのは男女老少の別はない、決して秦の始皇帝ばかりでもなければ淀君のみではない。

言葉の上から來る誤解もあれば假定の上から來る間違ひもある、金屬の中で黄金が一番貴いものだといふは人が定めた迄で、先天的に黄金が鐵より貴いといふ様な道理はありません、然るに黄金を飲めば不死の生命が得られる様に考へ、頻りに黄金を液體にしやうと工夫した西洋人もあれば、小判を鐵瓶の中で煎じて藥にした日本人もあつた、これは維新前まで行はれた事實で虚言ではありません、又丹砂化して黄金となすべしといつて頻りに錬金術を研究した支那人もあれば、人間が病氣になれば熱が出る、熱のある時には尿が黄くなる、蓋しこれは人體中の黄金が尿と一緒に出るからであらう、萬物の靈長たる人間の事であるから

人間の尿の中から黄金がとれる

に相違ないといつて、尿の研究に沒頭した學者もあつた、今日でさへ總ての物から銀が取れると主張して居る人もあれば、夫れを本氣に研究して居る學者もあることだから、尿の中から黄金が出ないとも限らないが、今日迄の處では尿の中から出たのは黄金ではなくて燐であつた、又尿の研究から發見した尿素が、今日の有機化學を發達させる上に非常に功績のあつたことを思

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ふと、長生不老の仙藥を求める爲に努力した結果は、思はぬ方面に其の効果を顯したものといふべきであります。

古今東西何れの人も不死の藥があるなら欲しいといふ情は變りがなく、死ぬのは止むを得ないとしても、せめては長壽を得たいといふ心も變りはありません、此の人情の弱點に付け込んで種々の賣藥も出來て居るやうですが、出來るなら否どうしても死を避けたいといふ氣分は、何んな動物にも本能的に存在して居るものでこの

死を怖れる氣分

には老幼の區別はないが、青年よりも老人の方に甚しいのは事實である、貧の苦みと孤獨の淋しさから自殺する老人も無いではないが、妙齡の女子が些末の事情の爲に自殺するのも著しい事實です、吉良上野が炭部屋に逃げ込んでまで死耻を曝したのは、彼が怯懦なのにもよるが、生に對する執着が如何に強いかを示すもので、長い毛を剃つた老人の嘆きを思ひ合すと一層鮮かになつて來る、

前に申した通り執着は噛り着いて放さないといふ氣分ですが、守錢奴といはれる樣なしみつたれの握り屋は、金錢に對する執着が最も強いので、時には生命よりも金錢を大切にすることがあります、遠い昔の例をとればポンペイの市街が火山の灰で埋められたのは千數百年前の昔であるが、爾來全く姿を隱し何所に在るか皆目分らなかつた、所が十九世紀になつて偶然のことから堀り出す機會が出來、今日では全部堀り起されて立派に舊都を顯して居る、其の發堀の際面白い物が見付かつた、夫れは一人の男が

金嚢を握つた儘の化石

になつて居るので『それ火山が爆發した、灰が降つて來たそれ速く逃げろ』と言ひも敢へず皆が飛び出した其の時此の男は金嚢を握つて逃げ出さうとしたが、時既に遲く灰に包まれて了つた、勿論始は人の身體であ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

つたが、長い間には消えて無くなる、其の空洞になつた所へ雨水が少しつゝ滲み込み、水と一緒に細い灰が流れ込んで自然に肖像が出來て了つた、卽ち立派な化石です、さあ斯うなると此の男は石となつて醜を千秋萬歳に遺す譯でありますが、同じ石でも松浦佐用姫は夫を慕ふ日本の女性美を顯して居て全く趣が違ふ、所が夫れに似たのも出た、愛しい幼な兒を抱いた儘斃れた母子の化石で、これは愛の女神たる母の純眞の情が現れて居ます、前者は金錢に對する執着心がありありと讀まれるのに反し、後者は愛の權化といふ外何も見えて居ませぬ。こんな化石の出來たのは

造化の戲れ

とでも申しませうか、天の人に降した戒めとも見ませうか『へぼ將棋、王より飛車を大事にし』といふ川柳もありますが、縱橫無盡に斬り廻る飛車は、王を取られても却々離せない、總ての物に對して購買力を有して居る金錢に強い執着心の起るのは無理もないが、地獄の沙汰も金次第といつて、何物にも勝して金錢を大事にするのは惡の極です『若し人、全世界を得るとも生命を失はゞ何の益あらんや』と基督の示されたのは至極尤もなことで、金錢は金錢その物に價値があるのではなく、之を有益に使用する上に價値が生ずるのである。

世人は生きて居る間といふ代りに、息の通つて居る間といふ事もありますが、生理的の生命は夫れに違ひない。又法律上でいふ生命も夫れです。けれども基督の申された生命は少し違つて、人間の本質を持つた生命、正しい自覺を持つた生命なのです、私共は睡つて居ても呼吸は止めません、大病でうん／＼いつて居ても呼吸は續けて居ます。

靈魂がお留守

になつた人や白痴でも呼吸はして居ます、かういふ場合でも生きて居るには相違ないが、精神の働は全くありません、靈魂がお留守になつた空洞の生活に何の意

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

義がありませう、私共はそんな空洞の生活なら生きて居たくない、獨り私共のみならず誰も同樣でせう、して見ると私共の生命は是非とも精神が充實して居て、意義のある活動が出來なくてはなりません。

人の心には高下の等差があつて其の階級は非常に多いものである、私共が人を評して人物が善いとか惡いとか、人格が高いとか低いとか言ふのは、必しも賢愚をいふのではありません、惡い人は却々賢いもので、大きな詐欺でもしやうといふ人は餘程賢く見へるものです。されば基督は『若し改まりて嬰兒の如くならずは、天國に入ることを得ず』といつて、極無心なのを喜ばれました。

基督の最も骨を折られたのは、既に邪路に踏み入つた人を救ひ出すので、健康の人に醫者は入らないと云つて、好んで自ら墮落した人に接近して、其の改過遷善に力を盡されました、『爾曹のうち誰か一百の羊あらんに、若し其の一を失はゞ、九十九を野におき、往きて其の失ひし羊を獲るまで尋ねざらんや……われ爾曹に告げん、此くの如く一人の罪ある人悔ひ改めなば、悔ひ改むるに及ばざる九十九人の義人よりも尙天に於て喜びあらん』といふのは、正に此の精神を宣明されたのでせう。

自ら邪路に踏み入つて、墮落した人を救ひ出さうとする精神は基督ばかりでなく、古今の名僧中にも澤山あります、大燈國師の如きは、四條橋下で乞食の群に入つて、其の感化に努められた事は、ごく名高い話で或は好んで罪人の仲間となり、監獄に入つて罪人の感化に努めた人もある、これは今日の敎誨師などゝは違つて、好んで罪人となり罪人を感化したのだから偉い

『若し人全世界を得るとも、其の生命を喪はゞ何の益あらんや』といふ生命は肉體上の生命としても通じないことはないが、『生命を全うせんとする者は之を喪ひ、我がため亦福音の爲に生命を喪ふ者は之を得べし』といふのは肉體の生命を喪つて無窮の生命を得る意でせ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

う。同じ言葉にも異つた意味のある例としては

心こそ心迷はす心なれ　心に心　心許すな

このやうに此の心には二種類あることが直に判りませう。

土龍の先祖

生命にも二た通りあり、心にも二た通りあることを述べましたが茲にお伽噺を加へます。

昔一人のお爺さんがあつた、たつた一人で子供もなく淋いから鼠を可愛がつて、何時も夕食の時には、お膳の側に來る鼠に、食物を遣ります、丁度猫好きが、猫を膝に載せたり食物を遣つたりする樣に。ですから鼠も懐いて、膝の上にもあがれば肩へも登る、全るでお爺さんを友達の樣にといふよりは遊び場の樣にして居ました。かうして幾年か經つうち、或る時其の中の頭とも思はれる大な鼠が『お爺さん〳〵私共はかうして、長い間御世話になつて居ますが、未だ御恩返しもしません、どうか一度私共の所へ來て下さいませんか』といひました、するとお爺さんは大層喜んで『さうか夫れは思ひがけもない事である、私も此の年になるまで、鼠のお宿へ招待されたといふ樣な話は聞いたこともない、何にしても珍らしい話だから行つて見やう』と約束しました、すると鼠は『お爺さんに來て頂くのは嬉いが、夫れに就て一つ御願ひがあります、外でもありません、御承知の通り、鼠の大禁物は猫ですから猫の鳴聲は勿論、忘れても猫の眞似などをしてはいけません、これ丈は呉々も御承知を願ひます』と堅く約束をして歸りました。

偖約束の日になると鼠が迎へに來たから、夫れに案内されて行くと、入口は狹く汚なかつたが中は却々廣い、玄關から奥座敷まで幾間あつたか知れないが餘程澤山あつた、装飾の立派なのに驚いたことは、丁度浦島太郎が龍宮へ行つた時の樣で、恍惚として見とれて居ました、其のうちにお茶も出ればお菓子も出る、樣々の御馳走が出て優遇歡待到らざるなしといふ有様、とても舌切雀を訪問したお爺さんどころの事ではなか

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

つた、御馳走も濟み舞踊なども終つたから『まあ暫くお休みなさい』といつて、鼠共は引下がつた、お爺さんはあたりを見廻して、ても奇麗なものだ金銀珊瑚綾錦、桃太郎の鬼が島から取つて來た寶物でも、これには及ぶまいと思ふ程、善盡し美盡したものである、あの床の置物一つでも大した値打であらう、あれが手に入つたら一世の富豪を凌ぐことも出來るなどゝ思つて見惚れて居るうちに、無慾恬淡な爺さんにもふら〳〵つと慾心が起つて來た『どうもあれが欲しい、一つ鼠に話して見やうか、でも餘りあつかましい、とうしたものであらう』かなどゝ思つて居るうちに『一州を取るも誅、八州を取るも誅、誅は一のみ』と將門の故智を學んで、いつそのこと皆取らうではないかと、世にも恐ろしい心を起して、曩に禁止られて居た猫のことを思ひ出しました。俗に云ふ魔がさしたのでもありませう、ニヤオと一聲叫ぶと、あら不思議！ 燦爛晝の樣であつた室はバサッといふ物音と共に、あやめも分かぬ眞暗闇となつてしまつた、慾に迷ふた爺さんは、寶物を目がけて行つてみたが何もない、右に左に前に後に這ひ廻つたが分らない、あゝしまつた！ と思つたが跡の祭り、浦島の玉手箱と同じ樣に、いくら後悔しても何にもならない、夫れからといふものは其方へ行つても此所へ行つても土ばかりで、どうしても出口が見つからず、口を突き出し鼻を突き出すから、遂に口と鼻とが尖つて來た、夫れでも出ることは出來ず、とうとう土龍となつて了ひました、土龍が人の手に似て居たり口や鼻の尖つて居るのは其の爲で、斯うして爺さんの末路は再び日光を見ることが出來ない生活を續ける樣になりました、

此のお伽噺には種々の敎訓が含まれて居る、今夫れを一々述べては居られないが、此の爺さんが必要以上に慾張り、厚意に酬ゆるに仇を以てした、其の刹那に

彼の心は死んで了つた

生命を失つて了つた、人は神と財とに兼ね仕へることは出來ない、爺さんには神を喪ふと共に財を失つた、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

土龍としては人に要る財には必要はないが、神に仕へる人にも財は要らない。基督は『凡て我名の爲に家宅或は兄弟或は姉妹、或は父或は母、或は妻或は夫或は田疇を棄つる者は百倍を受け、かつ窮なき生を嗣がん』と申されたが、貪欲が屢人を殺して了ふ。

人の生理的生命には限りがある、昔から云ふ通り人生七十古來稀で、七十歳まで生き延びる人は甚だ少い三歳五歳十歳で死ぬものもあれば、三十四十で死ぬ者もある。此の生理的生命も大切ではあるが、無窮生命は更に大切である、私共は生きて居る間は、何とかして

生甲斐のある生活

をしなければならない、其の生甲斐のある生活とはどんなものでせう、土龍になつた爺さんの樣なのも厭なら、自然の肖像を化石に殘してまで死恥を曝したくない、浦嶋太郎の樣に人生まれ人死する幾世代を經る間浮かれ通うした龍宮の生活にも意味はない、どうせ死ぬに極つて居る此の生命、幾ら惜んでも仕方がなく、幾ら生に執着して居ても御迎へが來ればそれ迄の事、長いのが望みでもなければ豪華なのが願ひでもない、惡く悟ると太く短くとなり、慾張る人は太く長くといふが、私共は只意義のある生活がして見たい、然らば其の意義のある生活とはどんなものか、先づ夫れから極めてかゝらなければなりません。

私共は生存して居る限り

世の爲人の爲に

盡す所がなくてはならない、其の動機、心根に優劣をつける程の差がないとすれば、結果の大きくて善い方を取らなければならぬ、だから性質から言つても分量から見ても、よりよい結果を産み出す樣に働かなければならない、私共の心がくべきは此點で、吉田松陰や橋本左內は三十歳に達せずしてあれ丈の仕事を遺して逝つた。長壽が善いか短命でも差支へないかといへば、無論長命の方がよい、長い間に有益の仕事を澤山する

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

のが最もよいが、二者兼て得られないなら、短い間に澤山の仕事をした方がよい、

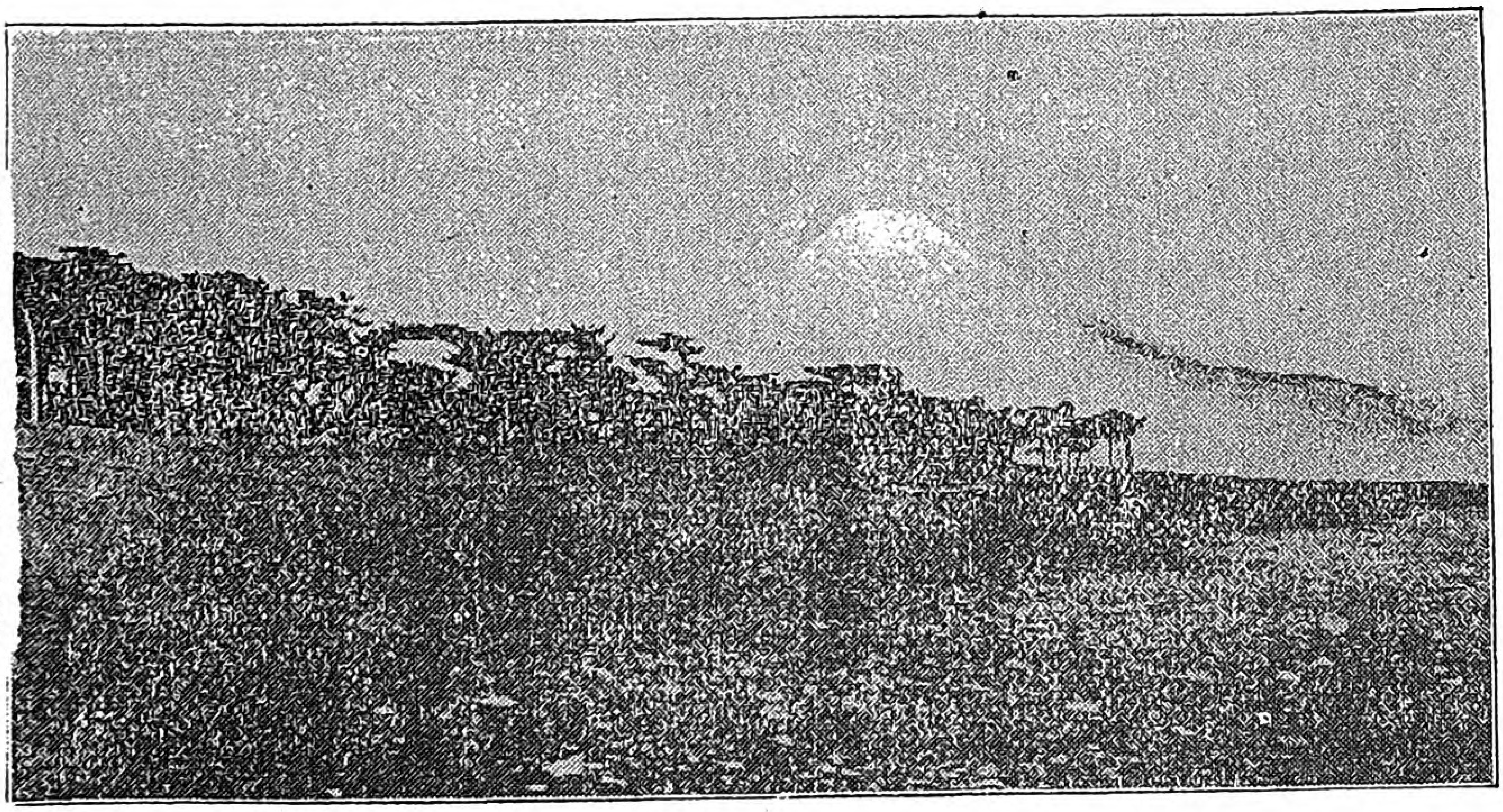
私共が今天野君の死を前にして考へて見ると、君は短い一生の間に澤山の仕事をした方で即ち意義のある生活を營んだのである。茲に追悼號を編む樣になつたのも、畢竟君が大志を抱き種々の事業を始めたが、事業が大きい爲に、其の志は酬いられずに殘つて居るものが多い、之を惜み是を悼むのではあるが、同時に亦後進の人が奮起して君の志を繼ぎ、此の事業を大成し、或は他の事業で社會的に盡す人の續出するのを願ふからでもある。私共の生理的生命には盡る時がある、併し

私共の仕事は永久に遺る

縱し其の事業は形に於て消えやうとも、其の事業を通して人に與へた影響は永久に消ゆるものではない、感化を受けた人は死んでも、其の人の精神に及ぼした影響は又他の人に及ぶから、恰も勢力不滅の方法が物理界に行はるゝが如く、人の精神行爲は同じく人の精神界に不滅である、こゝに不死の生命がある譯で、若し夫れ其の人の精神が文字の上に殘つたならば、後世迄長く人の心を支配することの一層強いことは申す迄もありません。

死は免れられぬから死を恐れてはならぬが、といつて死を急ぐ樣な行動は絕對に善くない、我々は何時でも死を喜び迎へられる丈の覺悟と準備とを要する。が何時でも過去を顧みれば生き甲斐のある生活を營み來つた事を喜び得なければならず、又將來を望めば一日は一日、一年は一年丈多々益々生き甲斐のある生活を營み得る自信を以て邁進しなければならない、これが天野君の死を前にして語らんとする死生觀であります。此の死生觀には、運命に甘んじ境遇に安んずるといふ事が必要であります。畢竟人事を盡して天命を待つといふことになるのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



（三保の松原羽衣海濱の風景）

天野藤男君を憶ふ

要項

一藤男君の郷里　　二學校時代の藤男君
三活動時代の藤男君　　四多情多恨の藤男君
五趣味の人藤男君　　六使命を自覺した藤男君
七先輩知友の見たる藤男君　　八清子夫人の見たる藤男君
九年譜

藤男君の郷里

松嶋橋立に宮嶋を加へて日本の三景といふのは誰も知つて居ることであるが、田子の浦から富士を眺めた景色、天女の來り舞ふた三保の松原、これがどうして漏れて居るかと不審を抱く人はありや無しや。

三國一の富士の山

と歌はれ、甘酒の招牌にまでされて居る富士、夫れがどうして漏れやうぞ今でこそ三國一では蠻カラにも聞えやうが、日本と唐土天竺を加へて三國といつた當時の日本人には、三國は世界を代表する言葉であつて、三國一は世界一たることはいふ迄もない、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

體は霞の衣に包まれ雪の頭を雲表に出した有樣は、さながら蓬萊の仙山が浮び出たやう、此の世のものとは思えぬ氣高さ只夢の心地で見上げる富士、靈香馥郁天人の來り遊ぶ三保どうして之が三景などゝ平凡の中に入れられやう、正に是れ幾段も高く超越した天下の第一景、並ぶものがないから、特別席を與へたものである。

『朝に麓を發し夕に麓に宿る、行き行く三日麓を離れず』と、昔の詩人が嗟嘆した麓の雄大さ、富士ならでは見ることの出來ない處である、其の裾野には名勝の地が多い。

富士川の西に蒲原あり之より江尻に至る間は汽車の線路海岸に沿ふて走り、東海道中風光の美を以て稱せらる、興津薩埵等其の間にあり、薩埵は富士を望むに最良の地と稱せられ、興津には清見寺あり、嘗て犀東國府氏が天野藤男君と會見したるの地である、興津の北より北西に當りて庵原村あり、村の中央を流るゝを庵原川とし、其の支流山切川はたる草ヶ谷を貫流して居る、これ彼が少時屢釣を垂れた處、彼の宅は小高き丘上に在りて目に遮る物なく、海を距てゝ直に三保の松原を眺めることが出來る、江尻へも一里なれば興津へも一里、極めて都合のよい位置にありて申分がない、江尻の南は清水で、清水を南に離れると近く龍華寺がある、一時文名を喧傳した樗牛の墓は此の境内に在りて今尚青年男女の香華の絶ゆる時がない龍華寺の南西に當り直徑一里に滿たない所に家康埋骨の地たる久能山がある、久能山は家康の廟によりて有名であるが、南の方太平洋を眺むれば一望涯りなく天空海濶眞に氣宇を雄大ならしめる、此の間に人と爲つた彼は眞に天惠の裕なる寵兒であつた。彼に「我故郷」の一文あり、彼をして自ら其の故郷を語らしめやう。

彼の生誕地

「あゝ我故郷、故郷は何が故にかく戀しきものなるか、何が故にかく慕はしきものなるか、これ云はずして己が始めて呱々の聲を揚げし土地なれば也、慈愛深き父母、友愛厚き兄弟の在ます所なれば也、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

山のたゞすまゐ、水の流れ一として幼時の追懐たらざるなきを以て也

己が故郷は清水港を北に距る一里餘、庵原となむ呼べる草深き山村なり、たとへ酒屋へ三里豆腐屋へ一里の譏りは免れ得ざるも、而もわれは靜なるこの里を塵多き都門の地よりうれしとす、見よ我が里の如何に閑雅なるかを、土地の民のいかに質朴なるかを、われこゝに産衣を洗ふ、終生この里を忘るゝ能はざる也、

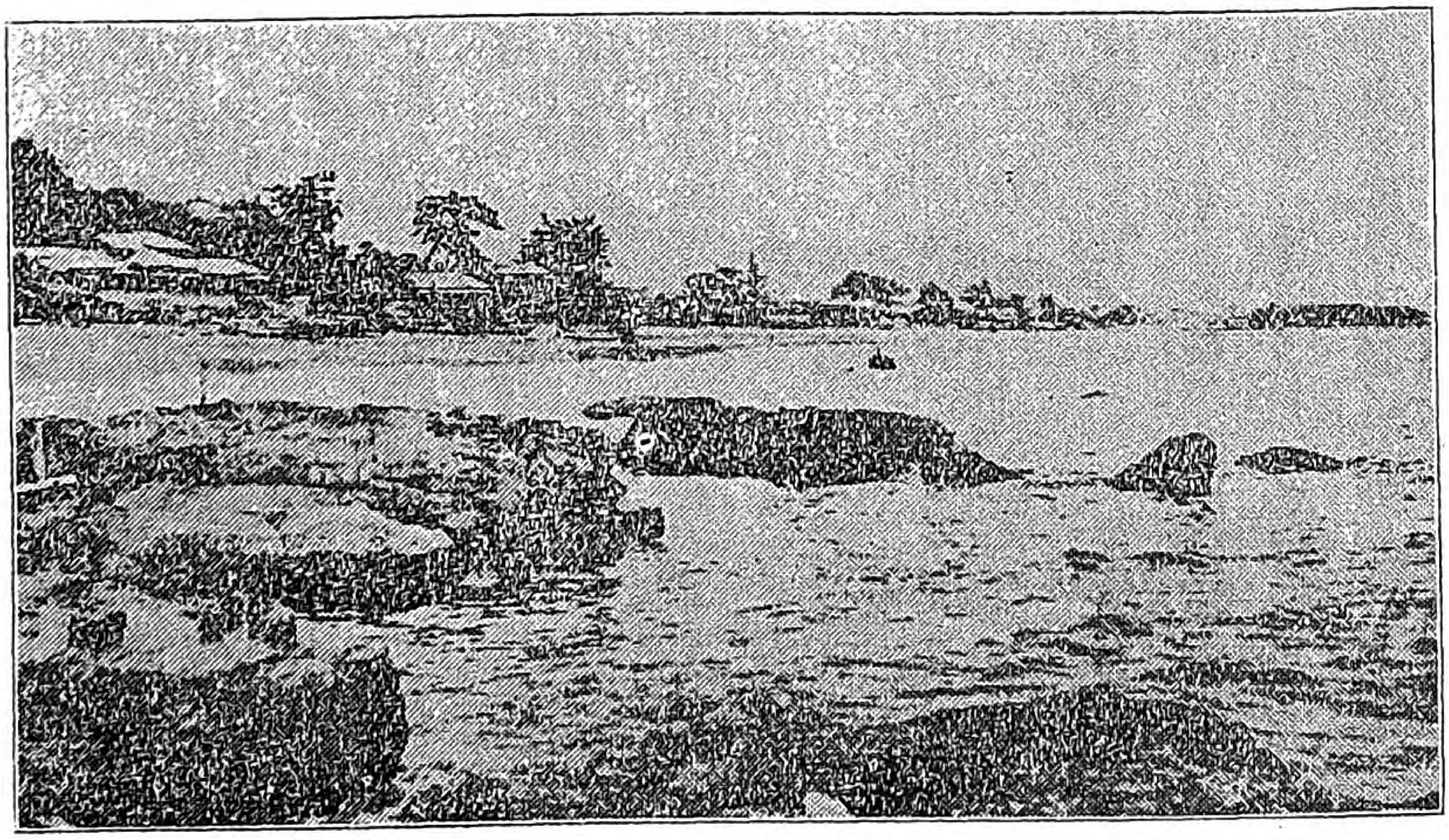
四季をり〳〵の景物多かる中に春の花、夏の木立螢狩、秋の蟲、仲秋の月、秋の野道など、都人の中々に親しみ得べくもあらず、余はこれら自然の慰藉に眼を慰め、心を喜ばしむる也、鎭守の祭あれば老幼相携へて、いと無邪氣に詣で遊ぶなり、寺に施餓鬼あれば家々業を廢して遊ぶなり、その態一家族の團欒に外ならず、

草ヶ谷と呼べる小部落、戸數僅に四十七、人口××に達せず、是れ我が生れし里なり、土民質朴なれども禮讓の心あり、互に睦じく其の日〳〵を田畑に暮しつゝ、家道にいそしむ樣、さながら太古の民の如し」

（こゝに敎師の評が入れてある、日出でゝ作し、日入りて息ふ、井を堀りて飮み、田を耕して食ふ、眞に是れ樂土と）、

「里の中央を流るゝ、これを山切川とす、水少なけれども魚棲み、わが屢々釣を垂れし無言の師友也、

里の東北隅には東方尋常小學校あり、わが始めて學びの庭に踏み入りし所、今尚當時の



（興津海濱の景）

恩師谷、萩原兩先生孜々敎鞭を取らるゝ也、

中央高部山に建てるを大乘寺とす、善男善女の來りて祖先に花向けするもの日夜絶えず香華常に棚引けり、北聳々たる森の中に産神を安置す、久佐奈岐神社と云ふ、蓋し日本武尊の東征の時、立ち寄らせ玉ひし所、今も尙尊の靈のいや長く、この里をいと安らかに守らせ玉ふ。

あゝこの郷、閑なるこの里、質朴なるこの里、無垢なるこの里、われ茲に無數の春を迎ふ、一日も早く名をあげ家を興し、さては郷關の名をまで輝し、共に××の里人と相携へて樂しく泰平を謳はなんかな。

忽ち聞く大乘寺の晩鐘、そのひゞきわれに前途の尙遼遠なるを敎ふるにさも似たり」（三十八年八月二十三日）

彼が田園を愛したのは其の天稟にもよらうが、彼の郷里彼の家庭が然らしめたもので、庵原村は模範村を以て目せられて居る斗りでなく、彼の父は三十有余年村長として村の爲に盡力して令名がある、彼の家には生活を保障するの資産があり、屢々東都と郷里との間を往復することが出來た、彼が田園生活を謳歌するの

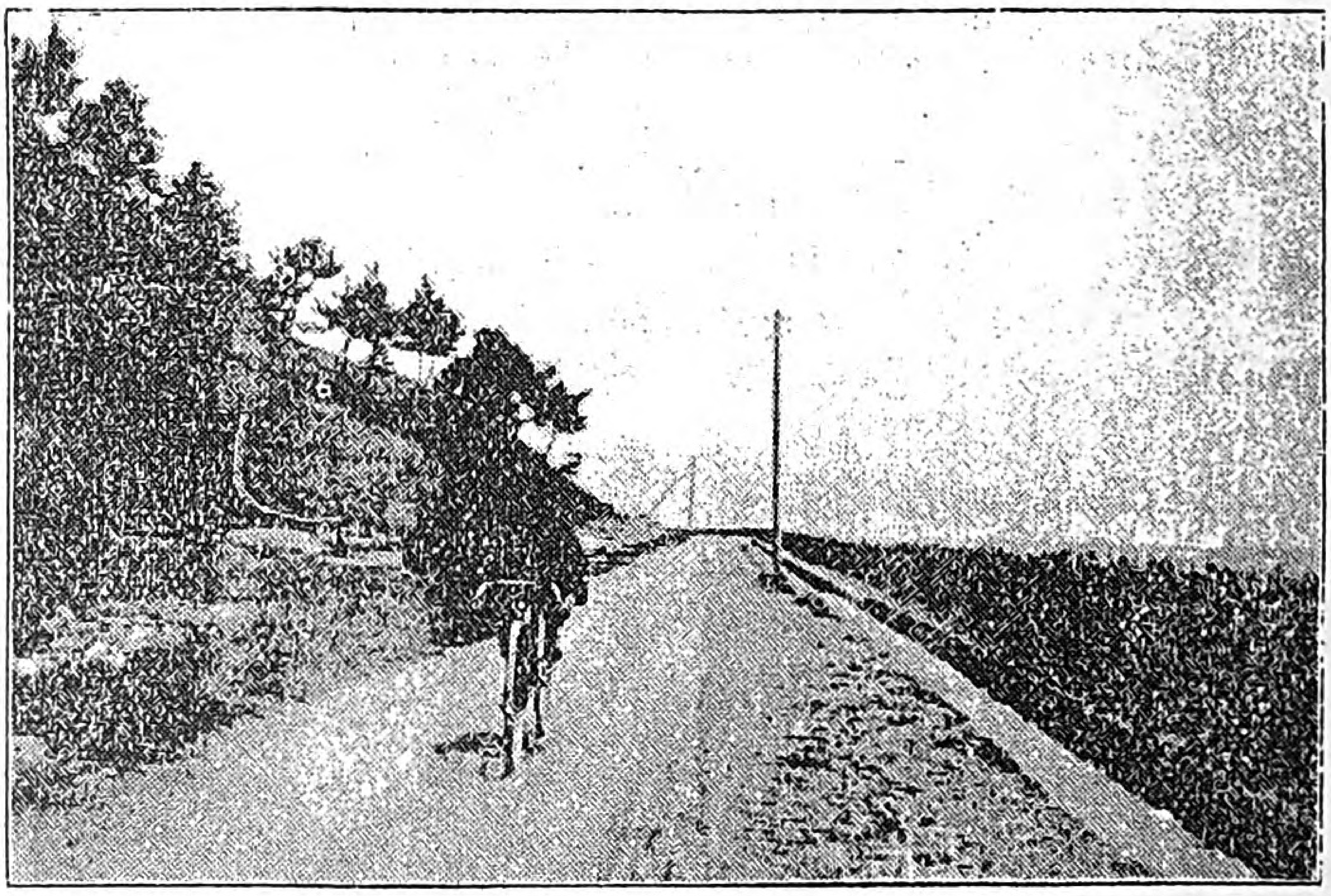
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

も故なき譯ではない。

彼は故鄕に兩親を有することと、使命を意識することと〻健康なることと並べて

三つの感謝すべきこと

として居る、これは當然のことで何人も理想として希求することを疑はない、彼は實に幸福な境遇に居たものと斷言してもよからう『一歲數回殊に夏と冬とには缺かさず歸省しました、溫い鄕里の氛圍氣に浸り、心ゆくまで心身を安靜に休養します。靑年團の指導者など〻、大それたことを時としては申しますが、兩親の前には小さな〱赤坊に過ぎません大都會の眞中に踏み止つて、押されまい負けまい、主張を通さうといふ張りつめた心が、故里に歸りますと丁度旭を浴びた雪のやうに、融けてしまつて何とも言へぬ、のんびりとした氣持に蘇ります。さうして勇氣を復活しては又東京に來て働いたのでございます』(靑年團及處女會)彼が



（ふるさと）

虛弱の身體を以て能く奮鬪

することの出來たのは、全くかうした鄕里を持つて居たからである、彼は自ら記して居る通り一人の母を地下に有して居た然し生母にも況して慕ひ愛くしんだ第二の母があつた家庭には異腹の兄弟がある樣には誰も心付かぬ程、圓滿に暖かであつた、これは彼が最も幸福として感謝して居たに違ひない、實に母なる人の溫愛深い性格が偲ばれる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

『芙蓉の峰、田子の浦、清見潟、薩埵峠、倉澤の里皆一眸の裡にあり、この仙境に生を送る海人の身こそ眞に羨ましき限りなれ、然れどわれに一つの宿望あり何れの日かよく之を遂げん、曰く一夜月明かなる時相思の友とこの清濱に舟を掉すなり。

三保の松原田子の浦　さかさに映る富士の嶺を
波に眺むる舟人は　夏も冬とや思ふらん』

こはこれ彼が中學四年の時江尻に水泳を學び、三保に遠泳を試みた時の記事で、三十八年八月十八日の日誌の一節である、彼は三保の仙境に生を送る海人の身を羨むが、我等は斯る勝地を居ながらにして眺め得たる彼の郷里を羨まざるを得ない。

彼は又郷里の歴史

に就て述べて居ることがある、『此日近隣兒童數輩を拉して、城山に遊ぶ、城山は本村草ヶ谷に在り、余が家を距る凡そ二町許、往昔今川氏の時由井美作此所に居り、天正十年織田信長徳川家康及北條氏と共に、甲斐の武田勝頼を滅さんとするに當り、徳川氏の兵大擧して當國に入るや、甲斐の將朝比奈信置此に據守し、城陷るに及びて自殺すといふ、今尚堀の內、表門等の名存す。山下朝比奈某氏あり信置の後と稱せらる其の果して然るや否やを知らず』(三十三年三月二十四日)

活動寫眞劇として彼が苦心の處女作「都に憧れて」の開卷第一に『後ろに三國一の富士山を負ひ、前には名に負ふ田子の浦波を煙霞の中に望み、氣候も人情も暖でお米もよく稔るといふ、富士の裾野の平和な須津村』と書き出した其の須津村は、彼の郷里草ヶ谷より東北十里許りの地に在る農村で、駿河灣の最奥の地點に當つて居る、北の須津村を選んだのは富士を背景とするのに至便の地であるからだと、彼も述べて居るが、實際富士の裾野は富士川以東で、之より東し南して伊豆の大半島を遠望するあたりは眞に雄大な光景である此の大自然に包まれて彼は人となつたのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

學校時代の藤男君

藤男君の少年時代は能くは判らないが、彼の筆に成る日誌が二つある、甲は三月十八日から四月四日迄の學年末休暇中の日誌であるから、假りに之を休暇日誌と名付けやう、では六月九日から九月二日に至るものは、夏休みを含んで居るが病氣靜養中の日誌であるから、假りに病中日誌と名づけやう、兩者共に明治三十三年の事で、小學校の第六年を終り七年になつた時である。

三十三年といへば、北清事變のあつた年で、獨逸の宣教師が二人、土匪の爲に殺されたのが起因で、支那人の間に排外思想が非常な勢で擴がり、列國は兵を出して各々居留民を保護したことがある、今現に支那と我國との間に懸案となつて居る青島を、獨逸が租借したのは此の騷動の結果であつた、當時十四年の少年であつた彼は、此の事變に就ても却々詳しい事を書いて居る、其の頃の小學校は尋常高等共に四年であつたが、彼は高等二年を卒へて三年に移つた歳で、妹のまさ子は甲科首席で尋常科を卒業したなど、書いてもある、して見ると妹とは二年違ひで、彼が三年の時は妹が一年であつた。後年妹が女學校に在學して居る時、彼女を訪問した時彼女の弟と誤られたと不平を漏して居るが、病弱の爲か年よりも若く見えたものと思はれる。

彼の父は語る『彼が幼少の頃は生帳面の事を好みましたが、中年になつてから無頓着になりました、園藝が嗜きで、色々の花卉を栽培して樂みましたが』と少年時代より既に田園趣味に豊であつたことをほのめかし、更に語を繼いで『一里餘り隔りたる高等小學校へ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

通學する樣になつてからは、時間の餘裕がなかつた爲に、主に課業に親みました。殊に文章を綴ることゝ書を描くことゝを好み、何時も先生から褒められて居ました』如何にも彼の日誌は、十四歲の少年とは思へぬ程流暢な文であり、敎師の賞讃した評語も加へられて居る、特に病中日誌の方には自筆の畫が殆ど毎日の樣に挿んであるし、又病中にも拘らず澤山畫をかいて敎師に送り批正を請ふた事が書いてある、又曰く

『先生に褒められるに伴れて益々其の道に浮身をやつしました、又中學世界などの雜誌へ絕へず投書しては賞を貰ひ、そして喜んで居ました、中學の中程になりましてからは、盛んに

地方の新聞に投書

し、學校の文藝部委員に擧げられてからは、其の方に熱中して學科が疎かになりました、そんな譯で、小學校以來首席を占て居たものが、卒業の時には中以下に落ちました』流石は親である、小學校時代の首席は嬉しかつたに違ひない。

本人も此の事は能く自覺して居た、それは三十八年の夏休みの日誌中に左の一節がある。

『徒然なるまゝ、古き文庫を取り出だし、過ぎし往時を偲び出づる種もがなと、こと〲く調べ見るに禍も三年置けば用に立つとかや、尋常小學當時の習字、淸書、作文さては巴高時代の、其の日〲の日誌類、或は葉書手紙の類まで見出しぬ、尋常小學三學年定期試驗作文答案は實に左の如き文字なりき。

裁　縫

裁縫は女子にもつとも入用のものなれば、早くより習ひおくべきなり、しからざる時は、一生の不自由となるべし。

重箱を借りにヨセシ時の返事

御頼みの重箱、みぐるしくは候へども、只今不用につき、ゆる〱御使ひ下さるべく候。

僅に數十字にして意足れり、吾自ら感ぜざるを得ず、あゝ吾誇るにはあらねど、尋常小學校をば首席

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

を以て卒業し、卒業式當日には一同を代表して答辭を讀みたるを朧げながら記憶する、巴高等小學に在りても嘗て次席を下りたることなく、先生の信用も厚くして終に余は首席を以て第四學年を及第することを得たり、しかるに一度び中學の舍に入るに及び、成績小學校の如くならず、級を進むに從ひ、益々同輩に擢んでらる、われ常に慚愧に堪えざる也、嗚呼わが勉强至らざるか、勉强力衰へたるか、わが兩親に對して何の辭もなし』と慨嘆して奮勵を誓つて居る、これは父の言の如く文藝に偏したからであらう。少年時代の彼は弱かつた。夫れに就て彼は可なり苦痛を感じて居たらしい、彼は高等二年を修了した際精勤證を貰つたのを非常に喜んだ『余は由來蒲柳の質、病に犯され易きの身を以て、一學年中二百六十一日の間、一日も授業に缺席せざりしは、余の最も多幸とする處なり』と其の喜びを誌して居る、彼は又『禁煙令將に明日を以て實施せられんとす、『余元來酒を嗜まず、又煙草を喫せざれば禁酒何かあらん況や禁煙をや、語に曰く酒と煙草は養生に害ありと、世間何ぞ攝生を重んせざる人多きや』と書いて居るが、彼は後年酒を飲んださうである可なり多量に飲んださうだ、禁酒同盟會の爲に働くやうになつてからは止めたさうだが。

中學時代の藤男君

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

又四月二日の條には『此の日、陰暦三月三日に當る、此隣皆陰暦を用ふるを以て、此の日を上巳の節句と稱へ、家々階段を設け雛を飾り、菱餅、豆煎り、白酒等を供へ、童男童女其の前に集り戯れ、嬉々として樂めり、余が家雛を飾らずと雖も、母上余等が爲に豆煎りを製し、白酒並に櫻餅を賜ふ、余白酒二盃傾け、醉ふて苦に堪えず、心竊に再び飲酒せざるを誓ふ』と書いて居る、少年の誓はあてにはならない、喇叭を携へ軍刀を提げて居る少年が、他日大將となるのだと傲語すると一般で、當てにはならない、兎も角も彼の心理狀態を卒直に寫して居る此の文章、これが當時の高等二年、現今の尋常卒業者の筆とは思へぬ巧妙さ、之を紹介したいと思ふのである。

彼の身體は弱かつた、併し勉强は好きで成績は良かつた『此の日雨を犯して昇校し、學年試驗の成績を見る。余僥倖にして甲科登第(點數九十八)級の首位を占む。余幸にして試驗に好運なり、單に尋常小學科に就てより玆に六回、毎に甲科を以て及第す、甲は幸なり』(三月二十二日)と、彼の得意思ふべきである。

知識に飢て居る彼は病氣でも却々讀書は廢めなかつた、彼の病中日誌は記事愈詳密となり、格言を加へ敎訓を雜へ、繪畫を挿み詩歌を添へ、時には漢文さへも加へてある、夫れのみならず、當時北淸事變の際であつたから、之に關する新聞の記事さへ加へてある。なか〱並大抵のことではない、彼は又觀察眼が鋭く、自然界に對する疑問なども、普通の少年には思ひ及ばぬ程であつた。彼は蚜虫と蟻とが如何なる關係で、兩々相接近するかを久しく疑つて居た、偶々名和氏の所說を讀み、漸く理解することの出來たのを喜び、其の說を抄錄して繪まで入れて居る、こんなことは、とても一般少年には望み得ぬことで、國府氏が彼を天才と激賞されたのも過褒ではない。彼は

長く學校を休む

のを氣づかつて居た、けれども彼の日誌をつけることに因て、學校で學修する以上の學問をして居たことは疑ひない事實である、天は何故彼に健康を惠まなかつたのであらう、若し攝生を怠つたら、中學卒業の頃には夭折するであらうと迄、主治醫から言はれて居たのである。

彼には一兄二弟一妹があつた、末弟は蓋し異腹であらう、一兄一弟既に沒し、妹は嫁して他家に入り、末弟一人存すれども、餘り健康體ならずと聞くされば、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

彼の死が如何に兩親の心を淋しからしめたかゝ想像される、之を思へば彼は今少し身體を大切にすべきであつた、だが彼は自身の虚弱なのを十分に自覺し、短い間に意義のある生活を爲さんとするの決心があつた樣に思はれた。

小學校に於ける成績が常に優等であつた彼は、中學校に進むに於て何の苦もなかつた筈である、然るに彼は小學校全八年の課程を卒へてから中學校へ移つた。これは身體の虚弱の爲と、延ては遠く家庭を離れて寄宿舍に入るのを懸念した爲かと思はれる、何にしても三十五年に入學し、四十年彼が二十一歳の時に卒業したのは確な事實である、此の間の事を知るべきものは只僅に三十八年度の書いた休暇日誌と、四十年に出た校友會雜誌とあるのみだが、之によりて四年生五年生時代の消息を幾分か知ることが出來る。

血性男兒たる彼

明治三十八年といへば彼が十九の年で、忘れもしない日露の講和談判が成立した時である。當時の國民は平和條約に不滿を抱き、東京市中には騷動が起つた、日比谷の燒打事件といふ言葉は今に私共の耳に殘つて居る、

には、如何に當時條約に不滿であつたかは其の日誌に明である、そして東京の騷動の如きは、特に新聞の號外まで綴り込んである。「割地償金を拒絶するなら、談判の繼續は無用である。戰敗國に侮辱せられながら何迄巡戸迷ひしつゝあるは何事ぞ」と憤慨し、「退讓又退讓屈辱又屈辱殆ど我が要求の骨子さへも放棄せられたり」と歎息して居る、新聞紙は亦筆を揃へて當局を攻擊し、或は「姑息の平和」「外交の失敗」「千古の遺憾」など題して不平を漏らすもあれば、或は「只此の一途あるのみ」と題して條約の批准を諫止せよと極論したものもあつた、彼が悲憤慷慨するのも無理はない、斯くしておだてられた民衆は奮起して、かの燒打事件をも惹起したのである、今日からいへば如何にも幼稚な單純の思想であつたとは思へるが、當時は國民の殆ど全部が不滿を抱いたのである、彼は

『川柳不平吟』

題し胸中悶々の情を寫して居る。

◎流石は新興國だとウイッテ舌を出し。
◎マカロフも條件聞いて安心し。
◎得手に帆をかけ、ウイッテ凱旋し。』

彼は新聞雜誌に投書して樂しむ頃になつたのだから思想も進歩すれば文章も圓熟して來た、著しく青年期の特性も顯れて居るが、彼の弟妹に對し友情の厚かつた事も、父母に對して孝心の深かつた事も、能く文字の上に顯れて居る、六年前の樣な稚氣無い文章は見られないが、粗放に流れ易い青年に見難い緻密な處も見えて居る、此等の事は諸所に摘錄した日誌の文章を見て略推知することが出來やうと思ふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

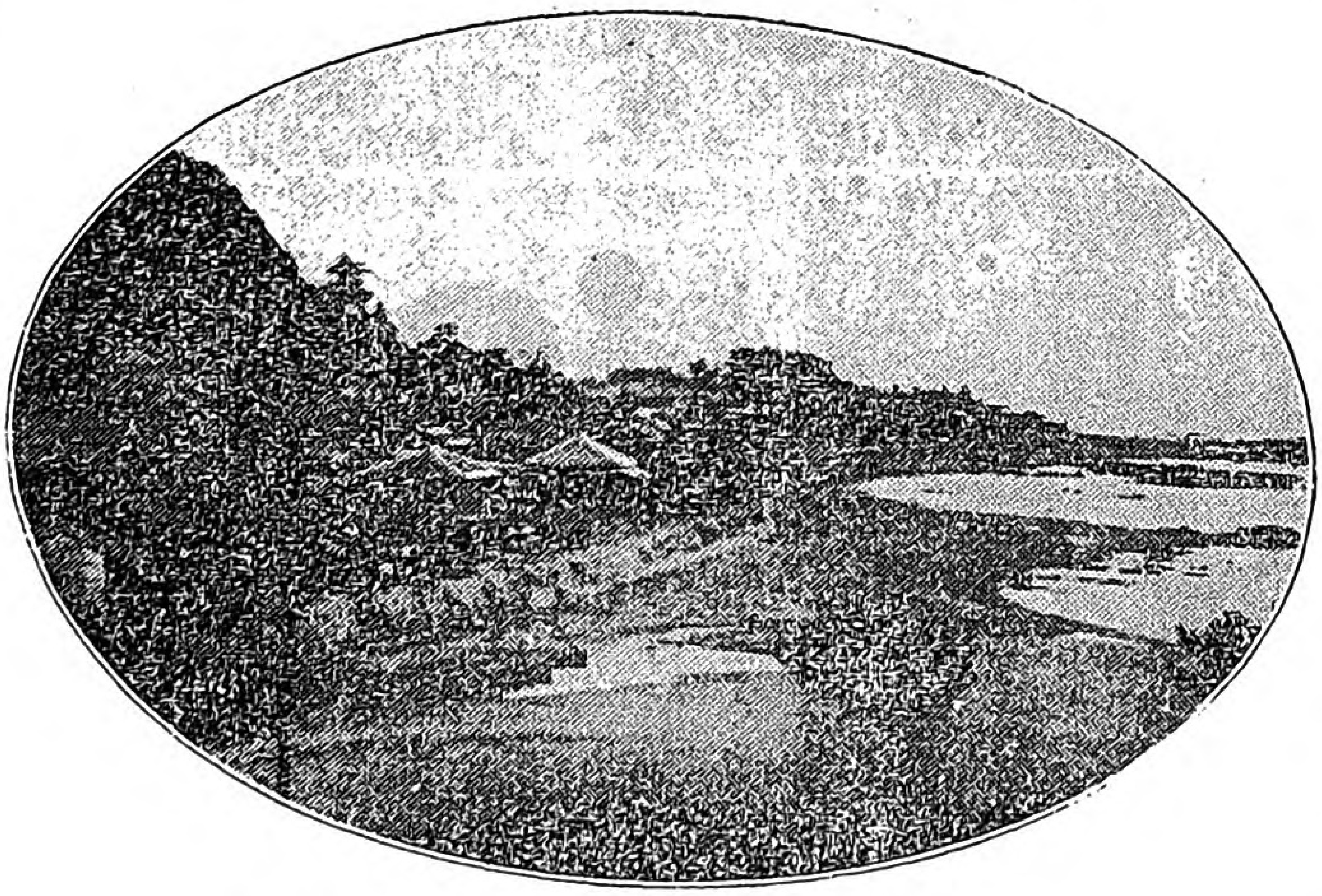
彼が如何に弟妹に友情が厚かつたかを顯す爲に三十八年の日誌から其の一節を摘錄しやう。

『(八月十一日) 家には妹節子も來りて武夫を打守りつゝあり今宵の月いと淸らかに冴え渡りたれば家族團欒樂しく凉を椽端に納る、笑聲は常に武夫を中心として起るなり、あはれ我が阿兄のこの團欒に加はるあらは…

(八月十七日) ひねもす可憐の武夫を唯一の友として遊ぶ、げに幼兒ほど愛らしき者は亦あらじ、殊に武夫の笑顏の可笑しき事。

武坊を相手に暮す日長かな

十九歲の靑年が七ヶ月の幼兒に對しての感情である。



興津海岸より淸見寺を見る

嬰兒の泣く聲を厭ふ靑年が終日武坊と暮したのである

『武夫の齒一つ生えた、下顎に、生理敎科書に、生後七ヶ月にして乳齒始めて生ずとあり、武夫の生れしは一月中旬なれば全く發育の期に合して居る』

(七月三十一日)

幼少の頃より彼れの家より出でゝ他家を繼げる次弟の東京に來り或る會社に勤務する事となるや彼は其の弟に對し常に溫き同情を以て精神的にも物質的にも、尠なからざる援助を與へ、其の交情の深密なりしには實に敬服したりとは彼れの友人も語るところであつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

活動時代の藤男君

明治四十五年といへば彼が二十六歳の時である、其の前年興津の清見寺で國府氏と會見したのが因となり氏の紹介によりて遂に上京することゝなつた、上京して間もなく內務省の囑托となり、彼の社會的活動はこゝに端を開いた譯であるが、爾來九年彼が淸子女史と結婚する迄は、神田の下宿屋に居た、其の頃のことを彼は『神田のさる下宿屋の一室に九年間獨棲しました、大正二年の大火で燒け出されたが、再築されるとすぐ引移りました。まだ濕つて居りました。部屋は四疊半、面壁九年を寓意して床に達磨の軸を揭け、之と睨み合ひて勉强しました』(靑處)、と書いて居る、其の下宿は神保町の停留所の近くであることは彼の友人の語る處である。

此の間

彼の奮鬪ぶり

は却々氣なげなものであつた。內務省に出勤もすれば地方へ出かけもする、朝は夙く起き夜は遲くまで机に向つて孜々としてペンを走しらして居た、其の結晶は先づ「農村と娛樂」となつて世に出で「田園趣味」「故鄕」も相次て出で「都市より田園へ」四季の田園」も出た、其の間に「花と人生」「地方靑年團の現在及將來」、も出た實に努めたりといふべしである、其の後「親愛なる農村靑年へ」を出せば「靑年團及處女會」も出し活寫劇「都に憧れて」も書いた、活寫劇を活動寫眞のフイルムに收める迄の骨折も却々一通りでなかつた、彼の著書は時代の要求に適應して居る爲に幾度も版を重ねて居る、縱し夫れが不朽の生命を有して居るか否かは分らないにしても、現代の要求に應し多數の人の參考となつたのは、實に立派な使命を果したものといつてよい。

彼は靑年團處女會の爲に犧牲となるのを甘んじて居

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

た、此の精神が青年處女の心を動かして渇仰の的となつた譯である、『胃痙攣に苦しんで、二日重湯ばかりいたゞいた身體で埼玉の浦和町へお出でなされた事があります、』結婚後日の淺い時でした『それでは身體に障ります』と泣いて引きとめる私の手を振り切つて汽車にお乗りになつた、そして、車中で仆れてもいゝそれでも満足だ』とおつしやつたことを記憶してゐます」とは未亡人淸子氏の語る處である。

彼は其の半身たる妻を忘れて野の乙女を愛した彼は愛妻を殘して去つたのは彼としては満足であつたとしても、殘された人の身になつては堪らない。彼女は續けて言ふ『泣いて忠告しました。』然し決然として『幾百の野の少女が私を待つて居る、今日僕がゆかなかつたら、みんなが失望する愛する妹だ、私は講演を聞いて呉れなくても、その顔を見た丈でよい』と

活動時代の藤男君

『私はその強い熱情に慟哭しました。以來私は一度も止めませんでした。』

彼は野の乙女を愛し其の幸福を祈るに切であつた。其の爲には一身を捧げることを辭さない意氣は眞に敬すべきである、だが私は疑ふ

殘された半身

をどうする考へであつたかと『僕が死んだらもつと幸福な所へ再婚してくれ、僕は他の人のやうに從來の操守を勸めぬ』と云つて居たさうだか、これは別に不思議はない、苟も人生を理解した人なら、死後まで妻を束縛する様な考へを持つ筈はない、だが婚期には自然の約束がある、人の心には印象が長く殘る、一旦結婚した人が再縁によりてよりよき境遇が得られるものであらうか、若し眞面目にさう考へて居たなら……まさかさうは考へなかつたのであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

譬喩は固より納得し易い樣に、一寸した思ひ付きを例にとる迄で、其の例の適否を論ずるは愚のことであるが、稍もすると譬喩からとんでもない結論を抽き出すことがある、例へば男子を陽性として之を大陽に擬し、女子を陰性として之を月に譬へた迄は譬喩だから差支ない、所が男は大陽だからどんな愚なものでも大局に通して勝れた處がある、どんな曇つた日でも晝は明るい、女は月の樣なものでどんな冴へた月夜でも晝には及ぶものではない、と結論して女に絶對服從を强いるのはどうあらうか。

彼は『喬松と女蘿』と題し『青年團を凜たる男性の喬松に譬ふれば、處女會は梟たる女性の女羅たるべし、一は矗として立ち、一は紆うて之に靠る、一は剛健にして、是は健美、剛柔相依つて始めて此に調和の美發揮せらる』(青處)と書いて居る、女羅とはさるかせ又はさるをかせともいひ日陰のかつらのことであるがこれは彼の本心ではあるまい、喬松は女羅を要せずして生きられるが女羅は喬松に依つて漸く生存して居る、女が男に寄食して僅に生を保つて居る樣に考へて居る人の少くない、今日、假りにもこんな譬へを用ひたのは甚だ遺憾である、彼は『男子は女子を幸福にし、女子は男子を幸福にし、男女協力して社會國家を幸福にする』といふ事を青年男女の標語にしたいと言つて居る、これなら至極結構である、けれども女羅のことは一寸した思ひ付ではないらしい、彼の前著『青年團と處女會』に國府氏の序文が出て居る、其の中に『矗として喬松立ち、柱の如く梁の如く、女羅其の枝に紆ひ衣の如く裳の如し、立つたる喬松は男性の剛健を示し紆へる女羅は女性の淑婉を表す、剛健ならんと要する者は飽まで剛健なるべく、淑婉ならんことを要する者亦飽まで淑婉なるべし、男性の本色と女性の特美と、兩々相待ちて鏡花水月の映發照徹するが如きものあるを、天の人類に賦與したる靈能の極致となす』とあるが、流石は文豪の筆である、文の美、辭の麗、全く醉はされて了ふ、加ふるに『一をして凜たる男性の喬松たらしめ、一をして梟たる女性の女羅たらしめなむ、一は矗として立ち、一は紆うて之に靠る、天然の美此に在り、人事の美亦此に存す』とし更に『喬松の如くに立つて龍の如く天飇に吼ゆるを待つ、女羅自から攀ぢ援りて、爾の枝に纒ひ爾の梢を飾るべし、剛の美と柔の美と、乃ち具はる』と書き立てられては、恍として魂は文字の中に吸ひ着けられて了ふ、兩々相俟つて

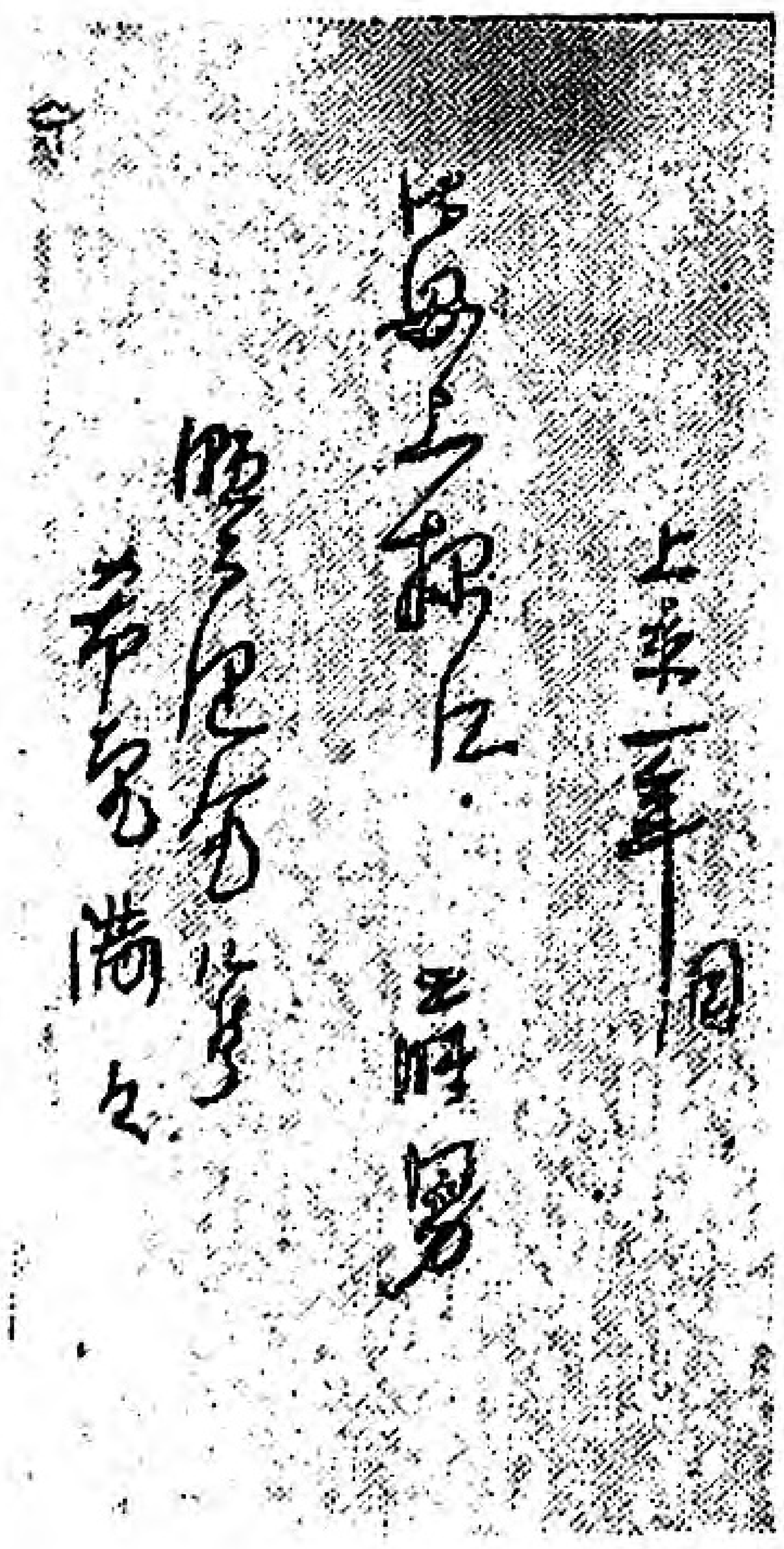
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

天然の美をなす丈に重きを措けば異存はないが、女羅と喬松とに重きを置く樣な人があつてはならぬと思ひ特に婆心を添へたのである。

彼は

田園趣味の皷吹

に努め、農村の子女が都に憧れて一生を誤らぬ樣にと說いた、其の熱誠は眞に多とすべきである、彼の作つた『四季の田園』は實に田園文字の白眉である、能くもあれ丈田園趣味を有する古今の文字を蒐めたものだと感心した、閑時之を手にして其の詩歌を讀んだなら、さながら身は往古の農村に遊ぶ感が起る、さりながら簑笠を著けた舟子が竿を手にして立てる狀は好個の畫題ではあるが、今は橋を架けて電車其の上を往來し、自動車亦其の上を駈ける時世となつた、村童牛背に坐して横笛を吹く處は好個の詩材だが今は自轉車で風を切る世の中となつた『昔は戀とパンとの間に嶄然たる柵はなかつた、旨いパンを喰ひながら甘い戀をした、今では甘い戀は十分パンを用意してからでなくては不可能の世の中となつた、戀よりパンでなく、パンより戀である、論より證據腹が減つては味な戀は出來ぬ、してみると青年は戀を抱くよりパンを噛る支度する方が先決問題である』(都、田)といふ時代となつた、如何に大聲疾呼しても、都會に集注する氣運を改めることは難い。



廿四頁寫眞の說明

彼は衷心田園を好み故鄕を愛して居た『予は今故鄕を遠く離れて帝都に在る者であるが花の晨月の夕思ひ出でらるゝものは懷かしき故鄕の俤である、昔馴染の高部山や庵原川や、地藏堂や、鎭守の森や、或は始めていろはを綴つた小學校等、走馬燈の如く心目に映ずると共に、懷舊の情油然として生じ、瞑目すれば大乘寺の鐘さへ殷々として鼓膜に響くのである、あゝ此の繁榮の帝都に在つて、何故に爾く山村の故里が戀しく懷かしいのであらうか』(親愛なる農村青年へ)と彼は感慨を歸して居るが、古の人も言つた通り江山の洵に美しきは鄕里である、鄕里の山水には幼時の思ひ出が多いから、非情の山川も木石も決して非情でない、殊に彼

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の郷里は天下第一の勝地であり、村は模範村と稱せられ、家には父母あり資産あつて、彼の生活を保證して居る『田舍にゐると烏はあくまで烏である、烏が鷺の眞似をしても人が許さぬ、旦那さんは鍬を握つても矢張り旦那さまである、小作人は金緣かけても矢張り小作人である』(都、田)と彼の言ふ通り、彼は旦那さま株である、農村に歸つても本當の農作をするのではないこれは彼の友人の彼の境遇を羨んで居た事實で、彼は此の點に於て多幸の人であつた。

彼は田園を熱愛し、世の爲國の爲に農村の繁榮を祈つて居た、けれども矛盾の悲哀を感じて居た、事實矛盾に富み如何ともし難い點が多くあるからで、彼が『嗚呼敎ふるものもパンの爲、敎へらるゝ者もパンの爲、世の爲國の爲は第二なり、パンの爲に辛うじて智識を體得したる青年を飢へしめつゝ、嫌かる田園に固着せしむ。矛盾ならずや不同情ならずや。世が文明に赴けば赴く程、都會に有能の士集中し田園に無能の民殘留するは當然なり』(都、田)と嘆じ『然るに勝ち誇りたる我國人は、今や戸口漸く增殖して、掌大の家庭は一家團欒すべく餘りに狹陋となり、田圃に農民溢れ、推讓することを知らず、先を爭ふて都大路に馳せ參じ、

都會は水腫の如く膨脹

して、機關の叫喚に耳聾し、工場の煤煙に眼欝せんとするに至れり、然り機械文明はあらゆる勞働を奪ひ、人力の蒐集をなして底止する所を知らず、副業を奪れたる菜色の農民は拱手して都市を呪咀しつゝあり……斯くの如く多少とも智識を體得したる兒童は、皆鋤鍬を捨てゝ繁華なる都市に集注す。敎育の進歩は農村を疲弊せしむといふも誣言といふべからず』(都、田)と叫んで居るが、何といつてもこれは事實である、經世家も施する策がない、彼も遂に閉口した『果して都會生活が理想なるか、將又田園生活が多趣なりや、此に關しては敢て口を緘して云爲せざるべし』(都、田)と結んで了つた。

嗚呼呪はしい現代

致し方がないとして止むべきであらうか、自覺して農村を喜ぶやうに導かなければならぬ、漫りに都會に憧れてはならぬといふのが彼の主張であつたが、前途は遼遠である彼の事業は殘されて居る彼の志を紹くものはは三たび思を此に致して奮鬪しなければなるまい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

多情多恨の藤男君

才子多病

といふことは能く彼の平常を顯して居る、彼が十四歲の時高等二年卽ち今の尋常六年を修了した年の日誌三月二十二日の條に『此の日雨を犯して昇校し學年試驗の成績を見る、余僥倖にも甲科登第（點數九十八）級の首席を占む、今幸にして試驗に好運なり、學に尋常小學科に就てより茲に六回、每に甲科を以て及第す甲は幸なり』と記し喜びを顯して居る、彼は實に同級七十二人中の首席であつた。總代として修業證書を受領し、更に精勤賞を受けた、彼は其の喜びを記して『余は由來蒲柳の質、病に犯され易き身を以て、一學年中二百六十一日の間、一日も授業に缺席せざりしは、余の最も多幸とする處なり』(三月三十一日)と歡喜の情が紙上に溢れて居る、是迄病氣の爲に屢々缺席することのあつたのも推測され其の喜びに同情される。斯く喜んだ彼は、六月九日から九月二日迄病魔と親む身となつた、此の間に病中日誌がある。其の卷頭に『余病に罹り家居無聊、例により日々消閑の文字を弄することと左の如しとし。第一日には下野に赴き松永醫師の診察を受く、師曰く病頗る可し、然れども專ら靜養せよ、若し攝生を怠らば、中學の業を卒ふる比ほひ死なんかと、又通學の可否を問ふ、師曰く未だし若し强て行かんと欲せば往復人力車に於てせよ、と時恰も余が家の

杏正に熟し黃實疊々

たり、余常に之を望み、食慾頻りに動く、故に杏を食するの許否を問へば、師曰く不可なりと、余慘然望を失ふ』と書いて居る。彼の病氣は大したものではなかつたらしい、併し腺病質らしき彼は父母よりも醫師よりも、平常餘程警戒されて居たものらしい、然るに彼

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の心は常に學校に走り、一日を空費するさへ心苦しく思つて居た『是日松永氏の診斷を受く、曰く豫后頗る佳なり、然れども尙靜養を要する、余は唯學校を缺席するを是れ憂ふ』(六、一五)と書いて居る。

學校は缺席して居ても學業は廢して居ない、彼の日誌は立派な學修であつた、のみならず本も讀めば畫も描く却々勉强をして居た『是日永田先生より恩借せる中等國文五千題を返上し、又病餘畫く所の圖畫五十有余面を學校に差出し、小林先生の批評を乞ひ、更に先生より圖畫臨本十六枚を貸與せらる』(六月二十六日)日は過ぎ月は越へても彼の昇校は許されなかつた、明日より學校へ通學せんとす、準備に何となく心忙し、余病に罹り課業を廢せしより茲に三十有八日』(七月四日)と嘆息した彼は、待ちに待ちて居た翌日雨の爲に登校が出來なかつた、彼の悲嘆思ふべきである『是より昇校せんとせしに、曉微雨あり、其の霽るゝを待ちし爲に始業の時刻に遲れて行くを果さず。余病後高履を穿ち雨傘を携ふるに堪えざればなり、嗚呼蒲柳の質遺憾極まりなし』さもあるべし讀む人應に同情の淚を濺くべきである、然るにても下駄を穿き傘を持つことの出來ない程弱つて居る、誠に氣の毒ではあるが才子多病、これ天が彼を試みるのではあるまいか、

『余病の漸く癒るを以て、去る五日昇校せんと欲せしも、偶雨に逢ふて果さず、而して余の未だ盜汗を發するを以て、父母なほ心を安んずる能はずとなし、通學を猶豫せしむ。時下暑氣漸く加はるを以て、余も亦往復の困難ならんことを思ひ、心に當分缺席せんことを定む』(七月十日)

彼は諦めた

到底病氣には勝てない、萬斛の怨みを呑んで靜養の覺悟を極めた。彼は曩に借りた「圖畫臨本十六枚を林先生に返戾し、併せて余が畫く所の圖畫十八面の批評を乞ふ」た。

暫く休むで靜養することに決心はしたものゝ、愈九月迄も行けぬとなれば氣が氣でなく、心も寂寥を感ず

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

るのは當然で、彼はつく〲病弱の身を怨んだ。『父上余の爲に巴高等小學校に赴き、余の暑中休暇まで引續き請暇の事を屆出づ、嗚呼蒲柳の質嘆ずべし、諺に曰く人は病みて後

壯健の價値を知る

と、實に然りとなす』(七月十四日)彼も愈々斷念した。泣いても笑つても仕方がない、蒲柳の質〲と繰返しても如何ともすべき途なく神の命なる儘に運命を任す外はない。

彼は到底情の人である、田子氏が『君は青年を愛し處女を導くに特別の熱心をもつて居た、殆んど熱狂的であり、宗敎的とでも言ひたい位であつた。君の熱し來つての態度は何者をも怖れない風があつて、時に同人の誤解を受けたがその心術は公正のものであつた』といふのは能く彼を見破つた言だと思ふ。彼の目には、有情無情總ての環境が人格化され、美化され、詩化された、『農村と娛樂』も『都市より田園へ』も『四季の田園』も、凡そ彼の著作に其の一端の顯れて居ないものはない、中學四年時代の日誌に

多情多恨の藤男君

『秋風梧葉を吹く

秋來ぬと目にはさた
かに見えねども
風の音にぞ驚かれ
ぬる

嗚呼秋矣、詩人が月を見て悲しみ、花を見て泣く時が來た、而も我等學生に取つては秋は樂しい夜は漸く長うして勉强に宜しく、天高く氣は朝にして散策に適す』(三十八年八月十六日)

『あゝ早く學校が始まればよい、毎日〲單純なる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

生活にはいよ〳〵飽き果てた…………

あゝ果敢なき哉人生！　浮べる雲にたとへんか、朝の露に比べんか、軈ては散り軈ては消ゆるものを、何とてかくはひねもす營々として勤むる、生き長らへて五十年、この間夜半の嵐も吹かぬものかは、かく觀し來れば實に蜉蝣の身!!』(八月二十五日)』

これが中學四年生の休暇日誌の一節であるとは誰の目にも一寸思へまい。彼は一面身體の影響を受けては居ることとも窺はれるが、

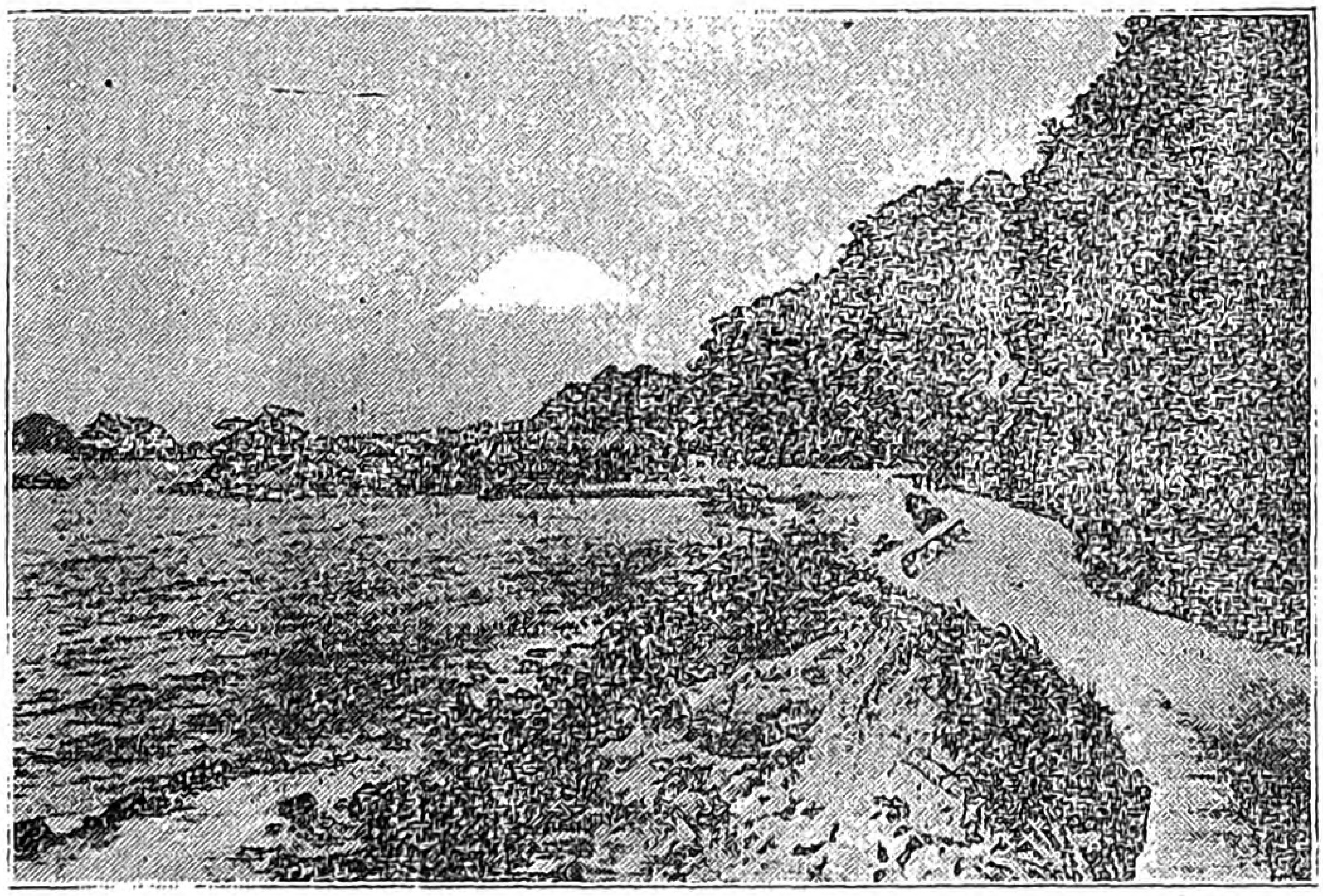
天才的文士の肌合

も見られる『私は何時か野邊にさまよひ來た、何んといふ美しい朗かな日であらう、空は碧い瑠璃盤を磨いたやうに艶々と光つて、見渡す限り一とちきれの雲もない、私は秋草の上にねころんだ。瞬もせないでヂッと空を眺めてゐると、自分の部屋が映つた、と兩手は何時しか、しつかと胸を抱いでゐた「さめよ、さめよしづかに働け」誰か自分に囁いてゐる。振返つてみると、秋の陽炎がさびしく燃えて居るばかりで、誰もゐない』(四季の田園)そして又『春に醉ひ、夏に憊れた我々は、此の秋に蘇らねばならぬ』と續けて居る。彼は又こんな思ひ出を書いて居る『殊に少年の頃、予が尤も愛したのは屋後の柿である、柿を中心とした思出を展開し綜合すると、一篇の小説が出來る程である、カバン掛けて小學校へ通ふ頃、いつも私は半熟の柿二つ三つ懷に忍ばせて家を出て、ある藪越してもう家の見えなくなるを待つて、嚙むと舌の白くなるやうな青柿をぽつり〳〵嚙んだ。所がある日、石盤をカバンに入れやうとして踞む途端に、何たる不覺ぞ柿がころ〳〵轉げ落ちたので、とう〳〵母にみつかつて、まだ有るだらうと殘つた柿まで取り上げられた揚句、散々澁いお叱言を頂戴した……又或年私は病氣して醫者に罹つた、丁度恢復期に柿が熟し始めた、日に色づく其の柿を、どんなに怨めしさうに眺めたことか『今年はみんな餘所へ使ひ物にするから、家の人は誰も喰べませんよ』といはれて、せめてもと安堵して居ると、或

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

時臺所でこり〳〵音がする、一寸覗くと家中で柿を喰べて居た、勿體ない話だが此時位母親を怨んだことはなかつた、此も誰ゆゑ、皆柿故に』(同書)と愚痴をこぼして笑はせる。

彼は果物には却々執着が强かつた杏の爲に醫師を怨んだこともあれば梨の爲に茶店の老爺を怨んだこともある、彼は身體が弱いのに冒險的のことをやる、何でもサイダーを六七本も一どきにやつたことは珍らしくないと、彼の親友は語つて居た、三十八年の日誌中に彼が友達と共に水泳の歸り途に梨を喰べて大に祟られた事を書いて居る『歸途、路を東海道に取り、路傍ひさく所の梨子十個を平げて渴を醫す、松林の立喰ひ、嗚呼甘い哉』(八月十二日)まではよかつたが、翌日起きると何だか氣が重い、頭が痛む、



(沼津名所靜岡)

腹痛も甚い、變だと思つて考へると『これはこれ昨日歸途の梨十個の祟りなりけり、水泳は愚か步行も重々し、あゝ苦しい時の神頼み以后は決して不樣生は仕りませぬと、祈れども聞かばこそ、今更十個の梨の怨めしく、果はそをひさきし翁すら恨むこと愚かなる事どもなり』と懺悔しながら、同窓の水泳して居るのを想像し感慨に打たれて居たが、尙續けて『今日は陰曆盂蘭盆會なれば農家にては精靈を祭るなり、或は牛と馬とにて懷かしき双親を俤をつくり、あるは稲の穗豆栗の實柿酸醬などを恭しく神棚に供へ、はた又牡丹餅團子など進ずるなり、その牛と馬との製造は余の常に分擔する所なりしに今日は心なくも父上に委ねぬ、年に一度の墓參りも得

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ならず、地下の母へも無念やる方なし、嗚呼高かりしよ梨十個』と無量の感慨を漏して居る。

苦しい時の神頼み、もう決して不養生のことはしないと、しほらしい事を言つて居る彼にも青年特有の血性的氣分はある、喉元過ぎれば何とやら日を經るに從ひ忘れて了つた『この夜十一時頃、腹痛俄に至り七轉八倒、嘔吐下痢交々至り、蒲柳の我、殆ど憔悴せり、兩親は痛く打驚き、直に醫師をと案ぜられ玉ひしも、折柄夜半の事とて遂に苦悶の裡に夜を明かしぬ』(九月四日)

彼は復た神に願つたであらう、何が此の原因であつたのか、彼は

どうしても多恨の人

たるを免れない、彼は苦悶の間に夜を明した。醫師は早速やつて來た、そして急性胃腸かたると診斷し、應急手當たる藥劑も與へたが、當時のことを彼は其の日誌に『疲勞甚しく病床の裡にうと〳〵とせる間に海野醫師は來られぬ。急性胃腸かたるてふ忝なき病名の下に良藥は口に苦き水藥散藥したゝかに頂戴しぬ、あゝこれも自業自得誰をか怨まん、平生胃弱の我、昨日の暑熱に咽渇すること夥しく、湯茶を思ふ存分に飲み續けし結果は如上の。藥は九層倍醫師は百層倍、決してドクトルの手をからずと誓ひしは一時の夢か、あゝ苦しい喉がかわく』。(九月五日)

多情の彼は此の苦悶の間に悲憤しなければならぬ大事變が起つた、新聞の號外は出た、人々安き心はないといふ日比谷の燒打事件、内相の官邸も燒かれ、芝警察署も毀される、國民新聞社も怒れる群衆に侵入されされたといふ騷ぎ、彼は此の事を詳記せずには居られなかつた。そして其の後に『あゝ大乘寺の入相が鳴るもう今日も暮れるのだ、思はざる病魔の毒手に摑まれたる我は、何となく氣恍然として此の世の外に在るかのやう、あゝ何時になつたら元の身體になれるだらうそれはさうと休みもう本當に僅になつた、十日には靜岡へ出かけねばならない、嗚呼如何したらよいだら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

う？』と悶々の情を述べて居る、だが幸に大したこともなく醫師も許し、兩親も許して九月の十日には出岡することになつた。さうして彼は

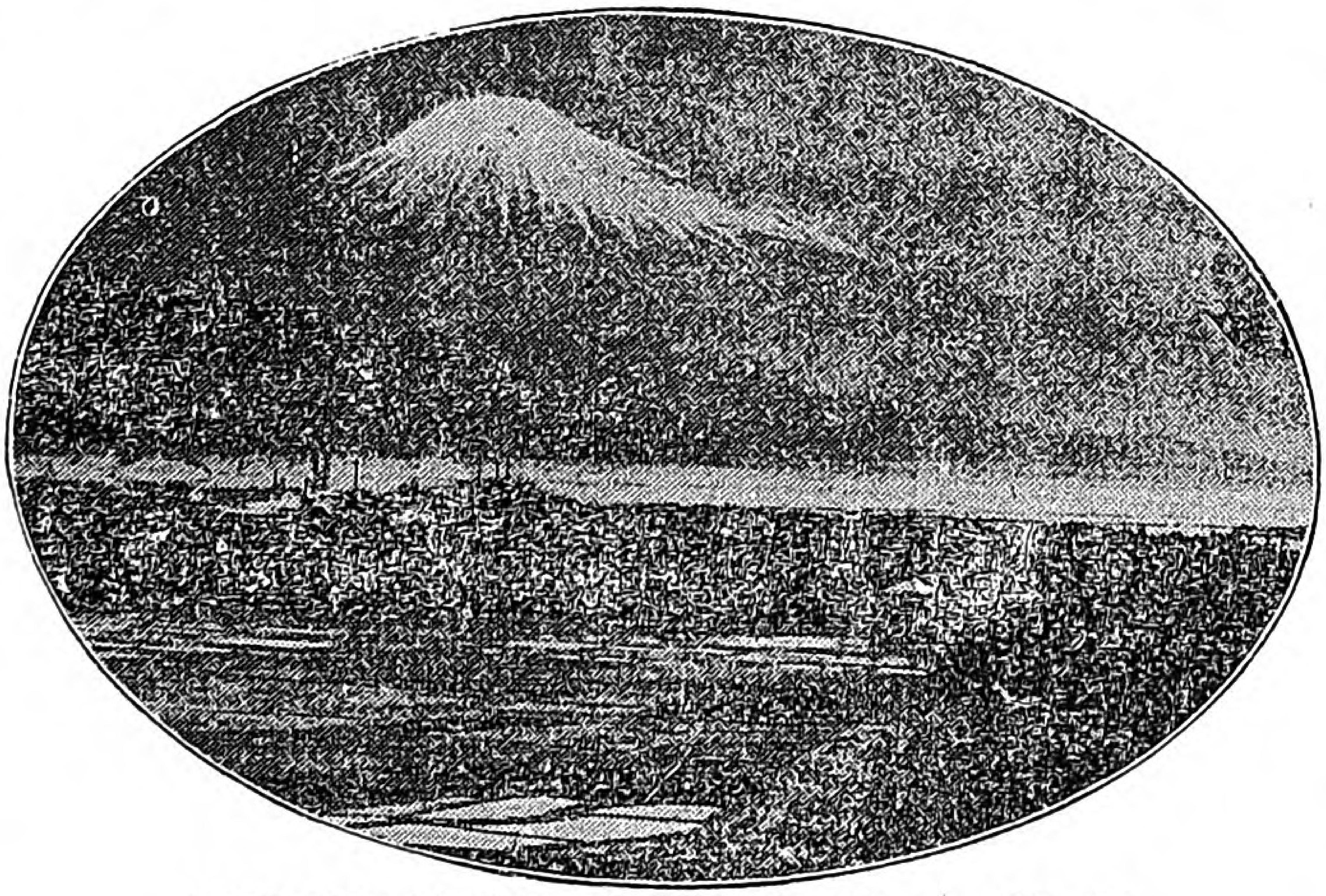
『午前八時塵埃に汚されたる學帽を拂ひ清め、久し振りにて袴を穿ち、携ふるは雜嚢一個！父上より賜はりし學資を落さじ奪はれじと堅く雙手に握り、父母に挨拶して勇しく出岡の途につきたり、折柄庭前の枝梢百舌鳥二聲三聲、あゝ明日は開校式!!』（九月十日）として日誌を結んで居る。

日誌は茲に盡きて居るから其の後の詳細を知ることは出來ぬが、翌年の秋には五日に至り甲斐を旅行したこともあり、文藝部の委員として活躍した第五學年の時代は大した病氣もなかつたのだらう。文學趣味に富んで居た彼は委員になつてから一層此の方面に熱中し正課を稍疎かにした傾きがある。それが爲に卒業成績は以前の如くではなかつたが、其の爲ではなく身體の健康は彼をして更に上級の學校に入ることを許さなかつた、多恨の彼は一層悶々の情を深くしたに違ひないが、小學校に代用教師として勤務した時代の彼が如何に苦痛であつたかゞ判る彼は僅に『學友』と題した貧弱の地方雜誌に筆を執つた位に過ぎなかつた彼が田園文章曆を作つたは此の間のことであつたが之によりて國府氏に認められ

彼が使命を果すべく

東上

することも出來た。



龍華寺境内の眺望（三保の松原附近）

使命！　彼の使命は言ふ迄もなく青年處女を導くて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

とである、彼は犢牛に似た性格を有し文才を有して居た樣に思はれる。若し彼をして高等の敎育を受くるに堪ふる身體があつたなら、彼は青年の爲に盡すとしても青年團處女會の爲に盡すことは出來なかつたであらう。若し國府氏に見出さるゝことがなかつたら、彼の驥足を伸すことは出來ず、青年處女の爲に盡すことも出來なかつたらう、けれども彼は或は長命でない迄も數年若くは十數年の壽を長くすることが出來たかも知れぬ、だが時間の上に於ては長く生存して居ても、生甲斐のある生活、事業の上の生命はとても比較の出來なかつたことは十分想像することが出來る。

彼は虛弱であつた、併し夫れが彼をして仕事を成さしめた所以であらう、彼自身もさういつて居る『私は强健でなかつた事を感謝してゐます、强健でありましたならば必ず墮落して居たことゝ思ひます、さもなかつたならば、人一倍奮鬪して仆れたかも知れません、所がいつ死ぬか分らぬと極端に考へて居たので、自愛すると共に、側目もふらず驀然に突き進みました。つまり、弱いから身體を愛惜しつゝ、一面粗末に使つて居たのであります』と（青處）と書いて居る。これは謂らざる彼の告白に違ひない、けれども彼自ら自愛すると考へて居たことも、他から見ると自愛ではなく無謀なこともあつた『予は身體を粗末に使ふことに於て人後に墮ちぬものである、其が健康の神の御意に叶ふと見えて、却て健康を增進しつゝある、我等が知己の中には咳一つすると體温器を腋にあてる樣な男があるが却て弱く何時も藥餌に親んでゐる、人間の身體は活用する處に價値があるのだ』と書いて居る。

これは彼が大正五年に出した『親愛なる農村青年へ』中の一節であるが、此の方が事實の眞相を得て居る樣である『思ひ立つた事でありましたら、一步も後方へ引かぬといふ意氣地の弱い氣に張りのある方でありましたので、少なからぬ無理を通すことも、大分數がかさなつたやうでございます』と國府氏の云はれたのも事實であるが彼を熟知せる友人の中には『彼には多少衒氣があつて成功を急いだ傾きがある、惡くいふと賣名に急であつた』といふ人もあるが、何も惡く言ふには及ばないが、或はさう見られる斷かあつたかも知れない、彼は體力を忘れて勞力を使ひ過ぎたのは事實である。田子氏が『君の屢々謂はれてある如く、君の三十幾年の歷史は、たしかに血と淚の歷史であつた』といふ言は動すべからざる斷案だと思ふ。

正直な人は他を信ずることが厚い、彼は容易に他の言を信じ夫れが爲に困難を招いたこともある、彼の友人は彼に餘りに輕信してはならぬと忠告したこともあるさうだが、彼は依然改めることが出來なかつた、これは彼の短所といふよりは寧ろ美點と見るべきである。彼が情の人であつた一面は學校時代の彼を描いた處にも現れて居る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

趣味の人藤男君

彼は多角的の人であつた、繪も描けば字も書く、歌も作れば文章も書く、俳句も作れば俗謠も作つた、碁將棋はやらないが琵琶はやつた、敢て得意といふ程ではなかつたかも知れないが、彼の戀物語の中に『この頃のことでした、私が程遠からぬ親戚の一人の娘を戀しましたのは。そはしとやかな淑女でした、私が青年會で覺束なき琵琶を彈じましたのを聞きまして月に叢雲花に風、ほんとうにあなたの琵琶の通りで、心のまゝになりませんのがなどゝいつて來ました』(青、處)と書いて居る、素人離れるをする迄には進んで居なかつたにもせよ、强て求めらるれば必ずしも辭せない方であつたらしい、彼は實に趣味の人であつた、それと共に情の人、筆の人であつた、筆の人であると共に口の人であつた、彼は青年處女を動かす力はあつたが能辯ではなかつた。又雄辯でもなかつた、只其の熱誠が人を動かしたに過ぎない。彼は自ら『趣味は私の救命の恩人であつた』(青、女)と書いて居る。其の趣味は何であつたらう、彼は田園趣味を高調して居た、子供の時から盆栽が嗜きであつたとは彼が兩親の語る所、釣魚の嗜きであつた事は彼自ら語る所で、又日誌にも澤山出て居る。

彼は小學校時代より既に文筆に長じて居た事は其の日誌でも判るが、中學校時代には文藝委員として、言論に文章に、大に其の才能を發揮したことは校友會雑誌が明に之を示して居る、彼が五年生の時、悲觀と樂觀(四月)善と惡(五月)長壽新法(一月)を講演し、懸賞には英文和譯(二等)邦文(一等)が入選し、俳句は秀逸として選ばれ、繪畫は三等として賞せられて居る。三等ではあるが、繪畫の入選者は僅に二人、而して彼は其の一人なのである。彼は五日に亘る甲州旅行を試み、其の記行を同誌に載せ、寄宿舍の窓よりと題する一篇の文章をも出して居る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

彼は趣味に生きたと言ひ、多少とも使命を意識して仕事をして居たと言つて居る、其の趣味は文章であり其の仕事は青年團處女會であつた。實に青年團と處女會とは彼の生命で、其の爲には

何物をも犠牲として厭はない

慨がある。彼には辯論と文章との力があつて何物をも突破する勇氣があり、又撃退して進んで行つたのであるが、青年處女を感化した最大の武器は文章であつた。

彼は趣味の人であつたから娯樂が多く、殊に田園に趣味を有して居たから農村の娯樂を考へて居た。彼が處女作として「農村と娯樂」を出したが、其の後に出した「四季の田園」も田園文章暦を廓大したもので、其の後に出した「田園趣味」も「都市より田園へ」も似通つた處がある。

小學校時代の筆

(故天野藤男氏筆)

彼は釣魚が嗜きであつた。『夏日の清興として釣若くは川狩も亦逸すべからざるもの丶一である。其の大仕掛な漁獵は姑く措き、釣竿一本に魚籃を提げ、里の小川に魚を釣る位樂しいことは無からう、予は釣魚を極愛す……遊べ〳〵無邪氣に遊べ、能く遊ぶ人に能き勤勞がある。此の釣魚の如き清娯の尤である。』(四、田)と書いて居る。

彼は釣魚が嗜きだつたから、屢々居村山切川に釣を垂れたことがある、山切川は庵原川の支流で、固より小流に過ぎないが細鱗に富んで居たと見え、彼の病中などは繁々通つたらしい、試に彼の病中日誌から釣魚に關する處を摘錄して見やう、十四歳の少年とは

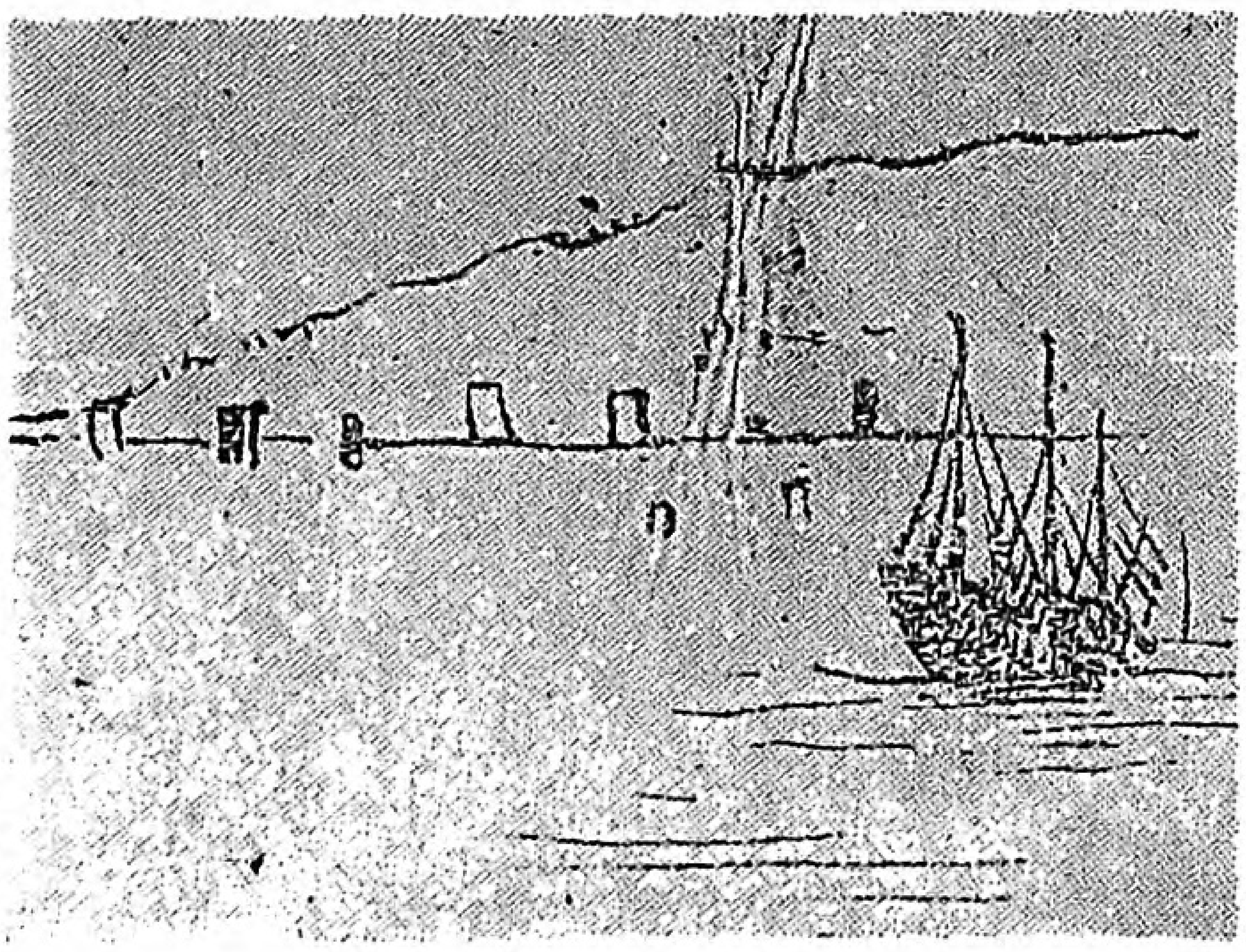
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

思へぬ様な文章であり、又少し注意すると直ぐ判ることだが、同じ川で同じ釣魚をして居るにも關らず、毎回描く處の背景が違ふのは、彼の先天的文才を示して居るのではないか、今日中學の卒業生でも、これ丈の文章を作り得ぬ者の尠くない事は首肯されるであらう。

『是日晩江に釣を垂れ細鱗數尾を得たり、獲る所少しと雖も其の潑溂として綸に上る時、餌をあさりてウキのぴく〳〵動くの節、其の快言ふべからず、其の興譬へんにものなし、黄昏急歩家に歸れば流汗淋漓、衣に徹し履を濕す、父母以て游泳をなせしとなす、叱つて曰く、汝何ぞ攝生を重んぜざるの甚しきや、彼の流れ汚濁、もと田潦の集まる處不潔甚しと、余憮然言ふ處を知らず、語に云ふ歡樂極まつて哀情多しと、夫れ之を言ふか、噫』

(七月廿六日)

小學校時代の筆



(故天野藤男氏筆)

此の記事を讀んで吾等忸怩たらざるを得なかつた。忸怩がむつかし過ぎるなら、言ひ直しませう、お恥かしいことではあるが、親として子を見、教育者として生徒を見る時、疑の目を以て直に妄斷することがあるに違ひない、彼の父母が彼の言を信じなかつたのも彼の病弱を氣支ふ餘りに出た至情ではあるが、彼れが事實の違つた叱責を受けたのは餘程不服であつたことが分る天下の父母兄姉たる人は三たび思ひを致すべきである。

後年彼が青年處女に同情し、一生を其の指導に投げ出したのは、如何なる動機から起つたか判らないが、彼自ら知ると識らざるとに拘らず、此の事實が彼れには後日青年處女指導の上にも多大の參考となつた一つではあるまいか。

(七月二十八日) 是日山切川に釣す、伴ふ者桑作吉藏の二童兒、相携へて綸を淵に垂る、偶々天曇り風

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

涼しく頓に暑熱を忘れ覺えず日晷を移して日暮に至る、鮒鯇等數尾を獲たり、樂みはつきねども入相の鐘に促されて家に歸る、抑病ありて靜養を主とする身の心を樂ましめ氣を慰むるは釣魚よりよきはなし』

前日叱られたことを忘れもせず、斯く釣魚に出かけるのは彼が病弱を慰むる最良の道でもあり、兩親も亦之を認めて許した爲でもあらう、後年彼は『予念ふ、釣魚は一の精神修養である、いつ食付か判らぬ……一寸考へると愚かしき業のやうであるが、而かも其の間に自ら精神を統一し、忍從の德をも培ふことが出來る』(四、田)と、隨分思ひ切つて誇張して居る。

(七月三十一日)『是日又近隣の童子を携へて釣を高部澤に垂る、之を久うして獲る所なし、轉じて山切川に釣す忽ちにして小魚數鱗を獲たり、時に斜陽西山に舂き暮色遠きより來り、晩鐘流れる響き輕煙涯を罩む、風は颯々として冷氣膚に透り、四邊漸く糢糊たらんとし、農家の燈火點々彼方此方に輝くを見る、乃ち匆忙愛を割て家に歸る。』

『(八月一日)是日陰暦七夕に當り……夕又釣を山切川に垂る。

(八月四日)是日又晩涼に乘じて阿兄と共に釣竿を携へて山切川に遊び、鯇八尾を獲て其の四尾を逸せり、而して逸せし所のものは獲る所よりも頗る大なりき。此の頃の空くせとて日暮より搔き曇り夜闇くして咫尺を辨せず、今日は珍らしくも雨餘の天霽れ雲間半輪の月を現し、枝影斜に地に横たはり、葉端の露燦として珠の如し、久しぶりにて心地よき納涼をなせり』

其の日〱の出來事を書くのだから、必しも前のものを見て敍述の法を變へやうと苦心したのでもなからう、然るに每回變つた敍述をしたのは如何にも感心なことで、讀みもて行くに繁を覺えない、是迄は夕方であつたが更に早朝のものを加へて釣魚のことは止やう

『(八月十一日)夙起庭園を徘徊すれば殘月影薄く、曉星光淡くして淸風面を撲ち朝露屐を濕す、須臾にして月は西山に沒して東天一抹の紅を呈し、鷄は晨を報して蟬は聲を放つ、是に於てか一竿を携へて山切川邊に赴き、釣をトン〱淵に垂る、之を久うし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

て鯱數尾を獲たり、時に旭日は東山を離れて光輝赫々暑熱漸く加はる、由て竿を收め蒼皇家に歸る』釣魚は彼の趣味であつた、病身の彼には最も適當の娯樂であり、同時に好き健康の增進方であつた、花を觀、虫を聞いて天地の美に打たれた、彼が田園の生活を樂しんだのは當然であるが、天は特に彼に祝福して

他に比類なき天地

の美觀を以てした、それは言ふ迄もなく彼の出生地である、此の點に於て彼は天の寵兒であつたが、天は彼に惠むに之を觀破するの心眼を以てし、又之を叙述するに足るの才筆を以てした、當時の高等三年卽ち現今の尋常を卒つたばかりの夏、此の日誌を書いて居る。

彼は天稟の心眼を以て凡ての物を美化し詩化した、

（故天野藤男氏筆）

彼が國府氏に見出された其の端緒たる文章暦は、彼の田園趣味のエキスであり、之れを其の儘廓大したのが「四季の田園」である、此の文章暦は「農村と娯樂」に附錄として加へてあるから、其の一二を拔載す。

　彼の眼には總ての物が趣味であり娯樂であるから「農村と娯樂」の中には十分に之を高調して居る、汗の趣味、爐の趣味を感じた彼には園藝趣味は勿論隣保來往の趣味、遠足旅行の趣味もあれば讀書俳句の趣味もある、美しき自然の音樂は農民の音樂趣味を養ひ趣味ある口碑傳說、趣味ある俗謠、さては鎮守の森に、豐年祭りに、悉く趣味を感じた彼、趣味深き田園生活を棄てゝ都會に集注せんとする農村の子女を疑ひ、大聲疾呼其の都會に憧がれる愚を警めて居た、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

文章暦 二月（如月）（小）

（天野氏案）

御製　ふりにきと人はいへども早くよりすみし家こそ住みよかりけり

季節	花信	食品	行事
睦月は夢の如く逝きて早如月となりぬ。この月は僅かに二十八日餘寒尙ほ去り難く時に朔風淅瀝として至ることあり、されど立春の節に入れば何となう春めき來る。梅に、黃鳥に、將た月に春もやう〳〵景色とゝなふ心地す。	鶯の梢をめぐる旭かな—梅花いよ〳〵亂たり。一日を探梅に暮すも面白からん。椿亦眞盛る。綠濃き葉影より燃ゆるが如き濃艷の花を點けたるさま油繪のやうなり。此花を串して日每を里の地藏堂に遊びし幼き日を思ふ。霜解の園を徜徉すれば得ならぬ香りしんみりと身に薰ず。是れ沈丁花の香るなり。春近ければ草も木も一日一日と芽催む石垣の畔に蕗の薹の萌え出づるを今日此頃。	山家の兄より鶉、山鳥など貰ひたる嬉しきものなり。柔き鷄肉殊に旨し。若菜の類亦豐かなり。鶯菜とはその名の何ぞ優しき。蕗の薹の味噌は咳の病に効多しとか。夕圍爐裏に焚火しつゝ名殘の堅餅など燒きて味へば戶外木枯しの風吹きすさぶともなどてか寒からん圍ゐ置ける蜜柑は腐らぬ中に喫すべし。他に振舞ふべし。	二つ三つ口に入れては鬼は外。節分の夜は賑やかなり。鬼ども頭を抱へて遁げゆくならん。七日は初午。社鼓鼕々として鳴り「正一位」の幟翩々として飜る。十一日は紀元節。都も鄙も尊き日影を仰ぎて祝ふ。 雲にそびゆる…………高千穗の…………

二もとの梅に遲速を賞すかな　蕪村

祝日　紀元節　日曜日　（五二三兲）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

使命を自覺した藤男君

彼は使命を自覺して居た。或人はいふ「使命？、そんなものが人間にあるか、若し使命といふ樣なものがあるなら、命じた者がなければならぬ。それは神かねそんなものを引張り出すのは迷信だ、自分が特別の使命を負びて來たと思ふのは誇大忘想だ！」とけれども私共はかう思ふ、『命じたものは誰であるか知らないが自分は只父母に因て生れて來たといふ丈では滿足出來ない、天といつてよいか自然といつてよいか、兎も角も天賦の性能といふものがある。甲の人は眼が鋭く乙の人は耳が聰く、丙の人は指先きが器用で、丁の人は記憶がよいといつた樣に、人樣々の性能があり長所がある。此の天賦の性能が人々の使命を定めるのである考のよい人は音樂家となるべく、眼の鋭い人は觀察を主とする事業に從事するがよい。食ふたり飲んだりする外に能がなく、一生を遊んで暮さうといふ人には人生の意義は分らない。そんな寄生的生活に甘んずるのなら問題はないが、「苟も生甲斐ある生活をしやうと思ふなり、自分の長所を認めて、其所に使命を發見しなければならぬ」つまり私共の使命といふのは

自分の長所を認め

て之を社會的に有益に働かせることなので、其の長所といふのも決して衆人に勝れて居るといふのではなく自己の性能のうちで比較的勝れて居ると思へばよいので、今少し平たくいへば、自分に一番相應しいと思つたことを選び、それを社會的に有益である樣に働かせればよいので、そこに使命を意識し、そこに意義ある生活を自覺することが出來る彼は。

『著書は私の子でございます、醜いかも知れませんが醜ければ醜いほど可愛ゆうございます、生んだ子が醜いとて叱る親はございますまい。往く春の夕や、秋雨のしと〳〵降りしきる夕など、流石に他人を思ふ情も

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一人で、偶々路次を流して歩く三味線の音などきゝますと萬年ペンの筆尖が鈍つて來たこともあります。こんな晩、誰か誘惑して呉れる篤志家はないか』抔と喞つたこともありました。然し誰か側で、『お前の使命はこゝだぞと囁くやうな氣がして、心身を柔健に持ち直して筆を取りました』(青處)と書いて居る。彼は彼の文筆により青年處女を指導しやう、そこに自己の使命があると自覺した。だから彼は『多少なりとも、青年會なり處女會なりに使命を成して居ませんかつたならば、私はもう死んで居たかも知れません。累卵の危き中にあつて節度を守り、克己を通して了つたことは一に私の趣味と使命とのお蔭です』と續けて居る。彼の趣味は文章であり、彼の使命は青年處女の指導であつたといふことが出來る、克己も之れより起れば自重も之れから起る。『貧乏と主義とに殉じて呉れる婦人があればと、時々思ひましたが、さればとて今俄に捜し出さねばならぬとも考へませんてした。悶える丈悶えやう、泣ける丈泣かう、さうすれば青年の心もよく見えやう、娘の心もよく映らう、蟋蟀は狹い籠に獨棲させるから佳い聲を出して鳴く詩人と社會改造家とは窮境に置くほど世の中に役に立つ、とかう信じて居ました』(青處)と告白した彼には眞に同情される。彼の筆に動かされ彼の主義に共鳴した青年處女は少くなかつた。中にも一人の女性があつて特に彼に共鳴し、彼も亦彼女に許し茲に結婚の式を擧げたのは、大正九年十月のことである。趣味に於て一致し、主義に對して共鳴した夫婦、他からは妬ましいと思はれる程睦ましかつた夫婦の中を、天は無情彼を奪つてしまつた。彼の主義に共鳴した彼女は、彼の主義に仆れたのを寧ろ喜ぶべきであつたらう。丁度乃木大將夫人が、二人の愛兒を旅順に亡はれた時の樣に。だが彼女は泣いた、泣いて泣いて絶えなんばかりに泣いた。これは美しい人情である、願くば彼女の爲に一掬の涙を濺ぎ、そして彼女の血涙吟を紹介して深厚の同情を表したいと思ふ

血涙の痕

一

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

別れの袂に降り注ぐ　玉なす涙血の涙
眞紅に染みし悦びの　戀の衣は破れ果てぬ

二

噫うつし世は儚けれ　汲みし情の露こぼれ
咲きし誓の花枯れて　生母の土に歸りゆく

三

昨日の頰のくれなゐは　今日は葉末の露と消え
淋しくおくか霜の色　浮世のならひ悲しけれ

四

仰げば空に月たかく　涙に碎くる其のひかり
詩神の瞳の星ふたつ　空しき光ににほふかな

五

彌生の花の散る日より　あはれ胡蝶の舞ひ衣
花の呼吸に觸れそめて　幽に妙に戀の曲

六

奏でゝ笑みしも幾度か　歌ひて舞しもいくそたび
その歌笑まひ今ははや　哀愁悲嘆の血と涙

彼女に對する同情

は記して盡くる處がない、泣くべし泣くべしである。唯無情の歳月は何時しか其の悲哀を薄くし之を客觀的に見ることの出來るやうに導くであらう。『詩人と社會改造家とは、窮境に置くほど世の中に役に立つ』といひ『私は强健でなかつたことを感謝して居ます』といひ、更に『生前十分に働いた人は何時瞑目しても惜くない、家屋も三十年内外にして脆くなるではないか、人壽五十年は寧ろ長い、固より宇宙の永遠無窮なるに比すれば、眞に蜉蝣の如き須臾の生命であるが、其處に人壽人生の價値が存するのである』(農青)と叫んで居る。人壽五十年は寧ろ長いといつた彼は三十五歳で斃れた、使命に斃れたのであるから、彼は滿足であらう、彼の思想に共鳴し、彼の人格に憧憬した淸子女史は亦これに滿足すべきであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

先輩知人の觀たる藤男君

犀東國府氏

は彼の爲には非常な恩人である。彼を畎畝の間に見出し、彼を指導し彼をして今日あらしめたのは國府氏の力に頼る處が多い、されば國府氏は「君予を見ること兄の如し、然るに予君を待つこと弟の如くなる能はざりしは、衷心愧づる所なり」と弔詞にも述べられてある、彼と國府氏との關係は、彼が處女作なる農村と娯樂の始めに載せた國府氏序文中に明かである、曰く「予が興津の清見寺に寓して、民政史稿の資料を整理しつゝありしは、最早三年前なる明治四十四年一月の事也其月七日庵原郡青年大會の興津町小學校を會 場として開かるゝや、予は講師の一人として此に一場の鄙講を打演せり、因て講後校内を巡り、青年會員の思索製作に成れる各種の陳列品を覽て、窃に郡内青年の頗る活氣に富めるを喜べり、中に『文章暦』と名づけ、大形洋紙にて製せられたる、掛圖式の暦表掲げらる、全部出品者の手筆にして、各日の節物行事を録出するに、興味饒き一種の記載法を用ひたり、文體は美文體にして、何れの頁を披き見るも咳唾玉を成さゞるなく、田園の趣味、楮表に溢れんばかりなり、乃ち注意して出品者の姓名を記憶に留め置きたるに、圖らざりき、其翌日予の寓を訪ひ來りたる青年が、即ち其の出品者なりしならんとは、誠に思ひ設けざる處なりき。乃ち喜んで之を禪席に迎へ細かに文を論じて相別れたり、其の青年こそ、即ち本書の著者たる天野藤男君なりき」

斯かる奇縁によりて藤男君は國府氏に見出された彼が二十五歳の時である、言論に長じ文章に優れた彼は先天的の文豪國府氏との會見によりて得る處が多大であつたらう、天才は天才を識るで、彼の天才は國府氏に認められ其の推挽によつて都會生活をするやうに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

なつた、彼は知己の恩に感じ苦戰奮闘を續けた、其の當時の思ひ出は「靑年と處女の叫び」の終りに載せてある。

藤男君の告白

『大正元年國府犀東氏の御紹介で都に來ましてから舞臺は展開されさま〴〵の男女が眼に映るやうになつて來ました、然し聊か期する所あつて上京しました私は、どんな女が眼の前に現れましても動搖しませんでした……そして神田のさる下宿屋の一室に九年獨棲しましに大正二年の大火で燒け出されましたが、再築されるとすぐ引移りましたまだ壁が濕つて居るのに部屋は四疊半、面壁九年を寓意して床には達磨の軸を揭げ、之と睨み合ひで勉强しました、犀東氏の讃が入つて、達磨は一層光彩を發揮しました、九年間の獨身生活中一番苦痛致したのは、病氣の時でもありません、孤獨のなやみでもありません、其は他が自分を理解してくれないことでした、自分の趣味使命を諒解してくれないといふ煩悶苦惱は、時に不平となり反抗ともなりました、』然りこれは彼の僞らざる告白である、『苟も自己の使命を感じ多少の理想を有する者は、予を知る者なし矣、といふ嘆聲を漏すのは止むを得ない道行きである、斯かる場合に心中の苦悶を訴へるのは彼の心友師長たる國府氏であつた、彼を慰め勵したのも氏であつた、彼の熱誠が迸つて內務文部兩相の訓令を批評するや府縣課長の激怒に逢ひ辭表を提出する樣になつた』これは無事に濟んだが、彼は斯う書いて居る。

『固より私は永く役人して居やうとの考は毛頭なく、又役人になる資格はありません、加之ず私には、失敗したら、否自己の主義主張が容れられなかつたら、旗を捲いて故里に退却しやうといふ背水の陣が、私を頑固に傲慢にしてしまつたのです、けれども實際是からは、戰爭をするのには城がなくては思ひ切つて出來ません、居候では遠慮が先きに出て駄目です』然り城がなくては戰爭は出來ない、城とは何ぞ、夫れは生活を保證する田園である、彼の所有する住宅である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

國府氏の紹介

國府氏は能く彼を知る者であるから、屢々彼の著書に序文を書いて居られる、而して其の中に最も能く彼の性格が紹介してある、彼の著書『青年團と處女會』序文の一節に「友人泊雲天野藤男君は、青年の爲に熱烈なる眞情を捧ぐるの聖徒なり、處女の爲に醇潔なる至情を注ぐの殉教者たり、外に柔の美を具へて、内に剛の美を充たしめ、千艱萬苦曾て屈せず曾て撓まず、十年を一串して、終始青年と處女との爲に悶え、叫び、泣き、歡び、馳け廻り、沈思して筆を呵し書を著し、一巻一冊皆其の心を嘔き其の血を灑ぎて餘蘊なし、愈出で、愈鮮なること泉の滾々として、盡きざるが如く源の淙々として、絶えざるが如し」とあるが實に能く彼の性格を顯して居る。

仕事の上から最も關係が多く、從つて此點から最も能く彼を知つて居た人は、

田子一民氏

であつた、氏は彼の奮闘的生活を叙して『曾て安逸を貪らず、勇猛心を振起して、一意青年と處女會との爲に心血を濺がれた、而して孤影煢然たる形私達はそのあまりに痛々しく、餘りに奮闘生活を打續けるに、蔭ながら胸を痛めたこともあつた』といひ、其の平生を叙しては『君には胸中燃ゆる樣な愛と透徹した樣な深刻な理智をもつて居たが、時には愛と理智との矛盾、調和をどうすることも出來ない程情に燃ゆるのであつた』と述べ『君の天才的文才と愛熱とを以て處女會青年團地方改良農村娛樂田園趣味等の爲に貢獻した點は其文筆を以てして、廣く及ぼした事に於て、正に天下第一人者でなければならぬ』と迄激賞された。

田子氏は彼の上司であり、事業の關係上最も深く彼を知つた人である、だから彼は彼を畎畝に見だした國府氏と同樣に、知己の恩に感激して居たに相違ない所が彼には今一人忘るべからざる恩人がある、夫れは彼が生命とする文字を社會に發表すべく熱望して居た際氏の爲に紹介の勞を取つたのが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

其の人であつた、斯くして出版されたのが氏の處女作『農村と娯樂で』あつた、此の間の消息並に氏との交情に就て山本氏の語る處は實に左の通りである。

山本瀧之助氏

初めて逢つたのは、十年以前確か内務省であつたように覺えて居ります。當時私は些かな雜誌を出して居りました。内務省内の先輩へも送つて居りましたのでそれが偶天野さんの目にも觸れたものと見えました其の雜誌へ原稿を書いて送られました。ソンナ事が緣の緒となつたのでありまして、其の内『私は原稿を持つてゐるドコかで出版したいものである』といふような事でしたから『それでしたなら或る書店に紹介しましよう』。彼の處女作『農村と娯樂』が全くそれなのでありました。爾來今日に至るまで、幾十度か一つに話し幾十度か一つに食事し、西と東に別れてゐて幾百十度となく手紙のトリヤリをした事なのであります。

丁度昨年の十一月二十幾日かでした。私は上京したのでありますが、其の砌一と晩築地別院で開會中であつた青年團明治神宮代參者大會の席へ出ました。丁度天野さんもやつて見えましたので、『どうです、これから二人で洛陽堂主人の病氣を見舞はうではありませんか』二人連れ立つて、別院を出てアノ曲り角で電車に乗つて赤十字病院へ行きました。』と逑べ夫れより主人の病狀を叙し到底快復の見込はないこと。人間の果敢ないことを記し「二人で寫眞を撮つて置きたいものであるなど〻話しながらに、傍の牛乳店に入つて牛乳を飲んだり菓子を食べたりして尚ほも暫らく話しました。明るい電燈の下に立てば元氣も自ら恢復するので『二人で寫眞を撮れば、それは日本の青年團と處女會とが並んで立つてゐるようなものである』など、互に一人よがりを言つて笑つたのでありました。天野さん即處女會であることは申すまでもありません」と彼に處女會の代表者たるを許し『私は又天野さんのよく知つて呉れられてゐた通り、少し前から兀々と青年團の事を考へてゐましたので。」と自ら青年團の代表者を以て任じ更に尚一回の處女會指導者講習會のことを叙し、『會が終はりますと直ぐに東京發、平塚杏雲堂分院に天野さんを見舞ひました。講習會の樣子をば詳はしう話したいものと思つたのでありましたが、無理はありません死なれる一日前なのでありますものを』と無量の感慨を逑べそれから『天野さんは眞に優しい方

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

であリました』眞に好い人でありました、が併し決して弱い方ではありませんでした、どなたの前に立たれても、自分の意見は何處迄も怯めず憶せず、最後の目的に到達する迄主張されました』と結はれた。

天野君と同じ下宿に居た
佐藤博爾氏は語る

私が、はじめて天野氏の名を知つたのは、多分（大正八年六月）から一年程も前のことであつた、大層優れた才能を有つて居る熱心家であるとは聞いては居たが、その人と會ふのは下宿ではじめてなのである。私はその時既に一種の奇緣であるといふやうな感じを懐かずには居られなかつた。而も天野氏の室が私のぢき隣室であるといふことを聞いたとき、私は何となく喜ばしい感じに満された。

「では紹介して下さいませんか」

主人は、よろしいですともと言つて早速案内してくれた。私等が訪れたとき天野氏は何か運りに書いて居た。が、見も知らぬ私の訪問を奇怪だといふやうに暫時はペンを措いて向き直り、私から一應の挨拶を聞き取ると自分も親しみの深い語調で「ではどうぞお互ひに……」と愉快さうに挨拶をした。

それから大正九年の十月、夫人の淸子さんを迎へて前後八年間住み慣れたといふ此の秋山の家を夫人と二人で出られるまで私は壁一重を隔てゝ一年半といふものを天野氏と共に暮したのである。

天野氏も私も、壁一重を隔てゝ居るばかりとは云ひ毎日互ひに往來すると云ふのではなかつた、それと云ふのは私共は互ひに生活が忙はしかつた、天野氏は朝起きの早い人で、日の短い時ならいつも薄暗いうちに起き、夜は亦十一時又は十二時までも起きて居て、しよつちうペンを走らして居た。それは多くは著作や「處女の友」に出す原稿私は亦、朝も晩も讀書に追はれて暮して居る、私が書物を讀むで居ると、天野氏のペンの走らす音は何時もはつきりと聞こへて來て、その專心一氣になつて物を書いてる樣子が私は見るやうであつた。

かうして私共は互ひに自分の生活に氣が奪はれて落ちついて語り合ふ機會は少なかつたのだが、日曜とか或は、ひよつとした折合に、しんみりと話込むことも時々はあつた。」と天野君の勤勉を叙すると共に互に自己の本務に多忙であつたのを語り。

『そんな時に私共の話合つたのは多くは道德とか、修養とか、男女の問題とかいふものであつた。かうした場合に天野氏は自分の意見を述べるよりも、より多く私に話させた。そして何時も身を入れて熱心に話に耳を傾けた。私は今でも感心して居るが天野氏は、どんな場合でも、反感的に他人の意見に反對するやうなことは決してなかつた、世間には、相手から自分の意見の急所を衝かれると忽ち感情的に我を張り強ひて反對するものも少くない、けれども天野氏には、決してさうした卑劣な態度はなかつた。寧ろ相手の意見を容れ過ぎる位に紳士的であつた、』彼の包容的の性格を述べ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

『とは云へ、他人の言ふことを皆信じてしまつて、それを請賣りして我がもの顏に識者振ると云ふのでは無論なく、天野氏は何時でも自分の意見といふものを有つて居た、借り物でない、生半價でない自分自身のしつかりした意見といふものを有つて居た。そして自分の正しいと信じたことについては、誰れに對しても――先輩であらうが、恩人であらうが――決して己れを枉げるといふやうなことは斷じてなかつた、だから私との話に於ても、私の意見は私の意見として寛大に、尊重して、十分熱心に耳を傾ける一方には、自分の意見もしそれが正しいと信じる限りは飽くまでも十分にそれを主張したのである。』と彼の意志の强固な一面を語り此を別にしては『天野氏の話柄は何時も青年團や處女會の話ばかり。とり分け處女會の話となると何時も熱心の極度に達するのであつた、地方の處女會員の中には、悲しい境遇を訴へて來たり、抑へがたい煩悶の解決を迫つて來たりする人も少くなかつた。或るときは又、本人自身が天野氏の所にやつて來る人もあつた。此等の手紙に對する返事や、當人の處置には天野氏は最も苦心した。天野氏の性質としてその不幸な乙女に對して、よい加減な返事をすることは到底出來なかつたのである。私はかうした事件を聞く度に、そして天野氏の一生懸命な心配を見るにつけて私も自ら熱心に考へさせられたのであつた。』と彼の眞面目で熱心であつた事を語り。

今、私は天野氏のことを思ひ浮べると、『熱心』と『親切』といふ文字が眼の前に現はれて來る、さうだ、その熱心が實は此の懷かしい友の命を早めたのである、けれどもその熱心が天野氏の命を早めたが如く、どんなに處女會の發達を早めたことだらう。』かう思ふと、天野氏の死は悲しくもあり亦羨ましくもある。殊に此の懷かしい友の温かい眞情が私の心の中に永へに生きて行くと等しく、全國幾萬の處女の優しき胸奥に、温かく祕められて行くとならば、たとへ肉體が滅びたとて、天野氏にとつて何が心殘る所があらう。』と彼の精神や功績を賞讃して居られる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

天野藤男君を憶ふ

影山勝

明治卅六年一月一世の文豪高山樗牛博士の葬儀が博士生前の遺言により東海の勝地たる清水灣頭に擧行せられたことは世間周知の事である當時天野君は既に巴高等を卒業して靜中の一二年位であつたと思はれる。

博士の墳墓と天野君の邸宅とは相距ること遠からぬので日頃感傷的な同君は春花秋月花朝月夕をり〳〵此の偉人の英靈を弔ふては或る一種の靈感と琴線とに觸れたことであつたらう。

文星一夜清水の濱に墜ちて文華は徐ろに菴原の野邊に咲きそめた君は巴高等時代已に小さき詩人であつたが中學卒業後は若き詩人に化して當時の縣教育誌上に純なる白雲の雅號もて幾度か艶麗瀟洒の彩筆を揮はれた之等の幽雅精粹なる筆致詞藻は蓋し君が憧憬の表象であつた故博士の感應では無かつたらうか高山と天野林次郎と藤男。樗牛と白雲。ソコに何か先天的に神秘な詩契が交流するやうにも思はれる。

余は圖らずも一時君の師として巴高等に在職したものゝ爾來君は加速度的に向上し余は反對の軌道に逆行沈淪主客全く顛倒した然し雨に風に君の前途と君の健康とを懸念せぬ日とては無つた。君は元來蒲柳の質到底努力的事業に携はるを許さぬ然して家格は一村屈指の名門たる以上君は悠々自適閑雲野鶴を友とし靜かに文藝の培養者として將お坊つちやん的若旦那的詩人として一生を送らんも何等差支なき身分である否寧ろ其の方が身のため家のため幸福で有たかも知れぬ。

由來君は情の人であると同時に意の人であつた燃ゆるが如き耿々の覇氣は此の樂園を後に此の蒲柳を驅て自ら開拓し自ら鞭撻し自ら陶治し自ら鍛錬して多年學窓の人となり多年活動の人となつた。高材逸足嚢中の利錐は忽ち穎脫して固より一點青雲の志は無かつたらうが一抹の白雲は滿天に飛揚するの好運兒となつた羽衣の天女は斯して昇天したのである蛟龍つひに池中の物ならずとは古人吾を欺かずである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

輝ける君の才名は虹霓の如くに現はれた同時に余をして日毎夜毎に憧憬の情緒を强からしめた余は懐かしさの余り大正七年五月廿年ぶりの恩痴や恨みの「あこがれ」を混ぎ交ぜて山鳥の尾の長々しい文を君に呈したズルト君も日ならずして例の君一流の達筆で亦切々悃々の長文を寄せられた是が抑々君と余とが再會の因緣を結んだ動機である。

「小生は先生のお手紙に接し懐かしさに堪へざると共に恐縮の念轉た切實なるを覺ゆ　顧れば廿余年前巴校時代の恩情は日夕忘れんとして能はず然るに先生より「君は忘れんとするも予は忘れずの」一語に接し寧ろ先生を御怨み申候……先生と永田先生とに對しては一方ならぬ御愛顧を蒙むり今尙古き日記に先生の御檢印あり時々文庫より抽き出しては昔なつかしさに吾を忘れ居候……然し小生が半人前と相成候は偏に先生方の御恩情に外ならず御高恩生涯相忘れ申すまじく候、ア、天は必ず〳〵小生をして是の小志を成さしむる時機を與へ給ふべし小生も生涯其志の一部を達せざる間は死せざるべし天亦殺さゞることと信じ申候獨身生活は御獎勵下され候も右は小生のみの理想にて萬人に勸むべきものならず、只如何にもして靑年處女の味方として生涯を畢りたく一人の妻に對する愛の力を萬人の處女に注入したく此點に小生は孤獨を慰し居候御憫察被下度候……早く御目にかゝりて廿年の御わび致し度且先生よりの御物語をも伺ひたく候先生よ小生は丈こそのびたれマダ其昔の小童子小生も御面影を偲び居候必ず〳〵思出深き種々の物語これあるべく只其機會の來らんことを一日千秋待居候「人生易レ老志難レ成」先生小生は旣に而立の年に達し申候今更驚かれ申候何を申上て宜敷きやら思出は泉の如く筆は走らず只其内必ず〳〵御目にかゝるべき日を樂しみ居候東海道はなつかしき通路唯一日をゆる〳〵先生と御物語致したく御ゆるし下され度候山青く水淸き富士山麓は小生の理想の地先生の御生活の益々多幸ならんことを念じ申候……」

謙讓の辭と熱烈の情とは紙面に躍動して惻々肺腑を衝くものがある所謂生きながら肝胆を白紙に塗り付けたものでは有るまいか勿論天野君は將來此の書面が公表せらるゝことを豫期して一大範文を示さうなどの野

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

心が有つて草したものではない只嬉しさが込み上て一氣呵成に纒綿たる情緒を走らせたものである「出師表」を讀んでも涙の落ちぬ余は君の此第一信に接した時は殆ど落涙の禁じ得ぬものが有つた「小生は生涯其の志の一部の達せざる間は死せざるべし天亦殺さゞることゝ信じ候」何等悲痛の叫びであらう「一人の妻に對するの力を萬人の處女に注入したく」何等熱烈の聲ぞ君は後年妻君を迎へられたが此の理想は決して變らなかつたらう。思へば天は無情である。

かくて大正八年の一月君は久々にて余を訪ねんとて鈴川驛に下車せられた相逢ふた其の一刹那嬉しさは互の心に溶け合て二人の兩眸からは熱涙潸々しばしは沈默しばしは無言。

眷戀的な衝動は此の一幕に一切を滿足させた主客師弟は廿年ぶりに一夜を岳麓の茅舍に語り明したのである是が御緣となつて同じき八年の十月天長節には君は京都なる日活會社技師牧野省三氏一行と再度余が村に來つて前後四日「都に憧れて」の活寫フイルムの撮影を演ぜられた弊村の處女會が圖らずも雲霧に乘じて天下に喧傳せられたのは畢竟するに斯うした偶然の動機から出來たことで虎の威を藉りた狐ほどの野心も無かつたがまー氏なくして玉の輿に乘つた果報物の一部であつたかも知れぬシカシ「都に憧れて」の發端に於て既に須津をバックとして描き出し最後の附錄に於て「恩師校長影山」等の文字が散見するのに徵しても余は君が如何に報恩感謝の念に厚きかを直觀せずに居られない死せる天野は永久に生ける影山を泣かしめるのである。

世には能文家あり雄辯家あり實行家あり指導者ありされど一人よく此の凡てを兼有するものは少し天野君の如きは蓋し其内の一人であらう。

世俗の所謂文藝の士は單に藝術の獨立を叫んで動もすれば倫道秩序を無視する傾きがある文藝道德兩者の調和を圖つて國體の擁護民力涵養の宣傳に努めたる君の文化運動は眞に偉大と謂はねばならぬ。

「強く優しくマジメに働く」處女を作るべく君は大正七年一月以來幾多の私財と幾多の精力とを傾注して雜誌「處女之友」の發刊經營に苦辛せられた所謂「一人の妻に對する愛の力を萬人の處女に注入したく」の理想を實現したものか承れば毎號中々の難産で有つたとか如何に貴き犧牲では有まいか此雜誌の一頁一行毎に天野君の心血が漲つて居るかと思へば眞に深き有り難味を感ずる君が天壽を全うし得なかつたのも遠因は茲に在るのである思出深き片身見は今茲壬戌の新年に五卷の春を迎へたが產みの母たる君は人生の半卷をだに經過せずして空しく彼の世の人となつて仕舞つたのである噫天道は是耶非耶。

就中忘るゝ能はざるは君の杖と君より惠まれたる帛紗である大正八年活寫撮影當時君が曳き來つて余が許に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

忘られたる一竿の愛杖は今尚孤影蒼然一人淋しく殘されてゐる是ぞ眞の忘れ形身か惠まれた三越製の帛紐は昨秋圖らずも君の葬儀に香資を包むの手向草となつた何たる哀れな運命で有らう。

私の追想する天野君

三輪田元道

確か天野君を私へ紹介されたのは福島四郎氏であつた。會つて見ると天野君の地方より東京へ出るやうになつたのは、私の常々尊信する國府氏の斡旋によることが知れ、爾來安心して交際した。併し最初役人の一種であると、同君が自ら言はれたから、ビユーロウクラテイックの人と思ふたら、案外デモクラテイックの人で嬉しく思はれた。

人は第一因象によつて判斷することが出來るけれども、第二否第三因象等によらされば中々其機微に觸れることは困難であらう。私が天野君に初めて接したとき、弱い微かな聲をする方であつたから、所謂蒲柳の質で、迚も處女會などに出て、聽衆に感動を與へる演説などは六ケ敷と斷定した、所が事實は之を裏切りて其の消え入るやうな音聲が如何にも熱心で眞面目で聽衆をチャームするに足ることを經驗した。寧ろ雄辯な大音聲の談は嵐の通るやうなもので、其場限ぎりであるも、天野君のやうな音調の人は後まで何物かを聽衆に傳へることを知つた。故に天野君の弱い體質に基く微かな音調は天野君特有の寶であつたと言ひ度い。

又人は見かけによらぬものである、天野君は柔和な姿を有して居たけれども、非常に心の勇氣に富んで居られたと思はれる。如何となれば人は概ね意思の弱い爲め僞善と虛僞の奴隷となり易い。然るに天野君は結婚に際し、結婚成立の由來及び相互の心理情態等をありの儘記述して知人友人若しくは先輩にまで發表された。之れが爲め君を非難するものさへあつたけれども君は少しも恐れなかつた、實に君は精神上の勇者であつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

要するに、君は田園の處女に對して深い〱同情を有つて居られた。如何とかして其向上を謀り、以て精神生活の意義を味はしめんと盡力されたことは、君の死を益〱惜からしめた所以の一である。

特に、君は令閨を衷心より愛し又信じて居た。而して斯る令閨の看護を受けて永眠された。故に君は若死に相違なきも、無常の世にある限りは勝手は言へぬから、先づ幸福な生涯を送つた方と言はねばならぬ。唯處女會さへ發表せば君は地下にて歡ばれるであらう。

熱情の人

福島四郎

天野君と私とは、さう長い年月の交際ではない。けれども、處女會中央部の創立に、憂苦を分つて經營に當り、時には先輩の感情を害し、時には寄附金を貰ひに歩いてイヤな思ひなど共にした爲め、年月に比較しては、隨分親しい、且深い交りを結んでゐた。隨つて君の性格については、相當によく理解してゐるつもりである。

一言に約すれば、君は熱情の人であつた。別に、舌端火を吐くやうな熱辨があつたわけでなく、聽く者をして血を湧かしめるやうな談論は爲し得なかつたけれども、胸裡には常に、處女に對する同情の火が炎々として燃えつゝあつた。この熱情のために、君は一身の利害を顧みるに遑がなかつた。一部友人の嘲笑をも意とせなんだ。一身の健康をも犧牲にして過度に働き、時には一日以上絕食の熱ある病體を汽車に運ばれて、講演會に出席したこともあつた。

君の思想は、時に空想に近いほど現代離れのしてゐることがあつた。よく君を知つてゐる私にでも、あまり變だと思はれるやうなことが無いでもなかつた。が然し、後から考へるとそれも熱情の結果で、處女團體を發達させ、處女の幸福を增進せしむるために、君は他の何物をも顧みないのであつた。

世事實務に迂濶であつたことは、君の缺點といへば言へやう。物の裏面を考へるやうなことをせず、表面

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

だけの親切をどこまでも親切として受取り、外觀だけの好意をも心から感謝した。そして、理想の光を常に望んで、わが足元の暗黒に無頓着であつた。これは、君の缺點であると同時に亦私の缺點でもあつた。然し二人共に之を悔いず、これあるが故に、人生本來の純眞を保ち得るのだと信じて居た。けれども、この共通の缺點を有する二人が專務理事となつてゐては、處女會中央部の社會的發展は期し得られないので、私は大正九年八月を以て、自分の任を田所君に受け繼いでもらふことにしたが、果せるかな、田所君が私に代られて以來、君と長短相補ひ、僅に一年餘にして、中央部は着々その基礎を固め、著しき成績を示すやうになつて、無論中央部の今日に至つたのは、創立の抑々から熱心力を盡された山脇理事長初め他の理事評議員の方々の骨折が重きを爲してゐるには相違ないが、天野君の終始一貫した熱情と、田所君の綿密周到なる手腕とが相伴はなかつたなら、到底今日の結果を見ることは出來なんだらうと思ふ。

今や處女會中央部の基礎漸く成り、いよ〳〵實際的の活動に入らんとするに當り、その中心人物であつた天野君を亡つたことは、單に中央部のみならず、全國處女會にとつての一大損失であるが、然し君の熱情は永久に生きて中央部の上に燃え、之が活動を助けるであらう。

思ひ出

吉川民子

「天野藤男樣私があなたを識りましたのは丁度今より五年前でした。あなたが青年男女の指導に起つて熱烈なる眞情と醇潔なる至愛とを捧げて筆に口に其心血を吐いて居られるのを見て、此道より多大の趣味と聊かの經驗を持つて居る私は實にうれしく有難くいつも陰ながら感謝を捧げて居りました。」

而して私は此感謝の意を表はすべく婦女新聞紙上の餘白を借りて一文を揭せたことがありました、其時あなたは婦人側からの聲援を得たことは此上なくうれしかつたとて大そう悅んで下さつて私の住所をおさがし下さつたさうでございますね。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

私の方からもぜひ一度お目にかゝりたいと思ひまして内務省の詰所にお訪れ致しました、それは丁度午後の二時頃でありました、大きいテーブルの上にいろいろの書類がうづたかく積まれてあつてあなたは其れを一つ一つに調べて居られました。私が初對面の挨拶をするのも待たず處女敎育につきてのお話をなさいました。私の意見も眞面目に聽いて下さいました、互に經驗談を交換して時間も忘れて居る内に室内はまつ暗になつて來ましたのであはてゝお暇を致しました。

あなたの此熱烈な努力は全國幾萬の處女を自覺せしめて自己の本分を盡すべく修養の必要なることをさとり求めて止まざるの決心は到るところの處女團體となりて現はれ、又一方には幾多知名の人々を起たしめて中央部の設立となり、機關雜誌の發行となり、着々と其理想は實現して遂に今日の盛運をむかへたのであります。

一昨年の十月海上ビルデイグ中央亭の一室に結婚御披露の淸會が催されました。麻生先生の御披露から始まつて新御夫婦の挨拶、來賓の祝辭それから簡單な茶菓の饗應があり、各自思ひ〳〵の揮毫をなし一同撮影をして、紀念品としてあなたの御著書青年團及處女會を配付されたので終りました、何といふ淸らかな美しい結婚披露會でありませう、虛榮や情實や陋習に囚はれた汚たない結婚のまだ〳〵多い世の中に毅然として己の理想を斷行せられた勇氣に向つて一同はかぎりなき尊敬をさゝげたのでありました。

其後神保町のお宅へお祝ひに上りました時は新婚御當時の美しい、樂しい、春光の滿ち〳〵た御生活でありました。それから一ケ月ほど經つた頃でした自分の研究上のことで夜中お訪ねしたことがありました、此時は他に二三人の來客もおありになつたのにも係らずいろ〳〵の書類を出して參考になりさうなことをあれか、これかと丁寧に調べて下さいました」

思ひなしか、今思へば其時の御様子が何だか淋しかつたやうに覺えます、悲しい哉これが最後の御面會になつてしまつたのであります。これから先きは筆もちゞんで書けません。

九月に開かれた中央幹部の相談會の時、「どうか講習會の終るまで天野さんの生命を保たせたい」と皆様の言はれるのを承つて始めて御病氣の重態なるを知り私の驚きは並一通りではございませんでした。

しかしあまり短い御生涯に建設された偉業はいつまでも消えず滅せず、あなたの御靈と共に永しへに生きて人を敎へ世を導くを思へば又幾分慰められるのであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

花の咲くをも待たで

跡見李子

社會事業にしろ、學校の經營にしろ、何か世のため人のためにと、一つの仕事を守り立て丶行く事は容易な努力ではありません。

天野氏は性來お弱い方でありましたのに、地方婦人のために一身を捧げて骨を折られました事は全く痛ましいまでに氣の毒に思はれます。

永い間の努力でやう〳〵これまでに處女會を育て丶來られ、地ならしが濟んで、芽生えを見、今から伸びやうとする折から、中心となつて働いて下すつた天野氏が、若くして逝かれた事は、まことに惜しい事であります。これ丈け苦心して根を下し、地盤を固められた處女會の花咲くをも見ずに逝かれた事は、會のためにも此上もない殘念な事であります。

折角これまでに苦心して地ならしをなすつた處女會の事ですから、今後天野氏と同じく熱心に會のためにお盡し下さる方があつて、この處女會を育て、やがて花咲かせ實をも結ぶやうにしたいと思ひます。

優しい中に意志の強い方

山脇房子

天野氏は多年處女會のために努力され、その熱愛する處女會の事業がやうやく發展の緒についた折、無限の思ひを殘して逝かれました。

この夭逝は天野氏のためにも悲しい事であると同時に處女會としてもほんとうに惜しむべき事であります天野氏は極やさしいまた一面に意志の強い方で自分の信ずる事のためにはあくまでもその意見を主張し、それが如何なる方の前でも少しも躇躊する事なく發表されました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

そしてまことに純な心で、すべてを善意に解し、人のする事はよく受け入れて、常に感謝の念をもつて居られたので、私どもが、それほどでもないと思つてした事でも非常によろこばれ、眞心から感謝されて居ましたことは誰れも同じく感じてゐました。

さういふ性質でありましたので、病氣中にも或時は病床に自ら筆をとられ、或時は夫人に代筆させなどして容體を告げられ、病氣重くなられても毎々音信をされ、その文中にはいつも講習會に對する感謝の心の籠つて居ない時はありませんでした。

天野氏の念頭には處女の愛導、處女會の發達農村の開發より外になく、文章に講演にこれらのために全力を擧げてつくして居られました全國處女會指導者講習會が都合よく終了した其翌日永眠された事は何か其處に因緣があるやうに思はれてなりませぬ。

天野氏の精神を集中され、危篤中にも片時も念頭を去らずに思ひつめられたその講習會が無事に濟んだと聞いて安心の中に安らかに永眠された事は全く痛はしい極みであります、このことを思ひますと今でも胸が一パイになるやうです。

永く獨身で居られ、一身を社會に捧げられた奮鬪生活の中に唯一點の光明として、理解ある夫人を迎へられ、新らしい家庭生活に入られた事は私共もひそかにお喜び申して居ましたが、平素あまり丈夫でなかつた身體を事業に熱誠なために無理をされた事が障つてかく世を早く去られた事は此上もなく殘念なことであります。

天野氏の壽命は短かいものでありました、まだ〳〵前途なすべき事の數々思ひ殘して早逝されたことを心から惜しまれます。けれども他の人の永い生涯にもまして立派な事業を殘して行かれ、假令肉體はこの世の中から離れても、その精神とその事業は永遠に生前の功業を語り、長生の人にもまして意義ある生涯であつたと思ひます。

全國處女のために身を捨てゝつくされた天野氏の靈を慰めんため處女會に關係のある者一同は皆力を協せ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

て處女會の發展をはかり、天野氏存命中にもまして會のために努力し、その靈魂をなぐさめるやうにしたいと思ひます。そうすれば大切な仕事を殘して逝く事を無念に思はれた天野氏も定めし滿足であらうと思ひます。

毎月處女の友に發表された、あの流暢な文章も拜見する事が出來なくなつたと思ふと、言ひ知れぬ淋しさを感じます。

せめて處女會の功勞者である天野氏の記憶を讀者と共によび起すために、その著書の中から月々一頁なり二頁なりを處女の友に發表する事も意味ある事でないかと思はれます。

處女會の趣旨を傳へ、處女會の指導機關として生れた處女の友は少しでも擴張しなければなりませんので、天野氏が地方に講演に行かるゝ度にその宣傳を依賴したのですが、天野氏は少しも廣告的の態度をとられず、いつも控へ目にして居られたのは、天野氏の性質の一端を語つて居ると思はれます。

處女會と生死を共にして

吉岡彌生

私は地方に生れながら、久しく都會にのみ生活してゐまして、折々は思ひながらも割合に地方の事情に通じて居りませんでした、ところが大正七年の春天野氏が訪ねられて、地方婦人の向上と發展とのために努力しやうといふ心持を熱心に述べられましたので、その眞心に感じて御援助する事になり、それから同志が集つて處女會中央部といふものが出來た次第であります

これまでに天野氏は容易ならぬ苦心をされた事は申すまでもなく、處女會中央部が出來てからも殆んど處女會と生死を共にせんばかりの決心で奮闘努力されまして、やう／＼處女會中央部の事業もその光明を見出した折から、處女會といふ大切な仕事を殘して逝かれたといふ事は天野氏にとつても殘念であるばかりでなく、處女會にとつても大恩人を失つて誠に悲しい事

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

であります。

近來農村の青年が都會へ都會へと憧るゝ一面に、青年團といふものも出來て、その向上發展もめざましくこれら目ざめた青年の伴侶となるべき處女が、昔のまゝにうか〳〵して居ては、地方の青年を滿足させる事が出來ないといふので、處女會のために一同力をつくした次第でありますが、とりわけ天野氏は處女會のために一身を獻げて骨を折られました。

天野氏は眞面目であり熱心であり、非常に直な所があつて、自分の思ふ所はどん〳〵發表して、それが假令自分個人としては不利益であつても、社會のためといへばあくまでも意志を徹されました。

この卒直な所が天野氏の長所であると共に役人として損な所もありました。かういふ風で役所に勤めて居られた時も間違つた事であれば上役の人に向つてでも自分の意志が了解さるゝまで主張されましたので、或時は憎まれもし或時は不利な目にも合はれましたが、正しいその心持は死後までも人のよく知る所となり、潔白な心といふ事を多くの人が感ずるやうになりました。

天野氏は社會改造といふ事にのみ心をよせられ、とりわけ處女會の向上發展といふ事には殆んど變り者と思はるゝまでに熱中して居られました。

社會の幸福のためにといふのが天野氏のすべてが其のためには自分の不利益といふ事も、自分の幸福といふ事も更に念頭に置いてなかつたやうであります。

かうして苦心の結果やうやう基礎が出來上つた處女會の事ですから天野氏も今後尚一層の努力で發展させ度いとの希望でありましたでせうが、その生死を共にせんとまで熱中された處女會を殘して若くして逝かれた事はどんなに殘念でありましたでせう。

處女會もまだ〳〵前途なすべき事多く、これから眞に活動せんとするに際し、中心人物を失つて、一時は私共もどうなるだらうと失望した次第であります。

然しこれも一面から考へますと、今まで天野氏に多くを望んで一人骨を折つて頂いてましたが、この不幸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

に際して、關係者一同が緊張して會の仕事を眞劍に考へるやうになつたとも思はれますので、これが關係者一同の刺戟劑となつて、協力一致處女會を育くんで行けば天野氏の死も無意義でなかつたと思はれます。
たとへ天野氏の肉體は亡びても、その精神は永遠に處女會に流れて居ますゆゑこれをます〳〵立派な會にして行く事が私どもとして天野氏の靈をなぐさむる唯一の仕事であらうと思はれます。

尚生きて何ものかを語る

嘉悦孝子

私が初め天野氏にお目にかゝりまして、處女會のために盡された事を承りました時に、如何にも眞面目に熱心に、諄々と説かれましたので、その熱誠に動かされて、處女會の理事として働くやうになつたわけでありますが、それ以來殆んど骨身を惜しまず努力されたやうに見うけます。
今天野氏を失つたのは、處女會にとつて大事な親を失つたやうでありまして、個人としてのみでなく、國家としても本當に惜しい事でありました。
然し一方から考へて見ますと、天野氏としてもその全生命を賭してかゝられた處女會もやう〳〵盛大になり、前途ます〳〵見るべきものがありますので、假令永眠されても滿足であらうと思ひます。
そしてこの天野氏の死によつて、關係して居る者が努力し、その遺志をあくまでも貫徹させてあげ度いと一生懸命になりますれば反つてその死も無意義でないかと思はれます。
理事會に列席して見ましても、理事の方が一同天野氏の生前にもまして緊張した態度で、眞劍に處女會に就いての御相談をして居られますので、かうして集つた理事の中に天野氏が尚交つて居られ、生きて何ものか私共と同じやうに語つて居らるゝやうに思はるゝのであります。
天野氏の肉體は全くこの世から失せてしまひましたけれどもその靈魂はいつまで〳〵私共の周圍を去らず私共といつしよに無言の言葉を發し、私と共に處女會の前途を考へて居られます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

清子夫人の見たる藤男君

旣に諸方面から藤男君の正影を偲ぶべく書いて見たが尙極めて大切な一方面がある、夫れは彼のベタハーフたる清子女史の見た藤男君である

月の夜み墓に隻影袖を嚙む
君何所にかあはれとや見ん

とは彼女が月夜墓側に佇みての哀吟「噫藤男樣、貴郞は逝つてしまつたのですか、もう何處を尋ねても貴郞の姿は見られないのですね、あれほど諦めのよい、思ひ切りのよい女だ淡泊り過ぎるといはれた私が貴郞の亡骸を見て、其れを骨にして其れを拾はせられた私、またしてもこんな悲しい繰言を叫ぶのか、叫ばずに居られないのか、いや私は叫びたい丈叫び、泣きたい丈泣きませう」と

血を吐く思ひ

を語つて居る。加賀の千代が「起きて見つねて見つ蚊帳の廣さかな」と歌つたのは實に能く其の心を語つて居る、吾人も子供を亡つた時、眞に此の句の妙を味つた。其の境地に立たなければとても本當のことは判るものでない」立ちて見つ坐りても見つ家の廣さかな」これが千代の句をその儘可なり廣い家に於て四歲の長子を喪つ時の實感であつた。今清子女史の言を聞いて其の眞情を洞察する、彼女の言を露骨に過ぎると咎めるのは氣の毒に思ふ、彼女は重ねていふ「貴郞が生命を堵して愛された處女會は淋しく殘されてしまひました。懷しい人々をなぜ遺して去られねばなかつたでせう、老ひませし父母を遺して獨りよみぢに赴かれたのですか」と、そして父母の歎きの言葉を連ぬ「未知の人から、敬い先輩の人々から、限りなく送られた弔文弔電を手にした時、自分の子ながら、これ程の子とは思はなかつたと母上が申されました」と書いて居る。

「金があり餘るほどあつたのでもない、高位高官にあつた人でもない、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

贅澤も出來ず權力も振はれなかつた虛弱の上に薄給と貧乏と、冷淡と無情と嫉視と嘲笑との中にありて、理想と愛とに生やうとされた十年間は立派な悲劇でした、實に尊い生涯でした」と語つて居るのは眞相であらう。田子氏の言も之を裏書して居る「殊に私といふ一人の小な女性のために拂はれた犧牲は實に深甚なものでした、貴郎に依つて靈妙な世界を知り、あなたに依て本當の愛と力とを知り、神を感謝することをさへ敎へられたのを感謝せずには居られません」と言つて居るのは、如何に彼が彼女を愛し彼女を導いて居たかが思ひやられる。彼が青年會處女團を指導すると曰はずに愛導といふ言葉を使つたのも思ひ合される。

「兩親の無い淋しい私が愛といふことを離れて世を儚なみ、世を疑ひ、終には哲學や宗敎に依て其の苦悶を拂はうと悶えて居た時、愛の力に依つてすべては解決されるもの、

愛は人世最高の幸福

人間最終の結論だと仰つしやつて、私を光明の世界に導いて下さいました。以來私は一日に一度は必ずあゝ私は幸福だと口にしないことはなかつた、其れ程私は最大な幸福者になりました。貴郎の靈の失はれた事に依つて私の靈は救はれました、貴郎の死に依つて一層貴郎を理解することが出來、一層敬意も湧いて來ました」

彼女の靈は救はれた、彼の死は無意義ではない、彼女は悲む代りに喜ばなければならない、感謝しなければならないのである。何にしても斯くまで感化を與へた彼の力は偉大である。

「處女會は貴郎の生みの子でした、最愛の娘でした、處女會の爲なら總てを忘れて突進されました、客年十月の講習會は實に貴郎の歡喜の第一聲でした。曙光にまばゆき希望が今やその現實に入りし第一歩の感がしました。病床にその盛況の報告を得た時、貴郎は狂喜されました、そして先輩諸賢が今回の努力を思ひ「感謝無限」の絶筆を殘して永眠に就かれました」とは彼の心情を能く寫して居る。或る人が「獨身で處女會をする物好きさ」と馱句つた事があるとかで、之を聞かされた彼女は無量の感慨に打たれて暫く沈默を續けたさうだ。そして「物好きでする仕事が、どうして身命を堵して出來ませ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

う」と抗言して居るが、物好きだから出來るのだらう。彼が處女會の爲に盡したのは利益の爲でもなければ名譽の爲でもなかつた、趣味であつた、嗜きでやつたのである、其所に尊さがあり、其所に生命があるのだ。勿論駄句つた人には冷笑の意味があつたらう、併し物好きの處に價値のあることを認めなければならぬ。

「弱者に味方し、可憐な女性を慰め、閑却されて居る野の乙女をいたはり、日蔭者を見舞ひ、賤業婦を訪づれ、何人に對しても一視同仁、異りなき愛を注ぎ、人格を尊重することに於ては高下なく、能ふ限りの敬意を表して居ました」だから時には上司の忌諱に觸れたこともあるが、又無限の感謝を青年處女から受けたこともあろ。

「私はその境遇とその家庭と其の父母とを見たとき、貴郞の其の性格を思ひ出しました。そして決して偶然でないことも分りました、あの豐けく美しき自然を背景にして、あの綠の庭と四季の草花に包まれし恩惠多き家庭に人となられた貴郞は、此等に負ふ處が尠くないと思ひます」と先づ背景として四圍の模樣を描き、更に「武士的で嚴格な、而も溫厚にして堅忍不拔な父君と、情愛深く聰明高雅な母君を思ふ時、貴郞の人爲が決して偶然でないことを知りました」と兩親の性格を寫して居る。

清子女史は尙他の方面から種々のことを見て居る。併し旣に記述されたものと重複するから省くので、彼女の見た總てでない事は申す迄もない。更に彼女のかいて居る日誌の數節を掲げることにしやう。

一月十六日　日、留守で淋しい、外は寒い、白梅が咲いた。

　宣傳の旅路に雪が降る
　　尊く聖き我が君に、神の御加護あらまほ
　　し

祈りたい樣な目に泪が湧く、あゝ嘸寒からう

一月十八日　火、手紙が來た。

「兄ちやん」と袖にまつはる人がなくていゝ、さつぱりして、然し淋しからうと思ふと僕も淋しい。

二十日に歸るとある、今日は暮れたから明日一日待てばいゝ。

一月二十五日　火、晝間突然靑い顏して歸つて來られた。「床をとつて呉れ」私は驚いた、すぐお休ませした。頭が痛む、熱が出る、夕方からだん／＼快くなられた。

處女讀本の校正を口述され手傳つた。處女の友の原稿を書いて看病した。

講演依賴の手紙が來た「二月十三日？　僕行かう、はつ子さんの所だ」「だつて」「なにもう明日起きる行くよ」「でも」「いゝや返事出しておけ」

講演や處女會の事なら身體の事はすつかり忘れられた樣だ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

年譜

明治二十年 一歲 九月二十五日生

同 二十七年 八歲 尋常小學校へ入學

同 三十一年 十二歲 尋常小學校卒業、巴高等小學校入學

同 三十三年 十四歲 休暇日誌 自三月十八日至四月四日
病中日誌 自六月九日至九月二日（北清事變）

同 三十四年 十五歲 備忘錄 一冊 雜訓固有名詞其他雜錄

同 三十五年 十六歲 高等小學校卒業
靜岡中學校入學

同 三十六年 十七歲 第二學年 毛筆書數點あり

同 三十七年 十八歲 第三學年

同 三十八年 十九歲 第四學年 暑中日誌 日露講和成る

同 三十九年 二十歲 第五學年 甲州旅行

同 四十年 二十一歲 中學卒業 小品文集 校友會雜誌等に文章を載す

同 四十二年 二十三歲 雜誌「學友」を主錄す

同 四十四年 二十五歲 一月國府氏と清見寺に會見す

同 四十五年 二十六歲 上京

大正二年 二十七歲 神田大火「農村と娯樂」を出す

大正三年 二十八歲「田園趣味」「故郷」

同 四年 二十九歲「都市より田園へ」

同 五年 三十歲「四季の田園」「親愛なる農村青年へ」「花と人生」

同 七年 三十二歲 青年團及處女會

同 七年 三十二歲 鎭守の森と盆踊

同 八年 三十三歲「都に憧れて」の活動寫眞を作る
活動寫眞を公表す「地方の婦人」

同 九年 三十四歲 結婚「青年と處女の叫び」

同 十年 三十五歲「都に憧れて」「大正新處女讀本」
十月死亡

其の他花と人生、地方青年團の現在及將來 地主と小作人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

葬儀の日に

全國幾萬の處女の上に温き愛導の香りを殘して、肉體は永久に此世を去られし天野藤男氏の葬禮は、大正十年十月廿日その鄕里なる庵原村にて行はれました。

村の青年處女、有志などの參列者多く、又內務省からは總代として井上一氏、處女會中央部よりは田所理事、中央報德會の山田秀芳氏など列席されました。

床次內務大臣の弔電を初め田子社會局長宮內省御用掛國府種德氏、處女會中央部代表山脇房子女史 青年團中央部中央報德會 其他數十通の弔詞が次から次に讀まれ、讀經の聲堂に響く中に式を終りました。

左に弔詞の一部を發表いたします。

處女會中央部弔詞

處女會中央部理事天野藤男君逝てより一旬、君の鄕里に於て告別の式を擧げらるゝに方り、一言茲に君の英靈に告ぐ。

顧ふに世界大戰亂の餘波を受け、列國共に國力の恢復に是れ勉め、第二の時代を負擔して起つべき青年處女の意義精神亦尋常にあらず。是の時に當て我邦の如く、青年の修養に關する施設既に一世の視聽を惹くものあるに反し、之と車の兩輪鳥の双翼を相成すべき處女の訓練に於て尙未だ兩々相駢せ進むを得るに至らざるの域に在るを觀ては、之が爲に畢生の心血を瀝き盡したる君の長逝は、誠に全國處女會の一大打擊にして又直に邦家の著大なる一損害たるを失はず。

然れども君が渾身の力を傾注したりし我處女會中央部の事業も、近時著々として進展の緒に就けるあり、之が創始の事業たる全國處女會指導者講習會も亦豫期以上の成果を收め得たるのみならず、君が年來の赤誠高く天闇に達したりけむ、畏くも皇后宮より特に御養蠶室の拜觀を差許され、講習員一同感激に勝へざりしのみならず、君が處女會の爲に一身を捧げ、遂に病苦を釀すに至りたる由聞召され、辱くも御菓子を賜はるの光榮を荷はるゝに至れり。我處女會中央部創立以來君に負ふ所の至大なるものあるや固より言を待たざるに加へ、更に此の光榮を分ちて遽に鼎の重きを加へたるは、我中央部の歷史に於て特筆大書すべき所に屬する君の病將に此光榮を告げたる九月末より一時病勢良好に嚮ひたりしに、幾くもなくして疾遽に革まり、講

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

習會の終了したる翌一日講習會員の御養蠶室を拜観したる翌日を以て、君は遂に去て白玉樓中の人となれり。君の志や酬ひられたりと雖、特に往て講習會の盛况を告げんとするの日、君の既に在らざりしは眞に哀怨痛悼の至に勝へざる所なり。殊に今後處女會啓導の任務愈重からんとする今日、忽ち君の如き不撓不屈の一努力者を喪ひたるは惜みても尚餘りありと謂ふ可し。但夫れ我中央部のあらん限り、全國の處女と共に君が志を繼ぎて關係諸君の益淬礪努力を加ふるあり、君其れ以て瞑す可きなり。君素と田園の趣味を皷吹するを以て自ら任とし、夙に農村を出でゝ東都文筆の壇上に一旗幟を立てたり。田園趣味の皷吹より一轉して意を農村青年の修養に致し、更に一轉して力を地方處女の訓練に傾けたりしに、今や君は其最初に皷吹したる趣味の中心ともいふべき田園に歸りて、茲に郷里の農村に其骨を埋めんとす、君の一貫したる精神是に於てか愈貫徹したりと謂ふべし。君其れ安じて此に永眠す可きなり。

今君が告別の式あるに當り俯仰殊に無量の感に堪へず、乃ち敢て我中央部の君に負ふ所大なりしを一言し以て弔辭と爲す、君の英靈其れ髣髴として來て此一片の眞情を饗けよ。

國府種德氏悼詞

泊雲天野藤男既に徂けり、去て何れにか之ける、君が往くべきの地、九天の上にも九地の下にも、決して之あるべからず、疑ひもなく君の遺骨は君が最愛の郷里に歸るべく、君の英靈も亦依然として全國處女の側を離れざるべし。

顧みれば予を興津清見寺の僧房に來訪せられ、初めて君と相識りし以來春星秋霜を閲すること既に十有五たび、君の疑ひあるときは必ず來り質し、惑ひあるときは必らず過りて詢ふを例としたるに、君の予を視ること兄の如きに反して予遂に君の爲にすること弟を視るが如きを得ず、君予に負かすして予君に負くること少からず、俯仰愴然爲に無限の感に堪へず。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

首を回せば予の初めて君を見たるの時、君は尚二十歳の一青年に過ぎざりしに、嗣來君の一たび東京に出で其天與の文藻を發揮して著作の事に從ひ、終に處女會中央部の理事として筆を雜誌處女之友に執り、兼ねて禁酒會雜誌の編輯を擔任し、内務省を根據として其天才を縱横無碍に展舒するに至りしを觀るに、蔚として既に一家を成し、其前途や眞に刮目して觀る可きものありしを、惜い哉天君に假すに春秋を以てせず、空しく有爲の才を齎らして早くも去て白雲の郷に遊び、幽明其域を殊にして今や復君の音容に接するを得ず、今にして愈予の君に負くの少からざりしを愧づること切なり。

然れども君が滿身の心血を傾注したりし處女會中央部の事業も、君の希望したりし如くに其歩武を進め、君が日夜夢寐を勞したりし處女訓練の施設も、漸次其緒に就くあらんとし、全國の處女知ると知らざると何れも君の爲に捐て去られたるを哀み悼まざるなし、君たるもの其れ以て瞑す可きなり、況や病牀に呻吟するの時、畏くも
皇后陛下の特別なる懿賞を賜はり臣子として光榮焉に尚ふるものなきに於てをや、君が嫣然微笑して徂きしを疑はざるのみならず、地下尚依然として感激するや必せり。

今君の郷里に歸り葬るに當り、橙黄にして橘正に緑なる時を以て、君の柩と永久に訣別せんとし感愈深きを加ふ、乃ち一言至情を披瀝して君の英魂に告ぐ、庶幾くは其れ彷彿として陳て予が一掬の微衷を享けられんことを。

田子一民氏悼辭

天野藤男君嚮に病を獲、百方療養に盡したりしも遂に癒えず、溘焉として長逝せらる、洵に哀悼の情に堪えざるなり。

君は靜岡縣の模範村を以て目せらるゝ庵原村に生る父久太郎君忠誠村事に竭し、夙に令聞あり、君資性聰明文筆に長じ、熱烈の情亦自から人を動かすものあり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

君の明治四十五年を以て職を內務省に奉ずるや、專ら地方開發の事務に從ひ、青年團處女會の調査及之が聯絡指導に關しては、特に最も其の力を致せり、君の斯業に對するの厚き、更に一面公務の餘暇を以て之に關する幾多の好著述を爲し、又絶えず新聞雜誌を介して其の意見を公表し、名聲世に嘖々たるものあり、往年自から首唱して處女會中央部を組織し、以て全國處女會の聯絡機關たらんことを期し、拮据經營具さに辛苦を嘗め、事業著々其の緒に就くを致せり、大正九年聘せられて日本禁酒同盟の理事と爲り、爾來自から禁酒を斷行して熱心事に當れり、君の伉儷を得たるは實に此の間に在り、夫人清子亦夫君の事業を解して克く之を幇け琴瑟相和す、惜むらくは稟質蒲柳劇務に從ふを許さず、而も君は毫も之を意に介せずして常に熱誠事に從ひ、屢々夜を徹して筆硯に親しむ、友人爲に或は健康を傷ふなきやを虞れ、時に忠言を呈すれども肯はず、君が今回病魔に犯されたる或は之が爲にあらざるやを疑ふ、實に斃れて已むの概を示せるものと謂ふべし、今や處女會禁酒會の事業共に君の盡力に待つものゝ益多からんとするの秋、一朝にして君を喪ふ、痛悼の念殊に深からざるを得ず、惟ふに死や固より悲むべしと雖も人生遂に到達するを免れざる所、天野君の如きは其の生や長からずと雖、而も其の生涯や大に意義あるものにして、世の醉生夢死徒に長壽を貪るの人と同日に談ずべきにあらず、君が年來の盡瘁畏くも天聞に達し、辱くも皇后陛下より格段の思召を以て御菓子を賜はる光榮、獨り君の一身に止まらず、以て父祖を顯彰するに餘あり、傳へて永く家門の飾とすべし、

本日茲に葬送の式を擧げらるゝに際し、余は君が生前の事績を想ひ感慨自から禁ずる能はざるものあり、衷心の誠悃を君が靈前に披きて恭しく弔意を表す。

附記

天野氏の竹馬の友國持富太郎氏又內務省の相田良雄氏の眞情あふるゝ長文を始め其他の弔詞が次から次に讀まるゝ時列席者は故人の偉業を思ひ今更ならが襟を直しました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

私の見たる天野藤男氏

御病床に見舞つて

島根縣　永田基

「いや直きに快くおなりでせう」
禁酒同盟會本部の方のお言葉は私に淡い希望を抱かせたのに……スッカリ失望して了つた。
重症!!厚い布團を幾枚も高く重ねた上へ、靜に仰臥して居られる先生の眼は輕く閉ぢてお顔の色の澄み切つた青白さ。看護つてお出でになる奥様の御心配の御模様、私の胸は重苦しく亂される。
「先生如何で御座います」
「何誰で」
眼を輕く開かれた丈けで、身動きもならぬ先生のお聲は力なく小さい。私の胸は悲しい涙で閉されて了つた。
「永田です、島根の……」
「あゝ然うでしたか、よくこそ……」
其れだけだつた。重症の先生には之れ以上のお話は出來ないのだ。お顔の上に覗くと、先生のなつかしさうな愛に充ちたお目が、ジツと見つめられる。私の眼に涙がにじむ。先生のお眼にも……
「お話が好きでして……此の間頃少し快かつたのですが、お話が過ぎて、又重くなりました。此の二三日は餘程弱りまして、絶對の靜養をさせて居ます」
と奥様のお言葉、嗚呼、何の話?お身體にさわる程一生懸命になる話とは何の話?私は先生の御胸中をお察しして暗涙に咽ぶ。
「處女會指導者講習が近寄つて氣をもむものですから」
と奥様が言はれた。然うでせう共、多年の御心勞が漸く現れて來やうとする此の時、この御病氣ですもの、お察しゝます。
何卒一日も早く御全快なさいます樣に……私は私の涙を以て、全國幾百萬の青年處女に代つて神に祈つた。
「此の頃オキシヘラーを使つて居ます」
嗚呼、奥様の御心配、私も
「何卒、何卒、神様……」
一生懸命になつて祈つた。
然し總べては無駄になつた。
オ、九月十日よ、此の日は先生と最後のお別れをした日であつたのだ。

打ちとけての物語り

竹原よさ枝

お正月の風まだ寒き一月十三日私共が崇拜の標的畏敬の中心として居る天野先生をお迎へ致しました。
「折角迎へに來てくれたのだもの、このまゝ車で行くことは出來ない」
と一里に餘る道を車をお返しなすつた先生……
どんな方かと氣づかうて居た私は、先生の餘りお優しいみ心に、故なく喜びの情があふれました。
山を眺めては、川を御覽遊ばしては如何にも愉快さうに語られました。
「そんなに待つて居て呉れたの、そんなに待つて居て呉れても何にもよい話はありませんねえ、まあ今晩と明晩とゆつくり東京の話でもしませう」
とうちとけて語り給ふ先生、私は先生と申しあげるよりも兄様とお呼びしたくなりました。廣通寺の奥座敷で長々旅路のお疲れなど、お忘れ遊ばした如くほんとに〳〵打ちとけての物語り聞かせて戴きました。
都に憧れてのフイルムの說明などお伺ひするとこれはねえと妹にいふやうなお優しいお言葉でお話し下さいました。工女さんや哀れな方

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

から御相談になつたお手紙も數本拜見させて戴きました。「大臣からのよりも私は大切にしてゐますよ、文は拙なくとも眞心からの相談して呉れたのだかられえ」「いゝものを見せてあげやうまあ止さうか」、微笑み遊ばした先生……「どうぞ拜見させて下さい」とお願ひしますと先生の父君の氣高いお姿が現れました。「私は生家へ歸るとまるで赤ちやんだよ、かうしてあまへる親がある私は此上もない幸福だ」と仰有つた。

先生、噫其の先生は幾多の愛らしい乙女を後に逝つてしまはれました。

お別れ申す折又お手紙下さいれえとお渡し下さいました名刺あゝ其お優しいみ言葉と共に大切にして居た名刺これもかたみとなりました。

講習中にも心を痛めて

和田龜千代

昨年の夏上京して十日餘り滞在した際、圖らずも先生の御苦心の結晶なる「都に憧れて」の活動寫眞を拜見し得て、滿身の喜びを感じ、翌日處女會中央部理事の田所楠猪氏の御宅を訪れて、氏の御紹介に依つて、神田國民禁酒同盟會本部に先生と御面接できたのである。

刺を通ずると先生は非常な御好意を以て、種々御話し下された。活動寫眞撮影の苦心談、全國的に足跡を殘された處女會の狀況等をもこまごまく伺ふことが出來た。先生は謹嚴な方であつた、而も慈母の愛を持たれた方であつた。

私は忘れ離き深甚な印象と熱とを與へられて辭したのである。

其の後は直接に地方の狀況を先生に申し上げ、常に激勵のお言葉を戴いたのであつた。

今年六月上京した際再び神田の國民禁酒同盟會本部を訪れた。昨夏一瞥したに過ぎぬ私を年來の知己の如く、お歡待下されて、我が進路に光を與へて下さつた。其時今秋の講習會には是非こいと言はれて、私は言ひしれぬ喜びを感じて來る日を待つて居た。

其日は中央部理事の下村さんが渡歐なさるので、送別會に御出かけとの事で御多忙中であつたにもかゝはらず、約二時間も御懇談下すつた。そして御一所に門を出たが、八月を約してお別れしたのであつた。

噫！ それが先生との此の世のお別れであつたとは、神ならぬ身の夢しらぬことであつた。

八月上京した際前のお約束もあり、先生のお宅を訪れた。奥さんに刺を通じて、色々とお聞きしたら七月の始め頃から御病床に居らるゝと！全く意外に驚いたのである。「色々お話したいが、醫師から面會を禁じられて居るので」との奥さんを通じてのお言葉、私は暫し無言であつた。あゝこの時はもう隨分御重態であつたのである。

講習中に先生は文書を以て講演を送られた、實に先生の至誠を肉と血で結晶させたものであつた、言々句々身に透徹した。

受講中いやに先生の御容態が氣遣はれた。一夕富士見軒で「都に憧れて」の活動寫眞を講習員に觀覽せしめんといふ中央部の心入りが、色々で中止になり、翌晩會場でやつても不首尾で、フイルムが切れた。私の心は無量の感慨に打たれた。

噫あれが神の暗示かとうなづかしむるのである。

かうして講習會も終了して十日の晩、東京を立つた、まだ上野驛を出ない中に先生は此の世の人ではなかつたのであつた。

嗚呼先生はもう他界せられた。先生の肉は地と化して幾十の著書と數萬言の御講話と共に全國青年處女を加護し激勵し啓發して下さると思ふ、希くは英靈の冥福あらん事を。

書齋の一隅に弔故天野先生英靈の標札を揭げ前に天野先生の著書を數冊と書簡を供へ香の烟が淡く立ちのぼつてゐる。

會の記錄は涙の種

廣島縣沼隈郡千年村處女會

故天野藤男先生が我が處女會をお訪れ下さいましたのは、大正八年三月十六日のことでありました。時は恰も青年處女兒童が聯合して、學藝展覽會運動會を催して居る第二日目であります。

文部省囑託山本先生の御案内で、先生には親しく會に臨ませられ、厚

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

き情を以て私どもに奬勵のお言葉を下さいました。

「昨夜は阿伏兎に宿を借りました。今朝は早く起きて舟を漕ぎ出して沖の方から觀音樣を拜みました。阿伏兎附近の眺めの美しさは筆や言葉で表はすことは出來ません。

「此の千年村といふことは、十四五年前からチヤンと私の頭にはいつて居たので、何時かは行つて見たいものだと常々思つて居ました望は遂に叶つて、愈今日此所へ參ることが出來たのを何よりの幸と存じます。

かうして朝から青年處女並に兒童の方々の成されることを見たり聞いたりして實に嬉しく存じます。

別して私の愉快に感じました點は、村のお老人も、若い衆も御婦人も子供さんも、一堂に集つて樂しんで居られることに依つて、此の土地こそ私が常々望んで居る迎りの平和な里であるといふことです。

私は今日を旅行中の最も愉快な日として生涯忘れることが出來ないでせう(中略)

只今處女會員の門田春代さんが、皇后陛下の御德に付てお話がありましたが、畏れ多くも我が皇后陛下に於かせられては、お側に仕へて居られる方々に向つて、地方の處女會の事どもを御下問あらせられること が度々御座いますさうで、誠に勿體ないことに存じます。(中略)

私は内務省に務めて居て、主に處女會の事に骨折つて居るものですから、到る所で處女に對しては次の樣な話をして居ります。

「强くやさしく眞面目に働け」

といふことです。處が只今皆さんがお歌ひになりました處女の歌の中にそれと同じ意味の文句があるではありませんか。

「總べて女の尊さは内には剛き心もて、難きを忍び思ひやり、外はやさしきものと知る」

何といふよい歌でせう、皆さんどうぞ此の歌の精神を失はないやうにして、立派な婦人となつていたゞきたいものです(下略)」

此の度突然先生が御逝去なされたと承りまして、驚きと悲しみの情に堪へません。親しく謦咳に接し、常々先生の御德をお慕ひして居ました私共は、せめてもの思ひ出に過ぎし日の記録を繙いて讀み返し卷き返して、追慕の涙にくれてゐます。

玲瓏玉の如き御人格

吉原はつ子

私が初めて天野先生にお目にかゝりましたのは、一昨年の六月、表猿樂町の禁酒同盟會本部の一室でございました。其の頃はまだ先生は下宿生活をしていらつしやいました。先生の御尊名はかれてから承知して居りましたが、あの「地方の婦人へ」の一卷に現れた先生の御人格程私を動かしたものはございません。

其内一度お目にかゝり度いと思つて、御都合上お伺ひいたしますと「永年居る下宿だから遠慮なく訪ねてくれ」といふ御文面なのでございます。下宿にゐらつしやる、獨身でゐらつしやるといふ事、私は意外の感に打たれました。さうして再びお伺ひしまして禁酒會本部へ先生をお訪ねすることにしたのでございますが、其處で再び私の想像は覆されたのでございます。

(故天野氏筆)

御姿は頂戴して居りましたが、淸楚なお姿の餘にお若くございましたので、あれ丈の事業を遊ばした方で三十代とは想像も及びませんでした。

それから過分の御厚意をうけまして、わけても三月六日には御病後の先生を御無理をお願ひ致しました、私共の會は男子の同窓會と同じく主權は學校長にあり、何處の學校にもよくある例で、女だからといふ事で大方のお世話は職員の有志の方がして下さいました。お眼にかける程の會でなかつたので御遠慮申して居りましたが、農村は農村らしくしたいと思つて居る私の考を裏書して下さる方は、先生より外にないと思ひ、先生に財政のことまでお話致しましたところ、活濟な先生の御答に「私も多少の財産があつたら自己の力で宣傳に盡し度いと思ひま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

す。水戸黄門は謝禮はとられませんでした。」と申され、岐阜縣から御歸りになつてその御疲勞の休まる間もないのに、高師まで八十餘里の遠さを遙々お出で下さることを御承知下すつたのでございます。

私はいそ〳〵と準備をして居りました處が熱發して床に就いたといふお葉書を奥様から頂きました。それから私は廿日餘り御病氣を氣づかつて居ましたが、紛亂した內部の事情、私の決心するまでの經路を御承知下さる先生は御床あげ間もなく三月六日には御越し下すつたのでございます。お見上げ申せばいた〳〵しいまでのお窶れ、道のためにとの御言葉が今更ながら身に泌み渡ります。

先生は歡喜に充ちたお聲で私共のため三時間餘りをお話し下すつたのでございます。七日の午後一時には神奈川縣へお越しになりますので、朝七時四十九分に御出で下さいました先生を惜しくも夕七時には驛にお送り申さればなりません。時間が切迫したゝめ夕食すら折詰をとつて差し上げなければなりませんでした。

その夜豐橋驛は非常に混雜して居りました、赤帽の手でやつと求められたお辨當お渡し申しながら私の胸は一ぱいになりました。「天野先生！　申譯もございません」「イ、エ」と先生の御言葉も途絶えましたがやがてにつこり遊ばして「疲れたでせう、えらかつたでせう。私は今日は嬉しかつたのです、それでつい〳〵長話をしましてね娘さん達も歸りが遲くなつたでせうし、あなたにも氣ぜはしい思をさせましたね」と私を慰めるやうにおつしやつて下さいました。

列車が動きだしてからも「おいとひなさいよ」とお心づけ下すつたその先生はもう此の世にいらつしやらないのでございます。

あの熱誠、あの眞摯高潔な御人格―　あゝ永久に先生は現世を去つておしまひになりましたのでせうか。

天國をつくらんために

福島縣　横山きつ子

私は月々の處女の友により天野先生の偉大な御人格を敬慕して止まざる一人でございます。

ある時はなやめる處女を勵まし、或時は世にも哀れなみなし子を慰め、孝子節婦を尋ねては、其美德を表彰せられ、各地方の處女會に臨まれては、熱誠あふるゝ御講話に會員を感動せられ、まどかなる月の光を仰ぐがごとくお慕ひ申さぬ者はありませんでした。

あゝ今になつて思ひますれば、先生の御心は余りに淨く、人の言葉としては余りに美しく、人の敎へとしてはあまりに温く、人の情としては余りに深く、何物をも感動せずば止まぬものがありました。

あゝ先生は神でした、住みよい天國其まゝの國家社會をつくるために人とあらはれた神樣でした。世の人が愛し合ひ、信じ合ひむつみあひて、愛の世界をつくれよとさとされた神樣でした。

かつて今年の四月先生がわが河沼郡坂下處女大會に御臨席下すつて、其お序に若松市第五小學校の校長先生の御宅を訪問されて、御一所に東山温泉へ行かれ、又お歸り途に猪苗代處女會へお立寄になつたと云ふ事をきゝまして、先生に御あひなされ先生の講話をきかれた方々の幸福をうらやみましたが遠からずわが郡にも處女大會が開催さるゝとの事をきゝまして、一方ならずよろこび必ず先生には御臨場下さるゝことゝ思ひ、其一日も早く來らん事を祈つて居りましたのに、今は先生と幽明境を異にして、よべど叫べど此世にて先生の御聲をきく事が出來なくなりました。あゝ

（故天野氏筆）

天野先生に追從の記

岐阜縣　島田敬三

「只今自動車が着きました」と下女の知らせに、急いで出迎へた、今丁度車から下りて居らるゝ所、改めての挨拶は別として一寸だけすまして部屋へ案內しました、初對面の挨拶もすんでお茶をすゝりながらお互に見ぬ先の想像し合つてゐたことなど語り合つて笑ひました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

「君をば、村長さんと思つてゐたよ、そしてもつと〳〵なよ〳〵した御爺さんだと思つてゐたのに存外若かつたね」「これは恐れ入りました私は又先生をば少くとも五十位の白髮のお方と思つてゐたのに、てつきり外れましたよ」と大笑ひ

飛彈川べりにわざ〳〵車を停めて舟に乘らうとおつしやる。案內しければその風景を愛でさせられ「僕の故鄕は靜岡だが子供の頃小川に魚を漁つた時の事が思ひ出されてなつかしい」と

二里に餘る雪道をテク〳〵步みながら語られた「僕は元來山に登る事が好きだよ、かつて高野山へ日暮から登つた事があつた、が僕が一番强かつた」と、語られました。

途中雪中に猪の足跡を見付け出して「こんなに大きなものがあるよ、田舍でなければ見えぬことだ、これを一つ三月號の處女の友に書いてやらう」

行く行く語られました「兎角處女會の指導の任に當るもの殊に君等の樣な若いものは世間から誤解を招くことが多いから此の邊は特に注意せねばならぬ、花は他人に持たせる樣にして隱れたる功勞者とならねばならぬ」と今日迄の處女會中央部の發達に一方ならぬ苦心をした事をお話しになりました。

「僕に一人の弟がある、此頃寫眞を道樂にしてゐるがなか〳〵うまくやるよ、ナニ機械がほしいつてよし〳〵僕が都合して送つてやるから」と、樂しみにして待つてゐたのに。

停留所までお見送りして荷物を渡す時「君きつと夏休みには上京し玉へ妻にもその時引合すから」とニツコリお笑ひになつたあのお顏、今だに忘れる事は出來ません、その後御歸京になつてからのお手紙に(早百合處女會への)「優しい皆さんとはもういつ逢はれるのか、もうこれ限り逢はれぬかもしれぬ！ 云々」私は思ひました、何といふ淋しい手紙を書きなさつたのだらう、これも文章の綾とでも言ふのでせうか、と余り心にも止めませんでしたが、今思ひ合すると、先生のお心の中もたしかにお淋しかつたに違ひない。

社會奉仕の戰士

群馬縣　齋藤旅雄

大正八年十月先生に進められて、島之鄕村婦人會員を引率して見學旅行のため、上京いたしましたが、先生に御面會の初めてゞあります。

其時に於ける先生の渾身の高潔なる熱愛の精神は島之鄕婦人會員全部の精神を吸收しまして、會員に忘るゝこと能はざる好印象を與へました。

その翌年二月島之鄕村を御訪問下さいまして、更に一層親しき交りをいたしました。其後も八月に御出になり、又隣村毛里田村に又太田町に御講演になりまして、先生の御名聲は東毛の野に廣くひゞき渡りました。

先生の御人格の一端を思ひ出して見たいと思ひます。

一、先生には實に素卒たる威嚴を與へられたる紳士であられましたが、愛の情緖溢れて破顏一笑さるゝ場合等には純眞の愛發露して、衆人を魅する力ある方でありました。義と愛の能く結合されたる御性格と思ひました。

一、先生は非常に進步的たる社會改良家であられましたが、極端に流れず國勢時代と洞察して取捨選擇を誤らぬ樣注意された樣感じました。

一、先生は非常に犧牲的精神の旺盛な方であり、又勇氣果斷な明敏な頭腦の所有者であられた樣感じました、併し又愛情濃やかにて誠に親しみたき方でありました。

一、格別處女に對しては同情厚く此點に於て確かに處女の友であり、處女の神であられました。

かゝる御性格の人格的感化は永久に親しき交りを得たる婦人方の精神に止まつて居ます。

僅か三十五歲の壯年を以て永眠せられました事は、實に此上もない遺憾であり、又國家の損失と思ひます。

併し先生の死は武士が櫻花の如く潔く戰場の露と消えしが如く、社會奉仕の戰死の實に美しい模範的の生涯でありました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

熱誠に動かされて

松崎ひろの

東京で最も高臺と知られた本郷元町の處女の友發行所から書き出されたやうに美しい富士山が見えます、あの富士山の麓なる駿河の國に幾萬の娘さんの涙におくられた天野藤男氏は永遠に眠つて居られます。

又一方には天野氏が九年間活動された根城たる神保町が眞下に見えます。

永眠の地を仰ぎ、活動の巷を見下し、追悼號の編輯のため弱い力を捧げて居る今、私として量り知られぬ思ひに充たされて居ます。

あの神保町の家――いつも二階で筆をとつて居られた天野氏は私が階段を上つて行くと「やあ」と振り返つてにつこりさるゝのが常でありました。

今もあの二階に行つたらにつこりと迎へて貰へさうに思はれてなりません。

天野氏は優しい方、なつかしい方でしたが一面に處女會のためには非常な強い方でありました。

仕事を愛する余り、地方の娘さんの幸福をはかるために何時もぐん／＼と私どもを鞭撻し、叱咤されました。私どもは執務中あまりに嚴な、致され方にずいぶん情ないと思ふ事もありましたが

「これも地方の娘さんを愛する余りだ、どうぞ使命のために叱られて下さい」

とやさしく慰められては堪らなくなつて

「叱つて下さい、怒つて下さい、貴い使命のために慈悲の鞭撻よろこんでうけます」

と心に答へて天野氏の熱誠に動かされた私どもは、慰められ勵まされして働いて來ました。

長い旅行から歸られても「處女の友の原稿は出來ましたか、校正はどうです」ときまつたやうに案じられまつさきに尋ねられました。さうして不安な點があると旅装も解かずに印刷所にかけつけらるゝ有様でしたが、一面に非常に人を信じ、人を尊び、人の自由を許され、編輯についても「よろしく頼む」と人々の意見

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

を多く用ひられました。

自分に對してはあくまでも嚴格、人に對しては寛容類のない方でした。それで私どもにも平生それは〱優しい態度でありますのに、一旦仕事にかゝり、天野氏と同じ心になつて働く段になると其間に少しも隔てがなくなり、編輯部といふ一つの身體と變つてしまひますと天野氏の態度は嚴格になつてしまひます。

「これでは地方の娘さんが喜ばん。これでは本當に地方の娘さんを慰め得られない」

といつて全力を擧げ最善をつくすまでは滿足なさいませんでした、その眞劍な眞心こめた態度が編輯部の精神となつて、處女の友は地方の娘さんのために熱と愛と力を捧げつくさんとの默誓のもとに編輯部といふ一つの心によつて作らるゝやうになりました。

かうしてだん〱と育くんで行く處女の友が發展の緖を見出した際、天野氏は不治の病のために床就かれ病床にあつても「校正を見せて下さい、原稿は集りましたか」とせがまれて、清子夫人を始め私どもは幾度泣いたか知れません。

枕邊に行つて話をしたいとは思ひ乍らも私共の顏を見ると處女會の事で心を痛め、無理にも長話をさるゝので、私はお見舞に行つても病室にはあまり足しげく參らぬやうな情ない思をしました。

十月十日の晩「心にかけた講習會も終つた」

と安心の胸をなで下す間もなく電報にて死去のお知らせ、とるものもとりあへず、危篤の報に先發された田所理事御夫妻の跡を追ふて平塚に行きました。

もう亡骸は棺に納められて線香の煙ゆるく室内を壓して居ました。さながら眠つたやうなその死顏、チッと合掌した私の手の震へが、眼を開かれたら見えさうでありました。

けれども人力を以てどうする事も出來ない死の手は天野氏を奪つてしまつて、その熱愛された幾萬の娘さんの聲を以て呼ぶとも聞えず、私共の魂の底から溢れ出る涙を以てしても、固く結んだ唇は開きませんでした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

「僕が死んだらね弔詞もいらぬ香典もいらぬ、死體は極く簡單に燒いて貰いたい、然し處女會だけはどこまでも立派に育てゝ貰ひ度い」

と私の顏を見ると冗談のやうに言はれた事が事實となつて、死の影がこんなに早く天野氏の肉體にを包むとは何といふ悲しい事でせう。

御望み通り簡單に火葬が行はれました。天野氏の遺業を追悼する人々の聲は弔詞となつて、葬式はお望み以上立派に行はれました。

簡單にして貰ひ度いと望まれた葬式ですら彼の通り立派に行はれたのを拜見した私共は、それ以上に心の底から望まれた處女會の發展にはもつと〳〵盡さなければならぬと思ひます。

肉體はもう世に存して居られぬが、天野氏の魂は私共處女會の關係者や、全國の娘さんの上に宿つて、永遠に生きて居らるゝのです。

この魂の永遠の守護を信じて、私共は最善の努力を致し度いと思ひます、さうしてすべての娘さんの上に幸福を與へ給へと神に又天野氏の靈に祈つてゐます。

うつしゑを眺めてあればありし日の
勵ましの聲きくこゝちして

野の榮え處女の幸をいのりつゝ
身をさゝげんといひし君かな

講師の派遣につきて

昨大正十年十月全國處女會講習會開期中、生活改善婦人同盟會の幹部山本久榮女史が婦人整容法の講演と實演とを試みられましたが、その講演は實際今日の婦人殊に處女に尤も必要なりと感ぜられ、爾來各地から出張講演の御依頼があります。就ては右講演御希望の方は中央部に御申越しになれば同盟會に交渉し可成御希望に添ふ樣斡旋の勞を取ります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

短文　題天野先生の思ひ出

○　　　大分縣　三日月草

靜に物思はるゝ懐しい秋も、逝つてしまつた初冬の夜は又一入に淋しさを覺ゆる。私は今野良の仕事に疲れ切つた體を古机に寄せて懐しい幾年か前の思ひ出の糸を辿つてゐる。

私が丁度高等小學を出たばかりの時だつたと思ふ。天野講師がお見えになつたといふので村の興隆寺に集つた事を、そして多勢の青年と處女に「私は靜岡の者です」と靜なみ聲と、お優しいお姿で御講演下さつた事を……

それから高子さんと云はれる孝行娘のお話、其人の書かれたお手紙あゝ其の文意さへ未だ良く私の胸にきざまれてあります。

其後御先生のあの時の御感想を本誌に嬉しく拜讀致しましたのに、今は歸らぬ悲しい思ひ出となつてしまつたのです。

靜に天國に眠ります師の君よ!!　きつと見守つてゐて下さい。私等處女とこの可愛い處女の友を……

○　　　德島縣　尺長アサノ

暑い〳〵夏の日に東京に珍らしい涼しい御宅は處女會中央部理事田所先生のお二階でありました。其時に初めて天野先生の御住所をお聞きしたのです。直ぐ參ればよかつたに、限りある日の講習を終へて、後にと八月末日でした早御病氣と承つて名殘惜しくも東京を立ち出で、歸國してより二ケ月も過ぎぬ間に最早此世におわさぬとは嗚呼夢なるかな、原敬氏や安田翁の死は外に見て、天下大平に暮して居た女子の身にも故天野氏と有られては何と致しましよ、穩やかならぬ心の内只頁を後前開いていよ〳〵御死去と拜見してよりは力もつき果て手にした處女の友を机の上に兩手にて顔を掩ひ、折角東京まで行きながら、なぜお目にかゝらなかつたたらう、嗚呼もう望も絶えてしまひました。

み姿は遠き旅路にゆきませど
殘るいさをに花は咲くらむ

○　　　群馬縣　對比地こう

忘れも致しません、十三夜のことでしたあまり月のよさにお隣の家まで遊びに行きました。お話のひまに一寸新聞のひろひ讀み致しました、天野の文字を死去廣告欄に見出した時——おゝ——あのなつかしいお姿やさしいお笑顔、寸時も耳をはなれぬうれしみ聲、お寫眞に御手跡になつかしい思ひ出の跡は殘れど……「おゝ對比地さんですか、度々お手紙ありがたうございます」かうしたうれしい御言葉を頂いたのもこの四月の半ばごろでした。

先生をプラットホームまでお送りした時、汽車の窓からいつまでもいつまでも別れを惜んで下さいましたおやさしい先生のお笑顔を忘れることは出來ません。

○　　　福島縣　兒島ゑい子

手を拭ふ間ももどかしく開いた十一月號に先づ天野先生に目をそゝいだ、おゝなつかしの先生よと思はず顔にあてようとした瞬間、故の字は稻妻の如し胸にきざまれた。眞か僞か、あゝやつぱりほんとうか、若人の父兄の如く慕ひし前途有望の師の君には亡き人となられた、懇歎の涙にむせぶ數多の人々を殘して……

噫神ならぬ身の誰か知られやう。昨年一月號の婦人世界に、因襲を破つた私共の結婚として首途に、行手は遠く望きは多き私等をお授け下さいとお書きになつたのが、年末號には夫人が良人の骸の前にてと血涙の痕をお書きにならうとは……

○　　　宮城縣　牟岐　愛子

先生、噫先生はなぜお亡くなり遊ばしたのでせう、御寫眞に合掌して御冥福を祈り乍らもまだ先生がどつかにいらつしやる樣な氣がしてなりません。

懐しい先生のお聲を一度聞きたかつた、父の顔を知らぬ私は父と慕ふ先生のお顔も拜さずに了つた。

天野先生、先生の思ひ出は盡きません、書いても書いても盡きません、私はたゞ戀しいおかたみとなつた御文を繰り返して泣くばかりですそれがせめても私の心やりなのです。

八年の暮から二年間いたつきに臥し、身も心も苦しさに堪へかれ、幾度も先生に訴へた、その度に先生は優しく慰め勵まして下すつた（前略）心配でなりません。然し此度よくなります私も祈つて居ります。どうぞおいとひなさいませ、切にお賴み致します。近ければお訪れしたい、（中略）親子水入らずの懐かしさ、どうしても〳〵なほしてあげたい。（中略）細かな御手紙は毒ですよ、母樣お務めの由、あなたは貴い母樣に感謝なさい、御樣子知らせて下さい心配です（下略）。

かうした御手紙を給はる毎に衰へゆく身は力づけられましたのに噫。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

俳句

散り行けど蕊は殘る菊の花　山口　芳小壽美子
うつしゑを眺めて落す涙哉　神奈川　山口孝子
惜まる・花ははかなく散りにけり　群馬　橋本香葉
愁する、筆とり上げし追悼歌　同　橋本登久子
み文よみ又うつしゑを見るにつけ　宮城　牟岐愛子
散るや花名の末代に香はしき　長野　根橋しなゑ
散り際の見事なりけり寒椿　岐阜　島田敬三
墓詣なき人しのぶ菊も咲く　鳥取　清洲
亡き師をば偲ぶ夕に虫のなく　愛知　やむひと
御手跡に亡き師を偲ぶ今宵かな　群馬　對比地こう
しのびつ・落葉ふみけり秋の夕　福島　植野しん
追悼の涙さそうや處女の友　福島　兒島ゑい子
先生をしのびて筆をとりにけり　德島　河内キクヱ
園菊の香りに眠る十日月　鳥取　渡邊愛子
灯して先生をとむらう夜寒かな　鳥取　中村小夜子
師の君の思ひ出多き處女の友　香川　十河マツヱ
師の君を偲ぶ小窓や秋の雨　神奈川　九澤きよし
菊枯れて園生淋しき憾み哉　東京　藤卷紫香
逝く秋を弔ふ風に落葉鳴る　鳥取　小村悦子
如月や亡き人しのぶ處女の友　群馬　橋本美代子
友集ひいづくも悲し追悼會　神奈川　大神田園子
涙して師の面影を拜しけり　埼玉　淺見ハマ子
明星の隱れたりけり曇の雲　滋賀　本持雄飛
師の君の逝きしと聞し秋淋し　大分　酒井くに子
散る櫻短冊ばかり殘りけり　北海道　小菊
師の君の御影をしのぶ處女の友　福島　吉津園代
建札の名のみ殘して菊枯れぬ　東京　胞孝
經讀みて師のますみ空仰ぎけり　香川　石川もと子
先生と呼びしことはのあはれなる　福島　鎌田たみ子
先生のかたみとなりぬ筆のあと　埼玉　岡田保市
寒月の墓に淋しく香烟る　同　大舘たつ子

和歌

逝きませし秋の園生の墓前に淋しく匂ふ悼の花
たまはりしみ文今宵もひとりいでゝ偲べば悲し凩のおと
逝きし師を偲びて出でし裏山の夕暗の木立にふくらうの啼く
なすことのまだ多かるを悲しくもうら若くして逝きませるかな
軒の梅見るにつけても思ふなりかぐはしき名を殘す師の君
窓により空の星など數へ見ぬ亡き師の君のおはしますかと
春またで藤の親木は倒れけり常なき風の吹くにまかせて
師の君の淸き涙のみ數へも露の涙に匂ふ白菊
あらがねの土に眠れる君しのび一人となれば涙ながるゝ
落葉ふむ音に哀はまさりけり空しくなりし師を思ひつゝ
處女の友五年の春のめぐり來ぬ思へば戀し逝きし師の君
くれ早き秋の陽ざしを野のはてに見入りつ思ふ逝きし師の君

○

日は落ちて寺のあたりをさまよへば木魚の音に思ふ師の君
我國の野を守る乙女を醒ますべく君は此世にあられしものを
より集ふ處女を殘し秋の暮吾が師ゆかれぬ永却の眠に
師の君の眠りてゐます西の空あかれに染みて入あひの鐘
うら悲し厚きみ數へ受けつゝも姿見ずして師はゆかれけり
たどるべき文の林に一すぢの數へをたれてゆきし師の君
今は世に在さぬ君のみ訓しをかたく守らん末の世までも
どんよりと曇りし秋の夕まぐれそゞろに思ふ失せし師の君
君去りて泣ける處女子をちこちにうけしみ數へしのぶなるらん
空の色木のさゝやきもおのづからかなしく思ふ師の君の死は
書く手にも涙の露の宿るなりしのぶも戀し失せし師の君
淸らなるみ姿今はうつし世に見るよしもなし悲し秋空
處女會の天野先生偲びつゝ語ふ宵の淋しかりけり
處女の友手に取る度に思はるゝ世にありし日の師の君のこと
先生の遺訓をかゝへて此夕べ遺德をしのびひとり泣くなり
田子ノ浦その名ぞ高し師の君は富士の名のごと千代に八千代に

鳥取縣　渡邊愛子
宮城縣　牟岐愛子
群馬縣　對比地こう
岐阜縣　島田敬三
香川縣　石川もと子
鳥取縣　中村悦子
神奈川縣　矢島九重
福島縣　植野しん
香川縣　白粉草
神奈川縣　大神田園子
鳥取縣　中村小夜子
岐阜縣　淺野のぶ子
岐阜縣　足立信子
神奈川縣　山口孝子
群馬縣　池田榮子
靜岡縣　宇津木ひさ
神奈川縣　九澤きよし
群馬縣　橋本登久子
福島縣　行德奈緒香
鳥取縣　清香
島根縣　青木龜野
東京府　柴田ふよ子
神奈川縣　星マツヱ
北海道　小松原綠子
埼玉縣　淺見ハマ子
群馬縣　橋本文司
埼玉縣　岡田保市
靜岡縣　栗原思芳

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

新體詩

群馬縣　池田榮子

君のみ敎へ輝やける
我が日の本の乙女子の
手をとり合ひて敎へつゝ
導きまし、師の君は
慕ひし子等を殘しおき
夜毎に唄ひし秋虫と
散りゆく木の葉と諸共に
永却の眠につきにける
あゝ悲しやな〳〵
さき立つものは涙なり
さはさりながら逝きし師の
み胸を深く身にしめて
處女の道を守らなむ

鳥取縣　中村小夜子

今日の淋しき心
先生を戀ひつゝ雨戸を開けば
小さき雪は靜に降りつもる
しめつた空氣がひし〳〵と
かすかにきこゆる水車の響
あはれ戀しき先生よ

岩手縣　菊地繁子

十年の秋もふけわたり
木々に白布の花が咲く
花は咲くとも師の君は
我等處女のためにとて
つくし〳〵て逝かれけり

世を去りし師の君しのびて語らふも先立つものは涙なりけり　福島縣　兒玉ゑい子
先生の心のうちに咲く花をしのびておとす涙の熱き　德島縣　河内きくゑ
とう〳〵と波の音聞きつ師の君の冥福祈る今日は悲しも　大分縣　酒井くに子

○

今しばし師ましまさばとさびしくも暮ゆく空を眺め入るかな　北海道　小菊
又の世も同じ處女と生れきて師のみ敎へをたどり仰がん　神奈川縣　江藤梅乃
師の君の病いかにと思ふまじ世になき人となられけるかな　香川縣　岩井艷子
きくの頃慕ひまひらす師の君は吾等を殘して逝かれけるかな　埼玉縣　内野しづ子
愛の道筆にあらはし口にのべ改まる世に身をつくされしかな　大阪府　清水美惠子
うら淋し秋の木の葉ともろともに歸らぬ旅に立ちし師の君　岐阜縣　丹羽芳子
いつまでも君にうけたるみ敎へは心にとめて忘れざらまし　岐阜縣　西尾里志子
たどるべき道を敎へて亡き數に入られ給ひし師の君悲し　群馬縣　橋本美代子
四季過てまた咲く梅をまたずして失せし師の君思ふ悲しさ　福島縣　佐藤とよの
夜もふけて師失せしてふ書を讀み思はず涙流しけるかな　福島縣　大塚しん子
逝く秋をおしむ紅葉にいやまして逝きし師慕ふ處女の悲しみ　群馬縣　すゞ子
なつかしき天野氏悼む筆執れば筆先凍る北國の夜　北海道　荻原千代子
止めどなく落つる涙を袖に止めつきぬ名殘をいかにとやせん　廣島縣　上本チカズ
朝夕に親と慕ひし師の君の逝かれしと聞き夢と疑ふ　靜岡縣　渡邊とき
兄弟の失せしより尙師の君の逝かれ事の悲しまるゝ哉　香川縣　十河マツエ
處女子の慕ひまつりし師の君の失せ給ひける事の悲しき　宮城縣　渡邊きよし
師の君は我等乙女を殘し置き秋の木の葉とちりて逝かれぬ　長野縣　秋香
師の君のうせられしと聞きこの年の秋は一しほ悲しさの湧く　秋田縣　齋藤ナチ子
月々の處女の友見て失せられし師の君の影しのびけるかな　岐阜縣　淺野しづゑ

思ひ出の涙

天野清子

黄ばみたる蜜柑すゞなる此の家に君歸る日のなきかと悲し
愛の巣を飛び出したる雛鳥の冷き空を迷ひぬるかな
露の朝飛びつゝゆけば君が影青葉かくれに見えずやとのぞく
格子戸の音する度に胸おどろつとめ終りて君かへりしと
美しき君が繪筆のあとはいま泪に眺むるかたみとはなり
父上よ武士の血汐ふと强かりしその眼になどて涙流さる
いとし子の逝きしと母は泣き給ふ慰めがれて我もたゞ泣く

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

誌友より

△左の方々からお悔みの手紙を頂きました、中央部として厚くお禮申します(記者)

福島縣河沼郡坂下町　永山芳之助
静岡縣下田町賀茂郡役所　野中　芳藏
岐阜縣武儀郡坂の東　處女會員一同
宮城縣登米郡石越村　傘岐　愛子
愛媛縣喜多郡河邊村坂本處女會　東　久女
神奈川縣高座郡相原村橋本　矢島　九重
神奈川縣津久井郡内郷村處女會　長谷川一郎
熊本縣玉石郡玉石村　早瀬なつ子
東京市神田區錦町三ノ廿五　樋口　綠子
島根縣邑智郡天上村　渡利　早苗
山梨縣中巨摩郡西條村　丸山すみ子
東京市日本橋區龜戸町一ノ一ノ一山藤方　加藤よし子
北海道紋別郡湧別村東の澤　桑原千代子
東京市小石川區林町日本力行會　小川　林
東京府下大森不入斗三八三指田方　川口としゑ
大分縣宇佐郡長峯村済水　原田　千歳
東京市下谷區車坂町六十三　松田　英雄
廣島縣賀茂郡賀水村　高田　義尹
府下市外千駄ヶ谷町四五〇中村様方　黒政テル子
福島縣耶麻郡猪苗代町　四川たまの
群馬縣富岡町甘樂社　岡部　榮信
廣島縣尾道市尾崎町　柴原　海子
群馬縣前橋市堀川町二　齊藤　熊雄
滋賀縣蒲生郡　塚本　義雄
長崎縣南高來郡東有家　本多　そよ
福島縣南會津郡長江前小學校　星　伊佐
同縣郡山町原田　藏坪しず枝
同縣郡山町　中下ゆき枝
宮城縣牡鹿郡荻濱村大泊　保理　妙子
群馬縣勢多郡木瀬村　深谷　賢樹
埼玉縣入間郡子手指小學校　豊田甚一郎
神奈川縣高座郡大澤村　佐藤　ウメ

△天野理事永眠に就き淋しい編輯部を慰めて下さいました、誌友の皆さんの御厚意をほんとうに嬉しく思つてゐます。天野先生の靈あらばさぞ御満足の事と思ふにつけ、この全國の皆様のお聲を亡きみ魂に聞かせ度い傳へたいと、胸がいつぱいになつて涙が溢れます、記者は讀者の皆さんと共に安らけき永却の眠りをいのりつ、込み上げてくる涙の中に筆をとつてこの追悼號を編輯いたします(記者)

○わたし等處女會員の爲に一生を犠牲に供されました天野先生は永眠されましたとの事、なんと果敢ない事でございませう(福島縣　花子)

○私は大正十年四月、坂下學校にて河沼郡聯合處女會の時、天野先生から色々のお話を聞いて、涙を流して歸りました、其の後處女の友を愛讀致しました、本の中に男子は女子を幸福にし、女子は男子を幸福にし、男女互に社會國家を幸福にして、又强くやさしくまじめに働けと云ふ事私はほんとうに感謝して居ます(福島縣河沼郡金上村　佐藤とよの)

○嗚呼秋は淋しい悲しい……病者の瞳を思はせるやうな秋……また一面悲觀的な季節……天野先生永眠の淋しさに接する時、私等の感情は動きます(鳥取縣日野郡石見村　渡邊愛子)

○天野先生には逝去さなれ、誠に惜しい事です、我々處女のために全身の愛を注いで下さいました先生を返す返すも殘念であります(福島縣河沼郡塔寺村　塚野リキ)

○今日か明日かと待つた處女の友十一月號は二日につきました、手早く表紙を開いた時、あつと驚き持ちたる御誌をおとしました、故天野先生の御姿、私はどんなに悲しかつたか、其時の小さき心の淋しさ、筆にも盡されません、熱き涙は止めどもなく頬をつたはりました(埼玉縣入間郡古谷村　新井はま子)

○天野理事には藥石効なく御逝去との事實に嘆かはしき事に思ひます當部處女一同にも申し聞かせました明年度處女大會には本村へ先生の御臨席を仰がんと思ひ樂しんで居ましたのにあ、(静岡縣濱名郡中瀬村　鈴木潮雄)

○十一月號本誌上にて天野先生の御逝去を承り、實に實に驚きました永らくの間私等を慈母の如きみ心を以て御指導下さいました先生はもう此の世の人ではございませんのネー御壯年にして瞑目なさる事はどんなに悲痛だつたでせう、皆様私達は深く厚く濟く流れる至純の涙の結晶を以て先生の御冥福を永久に祈りませう(福島縣東白川郡宮本村　矢内あい子)

○十一月號の本誌を手に致しまして驚きました、菊花香る秋の日、天野先生にはお若くして彼の世のお旅立ちなされし事……吁……(信濃　宮田喜志惠)

○偶然にも十一月號の諸先生の記事田所先生に送られた絶筆口繪拜見するや涙にむせびました、父母とも

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

頼む恩師なる天野先生にはもう〳〵歸らぬ旅立……さぞ中央部の諸先生始め誌友の皆樣おなげきの事と存じます（神奈川縣津久井郡　井上よれ子）

〇處女會指導に盡され、終始一貫奮起された天野藤男先生の御逝去なされしは誠に惜しみても餘りある事であります。先生の冥福を祈ると共にお敎を只管遵奉する覺悟であります（山形縣西置賜郡　濟山瓦翠）

〇十一月號の處女の友で、蔭ながら敬慕して居ました、天野先生逝去の悲報を拜見しました、あゝ何たる悲しい事でございませう、我等處女のため、何たる不幸でございませう（福井縣大飯郡高濱町　時岡擲子）

〇あゝ天野先生には十月十日遂に幽明境を異にせられたのは實に私共にとつて悲しい事でございます（岐阜縣武儀郡　砂場錦野）

〇天野先生の御死去十一月號の御誌で知りました、諸先生の御同情こもれる弔状涙乍らに拜讀致しました川園につよく優しく眞面目に働いたなら、遠い〳〵天國の先生に對して御恩返しになるでせうあゝ天野先生の御死去が、私共處女にとつて一生の悲しき思ひ出となるでせう（群馬縣佐波郡采女村　設樂さだ子）

〇「力なや鳥は子を呼ぶこの暮を」古句の如く天野先生の永眠は親と慕ひし私は前後もしらず悲しみます（鳥取縣日野郡石見村　廣多美）

〇天野先生にはいかなる天魔のみいりしか、遂に御永眠遊ばされしお知らせに驚き入りました、年若くして逝く天野先生もさぞ御無念でありし事と存じます、（埼玉縣兒玉郡東兒玉村　村松滿裕）

〇天野先生の英靈をなぐさめんと思ひ、十一月號の口繪のお姿を佛壇にかざり、毎日野歸りに取りし花や紅葉をそなへてゐます（福島縣　遊藤よし子）

〇かつてはおなつかしい先生のみ姿に接したこともございました、おやさしいみ言葉を頂いて感泣したこともございました、先生を停車場までお送りした時、先生は汽車の窓からいつまでも私逹に別れを惜んで下さいました、あのおやさしい先生は今いづこの國にどんなお方を相手に「つよくやさしくまじめに働け」の宣傳をなすつていらつしやるでせう（群馬縣新田郡　對比地幸）

〇只夜も晝も指導にみ心をお盡し下されし先生のみまかりました事を悼みます、噫天野藤男先生の英靈私等一同衷心より捧ぐる哀悼の意を亨けられん事を（福島縣安達郡南戸澤　大内さめ子）

〇一度雪中に講話をきゝしより忘れられない天野先生には遂にとこしへに眠られしと夢の樣なる出來事に山里の乙女はほんとに吃驚しました（岐阜の山里にて　山岡みどり）

〇私逹のために何處までも神樣のやうにお盡し下さいました天野先生のおなくなり遊ばしたので、私逹の驚きと悲しみは一通りではありません（神奈川縣保土ヶ谷工場　中平ハギ子）

〇私等を常々御導き下さいました天野先生には十月十日此の世を去つておしまひになつたとの事、誠に驚き入りました、二度と先生の記事を見る事が出來ないと思ふと十一月號の處女會指導の要諦も何度繰りかへして讀んだかしれません（東京　柴田白鷗）

〇誌友の皆樣こんな悲しい事が又とありませうか、親の如き御慈愛を以て私共を導き下すつた天野先生は遂にこの世を去られましたとは、ほんとうに運命の神をうらまずには居られません（福島縣　淺川みさ子）

〇天野先生の死を悼みます、先生が若くして逝かれるとは思つてゐませんでした、私はさみしうございます（圓成寺　北野浦子）

〇幾萬の私等處女の犠牲となり、神の御許へと行かれた天野先生、み優しい御面影、涙乍らに伏し拜みました。（福岡縣　行德奈緒香）

〇天野先生御死去遊ばされし由、餘りの事に悲しみの言葉も御座いません（福島縣　詩の花）

〇天野先生の死、只ヂツと默したまゝ先生の不運を悲しみます。誌友の皆樣ます〳〵勵み故天野先生の厚き御恩に少しなりとも報ひませう。（軒の雫）

〇天野先生御逝去の記事、驚きのあまり唯茫然としてしまひました、一日も早く御全快をとお祈したのも水の泡となつてしまひました、處女會の爲めに倒れられた先生の御靈魂は永遠に私共處女會をお守り下さるでせう（愛知縣　一愛讀者）

〇なつかしき天野先生のお姿アラと思はず喜びの聲を發すると同時に「故天野藤男氏」の文字喜びは悲痛と變り、思はず泣き伏しました、我々處女が先生の病氣一日も早く全快なさるやうにと祈りし甲斐もなく幾萬の處女を後にして空しき人となられしとは、返す返すも殘念でなりません（福島縣　遠藤よし子）

〇まあ天野先生の御死去、ほんとに夢のやうですわ…私等處女にお骨折下さいましたのに、實に惜しくてなりませんわ（岐阜縣　安藤さゝの）

〇天野先生の御昇天の報を承りまことに哀悼の極みでございます（愛媛縣温泉郡南吉井村　土田須枝子）

〇天野先生の御逝去！！　噫何といふ悲しい事でせう、先生は私共の親

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

でございました、親を失つた私共の悲しみは如何ばかりでございませうけれども私共は益々尊い處女の道に盡さればなりません。それが先生へのせめてもの御恩報じです。(山口縣美禰走郷村　芳中燕美子)

○新聞紙上に悲しい報の載せられた時……天野先生の御快癒をお祈りしてをりました私等の驚き、悲しみ誤りではないかとくり返して讀みなほしましたまた、十一月號に悲しい先生の御逝去の報を承つて新らしい涙に文字も分らなくなつてしまひました(群馬縣　橋本美代子)

○友達より天野先生の御逝去を聞きどんなに悲しかつたでせう――私の小さいハートは哀愁と寂寞とに充たされました。淋しい月は下界を照らしてなつかしい先生を偲ばせます(鳥取縣　渡邊幸子)

○ほろびゆく自然の姿を凝視する時、涙を禁じ得ません、記者先生!噫天野先生は本當にお逝きなさいましたんでせうか(群馬縣　佐波郡剛志村　大澤芳野)

○噫悲しき秋よお年若き御身を以て、むなしくみまかり給ひし天野先生、如何なる浮世の定めにか幾萬の愛讀者諸姉の斷腸の涙天も哀れみ給ふでせう(福島縣　美代子)

○永久に眠らるゝ天野理事よ、我等處女のためにお盡し下さいまして實に惜むべき生涯を終られ遠き天國に逝かれました(福島縣　榮子)

○あゝ天野先生悲報に接した乙女の泪にむせんだ人が幾人ございませう、再び先生のみ言葉に接する事が出來なくなつてしまひました、諸姉樣先生の會訓を守りませう(利根河畔　麗香)

○あゝ私等處女會に御盡力下すつた天野先生御逝去の悲報に接したその時、私は茫然として自失しました(群馬縣新田郡鳥之郷　すゞらん)

○天野先生の御病氣は全治せず、三十五歳にて死去なされし事我等處女のなげきはいかばかりでせう、月々に御指導下さる天野先生は、もう此の世の人ではないと思ふと悲しくなります(長野縣　鳥山秋香)

○天野先生には御病氣の爲遂に御逝去遊ばされしとの事、夢かとのみ疑はれます(愛知縣一宮市片倉製糸工場　一處女)

○天野先生には思もよらず御病氣にて御死去なされしと何といふ悲しい事でせう(片田舍にて　若林たまの)

○天野先生の御逝去處女の悲しみ申し上ぐべき言葉もありません(鳥取縣春日村　芽生)

○久しく待ちし十一月號頁をくれば此の悲報に接しやうとは今の今も夢のやうな氣がします、敬慕せし師は永久に不歸の人となられました、熱涙は頰を傳ひます(長野縣東筑摩郡五常村　深山百合子)

○あゝ天野先生が此の世を後にして世に亡き人となられました、地方の諸兄姉樣、三十五歳の若き年にて逝かれた先生のみ魂を慰めるやうに處女會、及び靑年の發展を祈りませう(神奈川縣津久非郡千木良村　坂本なと)

○私等のかくばかり敬慕せし先生を何の故に奪はれしか、あゝこれ運命か、思へば運命の慘酷さ(會津若松市　小野頁)

○故なくも涙ぐましき晩秋の日、處女の友を手にして、天野先生のむなしき人となられしを知りました時胸は高なりました、噫……處女會のために全力をおつくし下された天野先生……餘りの悲しさに言葉も出ません(長野縣　窪田小蝶)

○あゝ何といふ痛ましい事でせう天野先生の死、何と申してよいかわかりません、幾久しく處女會のためにおつくし下さいましたのに、ほんとに惜しい事でございます(福島縣田村の花)

○天野先生は憎き病魔の爲に黄泉の客となられまして、私共の嘆きは筆につくされません、けれ共故先生の御敎訓を奉體し、美しい心の女となり、先生の大恩の萬分の一にても報ひませう(北海道　松本白百合)

○先月遠路おいとひなく坂下小學校へ御出で下され、有益なお話をおきかせ下さいました天野先生が、お亡くなりなさいました由、眞に悲しい事で御座います。私は口繪の御寫眞を眺め思はず涙を流しました(福島縣　大堀多喜美)

○天野先生の御訃音夢にも存じませず、十一月號の三日ころげこむやうに音づれて參りました處女の友、なつかしさの餘り早速御伺ひ申しますとまあどうでせう。天野先生の御仙界あまりの悲しさ淋しさに涙は止め度なく頰を流れました。(岐阜縣恩田しか)

○天野先生には永い間病床にあられしとは夢にも存じませんでした故一度の御見舞も差上げませぬ内に再び世になき人となられしとは何といふ悲しい事でせう(香川縣木田郡前田村　香西いせ)

○あゝ私共がお慕ひ申して居つた天野先生には、私等を殘して歸らぬ旅に赴かれました、師のみ靈の安らかなれと臨しんで涙の目を以て念じ上げます(福島縣　喜美子)

○愛知新聞記事に處女會の恩人天野氏逝かると見た時私はどんなに驚いたでありませう、寒氣强き初春に我が坂東へわざ〳〵お出で下さつて忘れもせぬ懷しい母校の二階で靑年

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

處女の爲に御愛導下さつた事、私共の忘れられぬ事であります。雪の細い道の所で皆さんに宜敷と元氣よくお歸り遊ばした、彼の先生は永遠に歸らぬ人となられました、白骨となつて大乘寺に眠らるゝ先生のみ魂は全國處女會の發展を祈つて下さるでせう（坂東早百合處女會員　服部たか）

○天野先生を失つた事は、私共田舍の處女にとり悲しい事でございます、けれども先生のみ魂は長へに私共處女の身を守つて下さるでせう（草深き南國の田舍にて一處女）

○記者樣何といふ凶事でせう、夢ではないか、幾度もくりかへして讀んで見ました、天野先生の御逝去！嗚呼あまりの悲しさに涙も出ません天地の神の無情を恨むのみです（鳥取縣西伯郡春日村　小原しげ子）

○天野先生御逝去遊ばされし由、當地新聞紙上にて拜見いたしましたかれて健康ならざりしとはお伺ひ致して居ましたが、そんな御重態とは思はず、お見舞狀も差上げず誠に申譯ありません（福岡縣　行德なをか）

○師と仰ぎ父と慕ひし天野先生には、手厚き看護も甲斐なく、三十五歳の壯齡を一期として果なくも歸らぬ旅路に赴かれましたとの悲報に接し、私は夢かとばかり思はれます（埼玉縣國神村　淸水麟津壽）

○我々青年處女の爲に心血を注いでおつくし下すつた天野先生の御逝去、私共處女は燈明臺を失つたも同樣であります（鳥取縣上大澤　門脇）

○天野先生、今は天國にて何をしてお出でせう、野の幸を歌つてお出になるかしら、それとも天國にて我等の事を見て居て下さるかしら、夜は星の胸に抱かれて、晝は天人たちと手に手をとつてやすらかに暮して居らるゝであらう（福島縣　田村の花）

○十一月號の處女の友はまちあぐんだかひもなくあまりに悲しい御知らせ、夢ではないかと思ひました、先生御病氣の由伺ひましてより、遙に御全快を祈つて居ましたものを（神奈川縣　百合子）

○天野先生には三十五歳を一期として、遂に黃泉の客となり給ひしとは悲しき極みであります、先生には死の際に至るまで私等處女のため、どんなに御盡力下された事でございませう（福島縣東白川郡　鐵山たみ子）

○噫大正十年十月十日何といふ悲しき日でございませう、私共全國の處女を愛し導き下さいました天野先生の御逝去なされたとは、まるで夢のやうでございます（埼玉縣入間郡吾妻村　內野しづ子）

○私は夕べの新聞紙を手にした時どんなに驚いたでせう、御全快の片時も早かれと祈つて居た天野先生は最早や私等數多の處女を後に、彼の世へ御旅立ちになつてしまつたのでした、十日の午後七時、私はあの時何してゐたのでせう、私等は何も存じません故數多の寄宿生と共に、たのしく戯れてゐた事でせう、あんなに私等處女の爲に身命をなげうつてお導き下さいましたあの先生が思ひ出すも涙ぐましうなつて來ます。（東京麴町上六番町大妻技藝女學校寄宿舍　內海千代子）

○十一月號の處女の友ほんとに悲しうございました、まだお若い御歳で二度と歸らぬあの世へ旅立なすつた天野先生、ほんとに〳〵悲しうございます（波津子）

○十一月の麥蒔の眞最中に處女の友をお送り下すつたので、直ぐ畑に鍬をなげ置き、家にて頁を開いて、はつと驚きました、あゝ何といふ不幸な事でせう、天野先生には遂に御療養がなはず、歸らぬ人とおなり遊ばされたとの事、もう力を落して畑に行く元氣も失つてしまひました、（愛知縣北設樂郡三輪村　大原靜子）

○待ちわびし「處女の友」十一月號をやうやく手にすると、見なれぬ美しい御うつしゑと共に「故天野藤男氏」の文字、全國農村青年處女の最も敬慕して止まぬ天野先生には年若くして前途有望の身を以て、あはれ永遠にかへらぬ旅にお出遊ばしたのでございました（岐阜縣　淺野のぶ子）

○御惠み深き天野先生には哀れ天國へ旅立たれしとの事、誌友の諸姉樣よ、これより後は亡き先生の命日を深く頭に刻んで、亡き魂をなぐさめやうではありませんか（群馬縣木瀬村　富岡）

○天野先生御逝去なすつた事を十一月號の御誌にて始めて知りましたはじめの中はたゞ夢の樣で幾度もくり返して讀みました（香川縣仲多度郡　岩井つや子）

○全國幾十萬の處女の師となり兄となつて、愛導して下された天野先生は最早此世には居られぬものです何といふ悲しい事でせう、私は婦人會員として、かれて先生の御高德をお慕ひ申して、折あらば親しく御教訓にあづかりたいと思つて居りましたのに（福島縣北會津郡　横山きつ子）

○秋は淋しい悲しいもの、とりわけこの秋はお優しい天野先生を失つて力を落しました、稲刈の鎌を止めては富嶽院淸泰白雲居士は天野先生などゝ淋しい感じがします（香川縣石川もと子）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

編輯を終へて

堀尾金八郎

私は天野君と一面の識もない、只僅に著書の多いのと青年團處女會の爲に盡力して居る人である、特に處女の友には常に才筆を振つて居られるといふ位しか知らなかつた、所が三十年來親交の厚い田所君が舊臘多事の際病魔に犯され編輯に苦んで居られた處から、臨時手傳つて呉れんかといふ依頼を受けた、當時既に材料は蒐集してあるから、これを整理して貰へばよいといふ事であつた、不文私の如き者の堪へざる處ではあるが、兎も角も卑見を述べて田所君を叩いた、君は直に同意されたが文章を平易にする樣にといふ事は幾度も繰り返へされた、承知の旨は答へたもの丶借筆を採る段になるとどうも思ふ樣に行かぬ、弔祭文は勿論著作の文章特に叙文の文章は全く漢文口調であり、彼の少年時代の日誌も同じく漢文口調である、之を讀み之を取り入れて行く間に、不知不識漢文口調が交つて來るのに苦んだ。

私は文言體の文章は將來國語の發達上面白いものでないと思ふ、けれども文章は簡潔のものでなければならぬと考へて居る、簡潔にしやうとすれば自然獨演體となり、平易にしやうとすれば對話的になる、讀者と記者とが同じ氣分になれば獨演體の方が力があつてよい譯だが、男性と女性とには自ら語調が一致しない、從つて言葉そのものは難澁でなくとも、女子には耳障りの樣に思はれるかも知れない、處女を讀者の主體とする本誌に此の用意を缺くのは頗る失當の感はあるが、前記の通りの事情で全く止むを得なかつたのであるから、今回の特別號に對しては故人に對する敬意を以てお許しあらんことを祈るのである。

お禮

V中央部宛に皆樣から年賀狀を頂き誠に有り難く存じました〆切まで到着の分を左に揭げ略儀乍ら誌上でお禮申上げます(記者)

北海道德島しげ子、福島縣渡邊みどり、福島縣佐々木哀屋、東京青年團中央部、埼玉縣玉谷ナツ、岐阜縣今井すゑの、群馬縣柳岡都子、滿洲島山秋香、山梨縣丸山すみ、埼玉縣新井はま子、長野縣小林實惠、福島縣下宮君代、福島縣鈴木幸作、東京丸山敏子、香川縣高橋玉ノヲ、靜岡縣影山勝、三重縣大野しづゑ、宮城縣小野寺フジエ、廣島縣高橋こたか、鳥取縣小原しげ子、愛知縣野田やむひと、福島縣下遠野まさ子、佐賀縣田口英山、福島縣佐々木まさい、福島縣山下きやの、福島縣瀧田艷子、福島縣總社會課、靜岡縣栗原香一、島根縣米田つる子、島根縣大原郡佐世村處女會、滋賀縣市所席子、福島縣安藤たゑ子、福岡縣神とらの、埼玉縣岡田保市、福島縣齋藤マツエ、福島縣大久保妙子、新潟縣本間京子、香川縣石川もと子、山口縣河田藏馬、栃木縣柳岡貞子、岐阜縣安藤さゝの、茨城縣折本節子、愛媛縣東久子、福島縣西川たまの、北海道小田久子、鳥取縣築谷綾子、神奈川縣笹野光江、香川縣井下いよ、岩手縣折壁處女會、奈神川縣矢島九亞、長崎縣佐々木しすゑ、神奈川縣大神田園子、京都府薩田好江、山口縣西松はつ江、群馬縣小池美代、岐阜縣中島つや、福島縣鴻巣秀乃、群馬縣大澤芳野、東京豐田柳子、群馬縣松島芳子、靜岡縣市川ふき、三重縣奥田大三、愛知縣山田さわゑ、群馬縣對比地こう、鳥取縣香代子、岐阜縣佐古かすゑ、福島縣淺川みさ子、福島縣岡部マツ子、岐阜縣笠井きわゑ、神奈川縣江藤梅乃、福島縣田村の花、埼玉縣小暮喜代松、島根縣竹内秀光、群馬縣小池美代子、岐阜縣笠井粂子、北海道萩順千代子、岐阜縣小池すみ子、岐阜縣柴田加賀一、長野縣藤松むま、千葉縣松川秦岳、神奈川縣遠藤宗六、東京吉澤ほの子、群馬縣眞下やす子、靜岡縣柴田くわ子、熊本縣吉岡とみを、石川縣園忠次郎、鹿兒島縣小榎のき、宮城縣保理妙子、東京吉澤ほの子

毎月一回一日發行

定價表

冊數	定價	郵稅
一冊	貳拾錢	一錢
六冊	壹圓二十五錢	郵稅とも
十二冊	貳圓三十錢	同

註文規定

○註文はすべて前金のこと
○送金は振替が便利で安全ゆへなるべくこれによられたし
○郵券代用の時は必らず一割増のこと
○前金切の時は帶封に『前金切』と印しおくゆへ直に送金せられたし
○送金のときは第何月號より第何月號迄と明記せられたし

大正十一年一月廿七日印刷
大正十一年二月一日發行

編輯兼發行人印刷人　東京市本郷區元町二ノ六六　田所楠猪
印刷所　東京市神田區小川町三十六　成巧社印刷所
假事務所　東京市本郷區元町二ノ六六　處女會中央部
發行所　東京市本郷區元町二ノ六六　處女の友發行所
振替東京六一九〇番
電話小石川五八〇八番

大賣捌　東京堂、北隆館、至誠堂　其他

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

○御注文の節は處女の友の廣告に據る旨御書添へを乞ふ○

衣服改良 裁縫講習録

これからの時代には
洋服が家庭で出來る

やうにならねばなりません、生活改善、殊に衣服改良といふことには誰も非常に注目致して參りましたが、偖てたゞ和服だけの裁縫知識から一足飛びに眞の衣服改良が出來得ませうか、申すまでもなく、誤つた試みで御座います私共はまづ生活改善の第一歩として男子や少年、少女は勿論主婦も教師も處女も和服から洋服にうつらねばなりません、そしてこれが爲にはこれら洋服を家庭で和服同様に自由自在に裁縫出來るやうにならねばなりません、斯うすれば衣服改良も知らず知らずの裡に實現されて參ります。斯ういふ主旨から本會では極めて嶄新な歐米流行の服装の中でもこれからの日本の一般家庭に最も適當である多數の繪型を選び二十數名の顧問講師の方々が熱心に研究考案せられ、どなたにも、平易に家庭で子供服も婦人服も男子服も六ケ月の間に裁ち縫ひ出來るやうに指導されて居ります、なほ他に比類のない獨特の型紙も多數提供されてゐます。（見本規則書無代進呈）

顧問

東京女子高等師範學校教授 文部省教科書調査會委員 北澤種一
和洋裁縫女學校々長 堀越千代子
山脇高等女學校々長 山脇房子
東京府立第一高等女學校長 市川源三
成女高等女學校長 宮田修
東京女子高等師範學校教授 神田順子
東京府立第三高等女學校長 小林盈
東京府立第五中學校長 伊藤長七

東京小石川區大塚仲町卅六
大日本衣服改良研究會
高等裁縫通信學校
電話小石川五五四二
振替東京五七一〇九

全國町村長會機關（派報）

新民

二月號

一部卅錢　一年三圓六十錢

□國民生活保障の五大綱領……内務省社會局長　田子一民

□公民道德と社會道德……家庭學校長　留岡幸助

▲大隈侯の偉勳……一木博士

▲過激派の失敗……山田神社局長

▲社會教育に就て……乘杉嘉壽

▲農村社會事業……小平權一

□地主小作協調の實例……各地町村長數氏

▲經濟組織の改造……村田宇一郎

▲町村の社會的施設……相田良雄

▲自治法令の研究……近藤行太郎

▲徹底せる利益分配主義……

□日本一の百姓松本喜作翁……淡海生

□自治團體と思想問題……文學博士　紀平正美

最新刊

中央報德會幹事　上野他七郎編

優良町村便覽

定價一圓五拾錢　送料六錢

内務省選奬の優良町村に就き最近の狀況を調査し、其特徴を簡潔に記せるものに附するに村勢の一覽表を以てす。座ながらにして優良町村の特色を知るべく、視察者の爲めには、道程、交通の狀況をも併せ記したれば、好個の手引たらん。本書を一讀すれば直に優良町村の要素及其の其の優良町村たるに至りし原因を知るを得べし。全國町村役場並に町村自治に關係ある有志必讀の良書なり。

發行所　東京市赤坂區溜池町三十一　中央報德會　振替東京九七〇〇

御存じですか

新時代の產物

活動的御婦人に

文部省囑托久留島武彦先生指導
美粧倶樂部山本久榮女史考案
のさかゑ髷に用ふる

さかゑバンド

ピンが入らない
決して髷が解けない
體裁がよくて
使用が簡便

婦人生活改善整容會推薦の
さかゑ姉妹品

婦人用
さかゑ頭髪ブラシ

帝國政府處定の原毛消毒濟同業組合の品質檢査に合格濟

―消毒や掃除が充分に行届いて出來ます
―木櫛と違い髪ざわりよく毛髪の發育を助けます
―髪を美しくなめらかにフケと埃をよく取ります

さかゑ櫛

―何んな消毒や掃除も思ふ様に出來ます
―丈夫で取扱に心配なく破損の憂がありません
―豐富な材料な以て機械で造るから安く出來ます

今スグお求め遊ばせ

マーガレット商店

東京市赤阪區田町一丁目壹　電芝五八四五番
大阪市東區內淡路町壹丁目　九電本三五七九番

青年圖書

大久保四州著（第十四版）

青年訓話 軍神乃木

乃木將軍の感化の力の偉大なる事は本書が日に新に熱狂的大歡迎を受くるによりても知らる。

定價五拾錢＝送料四錢

月刊雜誌 帝國青年

青年の好伴侶▲指導者の研究舞臺▲修養研究向上娛樂▲青年團の連絡▲定價一部二十錢送料一錢▲半年分一圓廿錢▲一年分二圓三十錢稅共

青年團中央部編纂
第四回青年團講習會講習錄

新時代の青年團

新時代に處して青年團體を如何に指導すべきかの問題は二十有餘大家の權威ある講演に依り解決さる

定價一圓五十錢＝送料六錢

青年團員手牒

定價十二錢＝送料三部迄二錢

今や日本全國の青年團は益々結束を堅うして團員相互の連絡を圖り互ひに激勵修養する爲に團員各自に『青年團員手牒』を所持せしむ而して本手牒は當に天下を風靡しつゝあり。

帝國青年の歌

定價五錢＝送料九部迄二錢

緬羊の飼ひ方

定價六十五錢＝送料四錢

東京市赤坂區溜池町三十一　**帝國青年發行所**　振替口座東京二一一六八番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

電燈の進步に伴はざる
笠の惱み！
電燈創始時代の單純偏平な笠は
時代後れを示します
形と色とは審美的に
配光は學理的に作り上げられたる
乳色硝子製
ベルリア反射笠！
之は夜間家庭平和の象徵です
神奈川縣川崎町
東京電氣株式會社
出張所販賣部
東京市京橋區銀座尾張町一ノ一 電話京橋 長一三七一・一三七〇
一三七二・
大阪市西區阿波堀通一ノ五 電話新町 長六三〇・八九八
長八九九・
門司市東本町三ノ二九 電話 長四六・六八二
此雜誌名及び商品名御報の方へは說明書進呈
三尾
D-21

○御註文の節は 處女の友 の廣告に據る旨御書添へな乞ふ○

親友

毎月一日發行　定價一部金拾五錢　一ヶ年壹圓七拾錢

青年男女の精神修養、知識の啓發提携親睦を計るに資する我が帝國親愛團は茲に面目を一新して整々堂々と進むに至る。眞に自分を愛する青年處女は己が爲に其機關誌を手にして大に共鳴せられよ！

◎五厘切手廿枚封入申越へ見本に一部送る

發行所　東京神田美土代町三ノ十四　帝國親愛團　振替東京四二四一四

內務省囑託 處女會理事 天野藤男先生著　山本鼎畫伯裝幀　定價壹圓參拾錢 特價金壹圓

修養小說

都に憧れて

田園青年處女が確たる信念なくして花の帝都に憧憬する傾向を都市の誘惑を活ける背景として戒むると共に地方婦女の修養機關たる處女會の設立を慫慂する事を主眼として、天野先生が青年男女の善導啓發に努められた事實に基いた小說で家出の巻誘惑の巻復活の巻より成り教訓的の意義大なるものであり、青年處女の必讀すべきものである。

特價奉仕

內務大臣床次竹二郎閣下題字　田子內務社會局長序　天野藤男著

文部大臣中橋德五郎閣下題字　乘杉社會教育課長序　同　清子著

改造と向上

青年と處女の叫び

特價貳圓五拾錢

洋裝四六版函入

送料拾八錢

青年子女の問題は邦家社會の大問題にして、其誘導化育に力を注ぐべきは言を俟たざる所なるが、本書は全國地方青年男女の希望、不平、煩悶等を集輯分類し、之に一々著者の短評を加へたもので、地方青年團並處女會の讀物として必要缺くべからざる好著であり、又一般青年男女の修養書として推奬措く能はざる良書である。

發行所　東京神田區美土代町三　振替東京四二四一四番　親愛社

女子技藝材料並に器具

袋物。造花。刺繡。縮差。摘細工。編物。組紐。果實。壜細工。裁縫。絞り用具及染料。履物用布並ニ器具

女子高等師範學校
女子美術學校
共立女子職業學校
御用

タッチング編物
フランス刺繡
材料並ニ器具

倉持本店

東京本郷區弓町二丁目
電話小石川二四二五番

地方部 振替東京壹七壹壹番
出版部 振替東京貳七七九貳番

無代進呈
定價表は御申込次第無代進呈します

懸賞募集

短編小說
十五字詰二百行以內
一等拾圓。二等五圓。三等三圓。

傳說奇談逸話
其他青年子女百般讀物
一等三圓。二等一圓。三等以下略。

民童謠短歌俳句
勿論 募集

詳細は雜誌『彗星』誌上にあり次號より掲載す

パンフレット化さむとする刊行書！雜誌化さむとする新聞！新聞化さむとする雜誌！三者の樞要を奪蒐壓卷して皆様の求むる物！憧れる物！又云はむとする所の一切を滿載！！剩すなきは？彗星！！

圖時潮と文藝圖

慧星

新春號內容一部

小說 新開地……三彌
面白科學 曆の話……記者
娛樂 春の遊戲 春の料理……あさ
支那革命 山中の賊……秋野
お伽噺 鳥獸會議……其他
傳說稗史 百犬物語……滿載

一部 金十二錢
六部金五十五錢
十二部金九十五錢
送料共
見本は二錢郵券六枚封入

文學博士 大槻文彥
文學博士 金澤庄三郎
先生監修
大正版 特製函入

忽廿六版

作文大觀

定價三圓 送料十二錢

文學士坪井孝横田市一兩先生が梏居數年、心血を傾注して漸く大成せる壹千百餘頁の大作文書。字句の豐艷細緻なる實に本邦空前。他に匹敵すべき良書なき事を斷言す。總紙須背皮金文字入にて裝幀又頗る優美萬人萬戶の最必需品！！

綠蔭散史著
婦女の手紙
金四拾錢 送料六錢

全二冊
女子消息文範
金壹圓半 送料八錢

奇怪冒險小說

黑岩淚香先生譯
淚香傑作集 片手美人
天金函入
金一圓五拾錢 送料八錢

押川春浪 後藤矢峰 共著
蠻勇軍團
怪魔艇
各金四拾錢 送料四錢
壯絕快絕 痛快無比

邑井一講演
赤穗義士銘々傳
四百五十餘頁 金壹圓卅錢 送料八錢

東京市外代々木山谷一〇七番
青海社書籍部
振替口座東京五七八三九番

に遅れない丈の修養は是非必要であります。高等女學校に行けない方々の為に拵へたのがこの

新制 高等女學校講義録

（十五ケ月で卒業出來る）

であります。内容見本規則等はお申越し次第無代でお送りします。

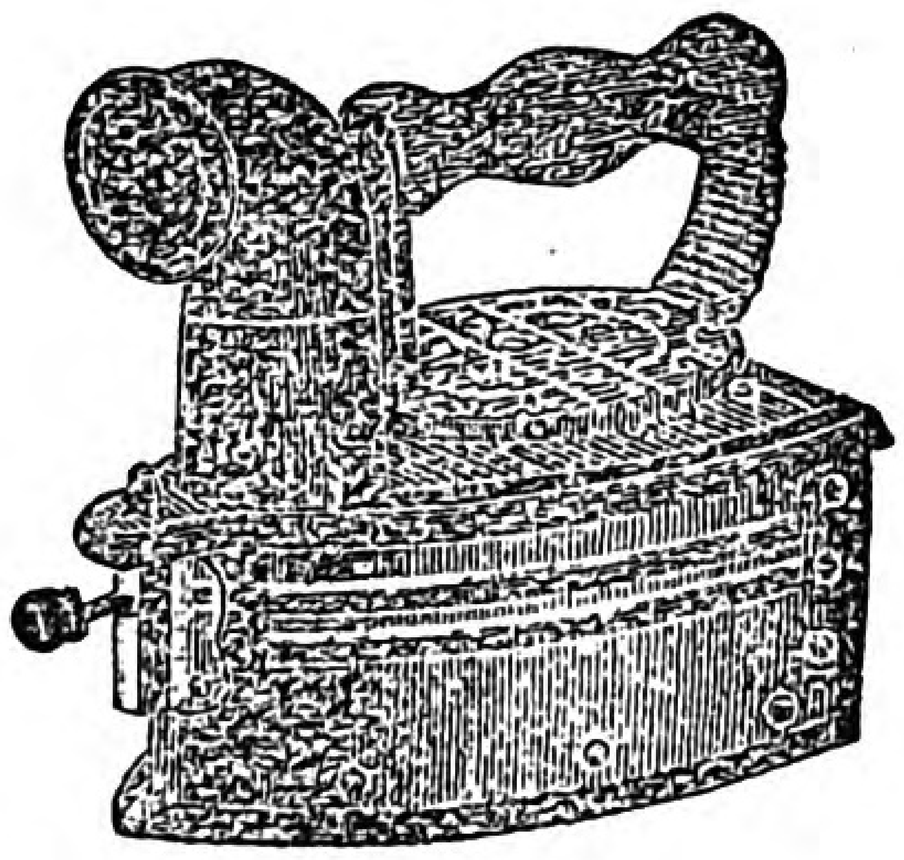
會長　貴族院議員子爵 粥花高等女學校長　清岡長言
顧問　實踐女學校長　下田歌子
顧問　女子醫學專門學校長 東京至誠病院長　吉岡彌生
學監　日本女子商業學校長　嘉悦孝子
講師　專門の大家先生　三十八名執筆
月謝　壹圓貳拾錢　毎月二回發行

東京市麴町區土手三番町廿壹番地
日本女子商業學校内

大日本婦女教育會

電話番町四三四八番　振替東京五三八六四番

新案特許



家庭ニナクテナラヌ寶火のし

一全部ニツケル鍍金なれば錆の出る虞れなく體裁優美にして堅牢精確なり。

一火の起り最も能く火力調節自在にして灰の飛ぶ憂ひなし

一蓋は蝶番にして蓋止は新案の自動的なれば火傷する恐れ更らになし。

一總量重くして底は船形なれば布帛の滑り能く完全に皺伸しが出來ます。

定價金四圓五十錢　送料三十五錢

東京市日本橋區人形町通り

發賣元

島津金七商店

電話濱町七七六番　振替東京一〇九一五番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

一滴毎に美しさを増し
肌白くなる―

美人となるに
此の二タ品は
離されません

髪黑くなる―
東京の髪結さんが用ふ

ホーカー液

ホーカー美髪液

肌アレ、日ヤケをふせぎ
キメを細かに色を白くし
白粉のノリノビを程良くし
髯剃後の剃刀負をふせぎ
子供衆の肌を丈夫にする
○二十八錢　五十八錢　一圓十五錢

最寄の店に品切の際に三錢切手か振替で直接御注文下さい、スグ送ります。（送費六錢）
ホーカー白粉本舗
堀越嘉太郎商店
東京神田和泉橋
振替東京一五六

漆のやうな黑髪となる
匂ひ豐かに頭も輕くなる
クセ毛、チヾレ毛をなほし
拔毛を止め、毛足を早める
粘らずに美事な艶を増し
○三十二錢　五十七錢

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

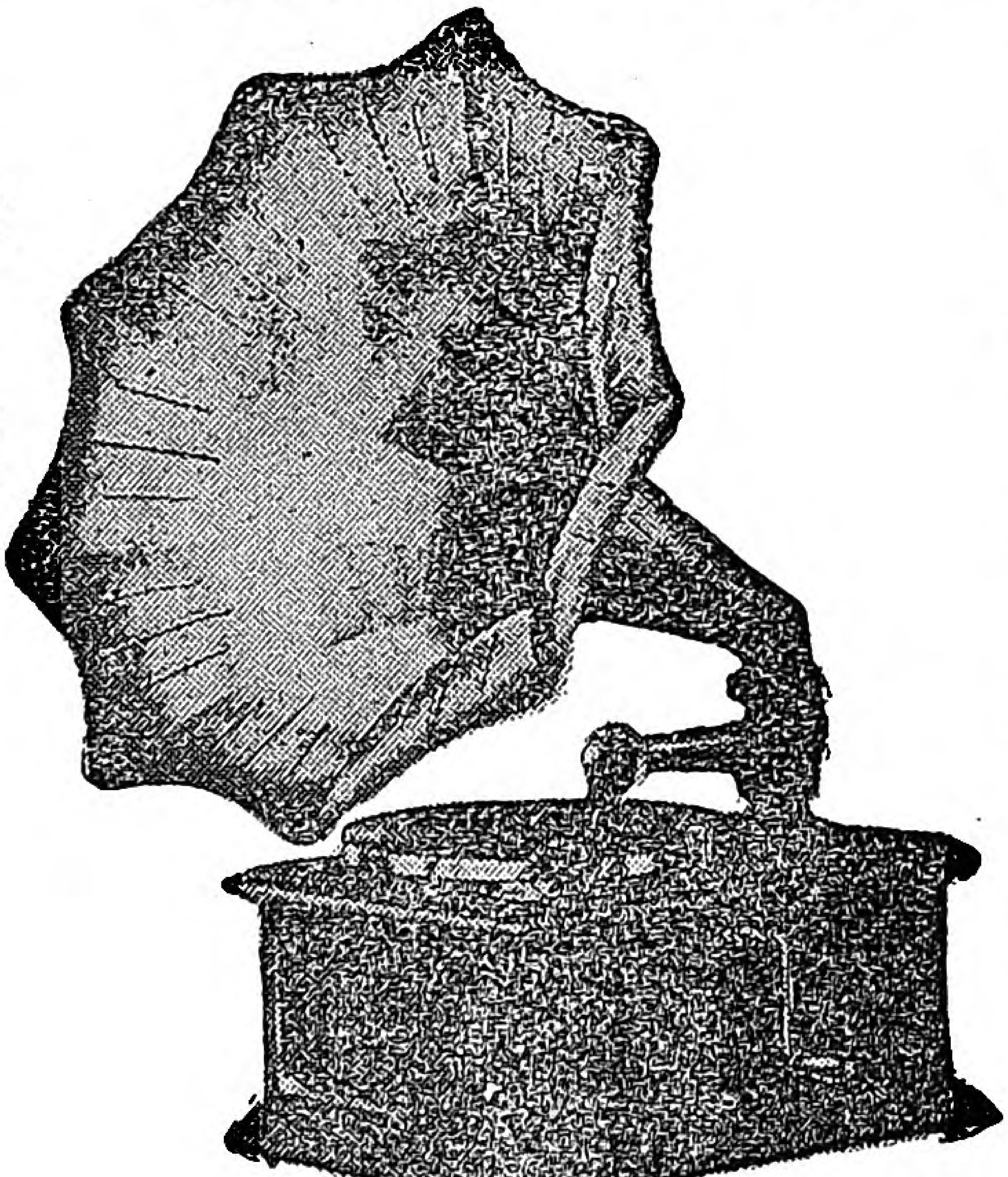
最新式兩用蓄音器

「處女會の歌のレコードがあります」

一、處女會の歌(野の幸)……唱歌者 長坂好子

一、帝國青年の歌……同 ピアノ伴奏 梁田貞 弘田龍太郎

喇叭を取り附けたる圖



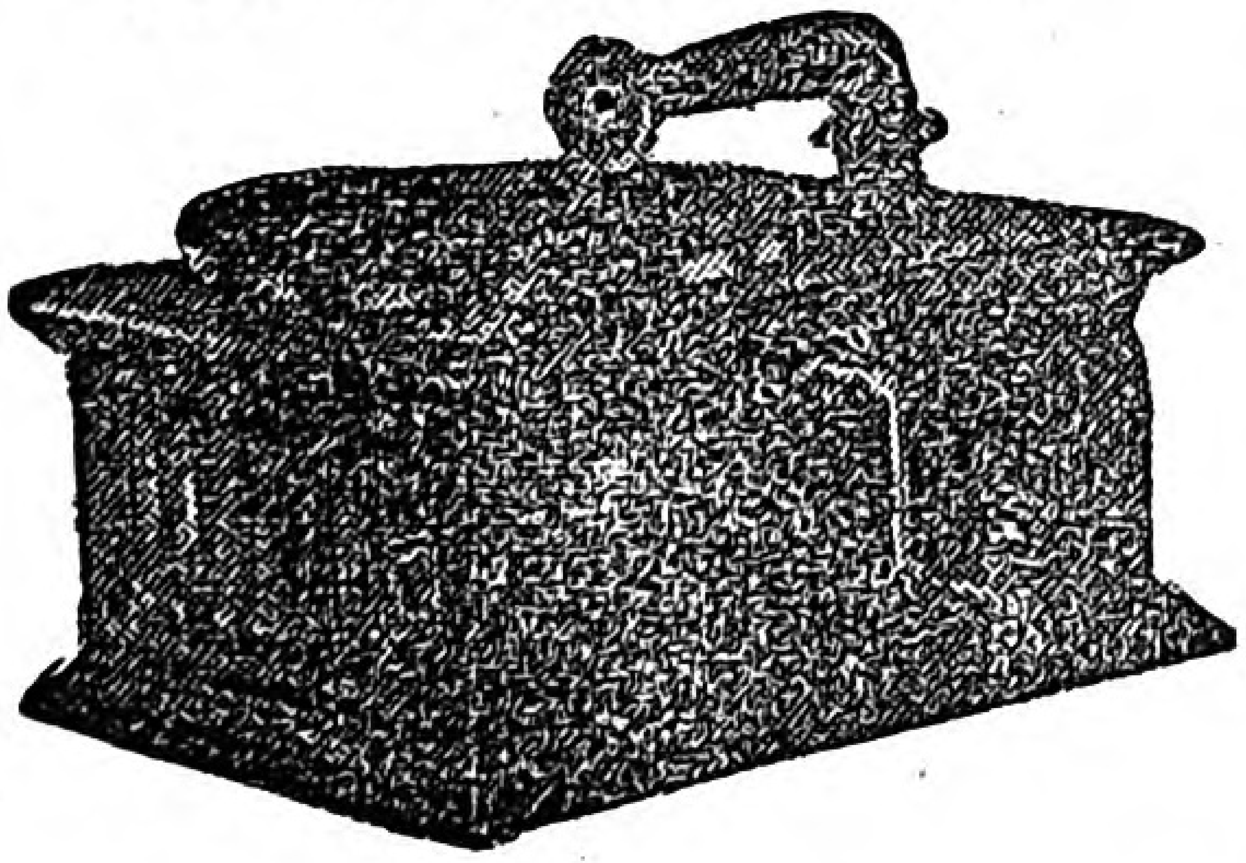
說明

一、無喇叭の蓄音機を買はれ、「如何にも發音が小さくて聞き惜い」と不滿足に思はるゝ方、又喇叭附を買はれて「小人數の座敷では喧し過ぎる計りではない、喇叭が邪魔になるとか、乃至旅行用に不便だ」とか御仰せらるゝお方の爲双方の缺點を補ふ事が出來る、日本最新の發明兩用蓄音器と云ふのを作りました、つまり一つの器械で無喇叭ともなれば喇叭附ともなるのです。

一、原動機は歐米最新型中の粹を拔き、簡單で堅牢を主とし、發音器(サウンドボックス)も亦精良で發音明晰です。其他發條、外箱、喇叭等孰れも現代に於て尤も進歩した蓄音器であります。

◇弊社が有力に代表し居られざる地方に代理店を新設又は增設す、希望者は申込まれよ。

無喇叭にしたる圖



値段

(値段に二通りあります)

無喇叭のみの場合 定價 金五拾八圓也

兩用の場合 同 金六拾八圓也

富士山印東京レコード發賣元

東京蓄音器株式會社

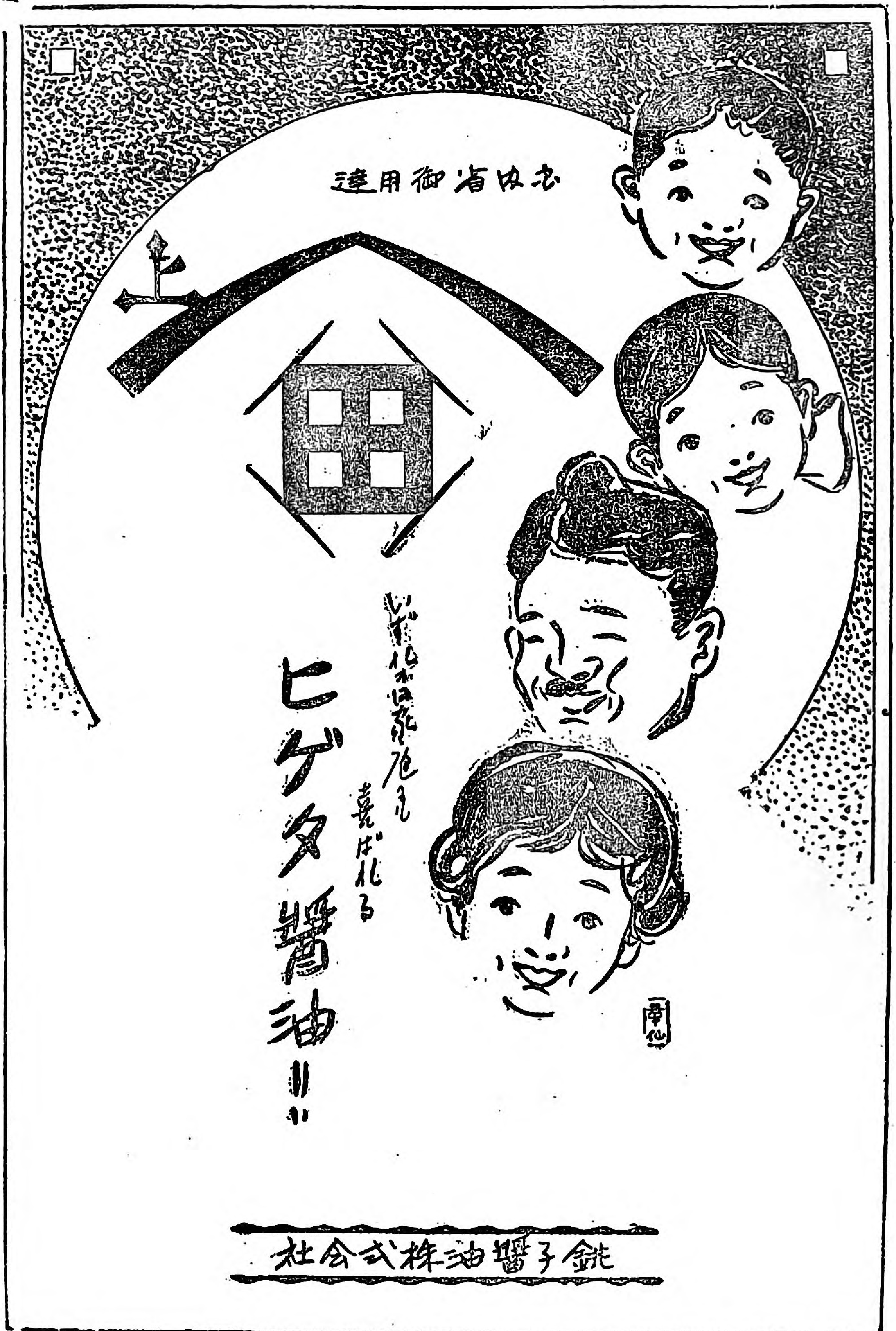
東京日本橋區新右衛門町

電話本局五〇二・四二四四番

振替東京一九四九番

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN


宮内省御用達
喜ばれる
ヒゲタ醤油!!
銚子醤油株式会社

大正二年二月二十□日第三種郵便物認可

御料 御園白粉

長くも御料に召させ給ふ御園白粉及御園化粧品は最新の科學と容易に得難き經驗に依り、原料と芳香を精選し衛生と美容の目的に適ふ配合を以て謹製したる眞に本邦唯一の理想的優良化粧品なり。

御園白粉は純無鉛製にして殺菌消毒を施したれば衛生上有效無害にして然もノリよくノビよく濃淡自在に美しく着き、決して斑を生せず、化粧榮の美しく且高品なる事他に其比を見ざる模範品なり。

ねり製 御園白粉
水白粉 御園の月
淡化粧用 御園水白粉
粉白粉 御園の花
打白粉 御園撫子
懐中用 御園紙白粉
濃厚化粧水 御園四季の花
白色化粧水 御園白露
化粧水 御園の露
濃化粧用白粉下 御園の蕾
洋風化粧料 御園クレーム
花精 御園香精
化粧香水 御園の橘
頭髪香油 御園香油
粉製歯磨 御園歯磨
日焼防止化粧料 御園ルチゲン

本舗 伊東胡蝶園　發賣元 丸見屋商店

東京市本郷區元町二ノ六六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN